

訂正 新撰 地圖 日本之部

本書ヲ見ルモノハ

ヲ必ズ参照スベシ



15-48

中 等 教 育
地 理 科 教 科 用 書

訂 正

新 撰 地 理

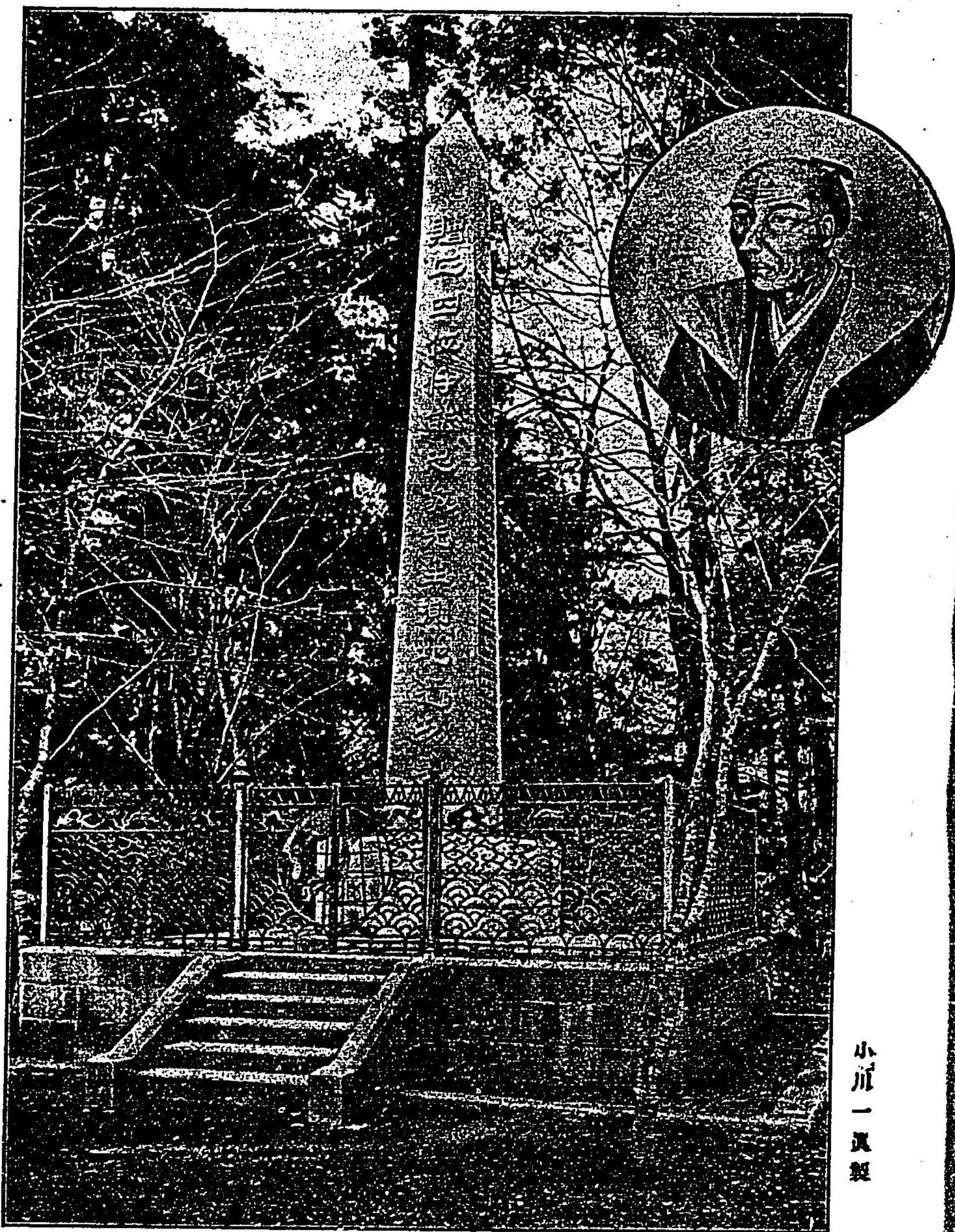
日 本
之 部
全

理 學 士 山 上 萬 次 郎 編

東 京

合 資
會 社

富 山 房



小川一眞製

贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表

先生名忠敬字子齊號東河下總佐原人精星曆測地術寬政文
政間奉幕府命測量五畿七道及蝦夷諸島地形躬歷險阻涉風
濤閱十八歲全國圖成進呈賜糜米賞之事具佐藤一齊所撰墓
誌 王政維新搜求圖籍而地圖為最要乃諭先生曾孫源六獻
其所製全國實測圖實測錄江戶實測錄等數部東京地學協會
具申其功特旨追贈正四位於是會員協議欲建銅柱表之宮內
省賜若干金海內同志亦捐貲相助明治廿二年四月十三日錄
造竣功建之東京芝公園之圓山以藏先生所用測量器械於其
中蓋自先生歿今閱六十年外交漸盛修兵備營商業航海來往
多賴其書嗚呼偉矣哉

新撰地理 日本之部

緒言 余於從來著書ニ大改正ヲ加ヘ文部省ノ教科細目五
參酌シテ新撰地理日本之部ヲ編述セ以テ直ニ於中等學校
ノ教科用ニシテ世ニ行ハルニ至レリ然レドモ其後學友
及セ教授當局者以批評ニ接シ更ニ大訂正ヲ施シ以テ本
書ヲ編纂スルニ至レリ

本書ノ特色左ク如シ
一、地方誌ヲ先ニシ總論ヲ後ニシ以テ教授上正當ナル順
序ニ從ハルニシテ
一、始メニ汎論ヲ附シ終リニ結論ヲ附シ以テ首尾ノ貫通
ヲ計ルニシテ

一、地方誌ノ編述ニハ旅行體ト鐵道別體トヲ折衷セルコト

一、歷史上及ビ産業上ニ特ニ重キヲ置キタルコト

一、地方誌各部ノ總論ハ交通ヲ以テ概括シ、特論即チ各府

縣誌ハ産業ヲ以テ概括セルコト(ト早ニ地名物産ノ彙覽ニ止マラズトハニニコレヲ當ル)

者ノ技藝ニ對シテ

一、繪圖及ビ總圖ヲ本文中ニ入レ地圖ハ終トニ附シタル

コト但シ練習圖ハ本書ニ加ヘズ

一、左記ノ諸君ハ新撰地理日本及ビ外國之部第一版ニ對

シ實地教授上ノ批評ヲ編者ニ報道セラレタリ本書ノ訂正

ニ於テコレ等諸君ニ負フ所頗ル多シ爰ニ特記シテコレヲ

鳴謝ス

小川通榮君

守屋荒三君

加藤庄三郎君

齋藤喜三郎君

小林房太郎君

草野甚太郎君

三宅由太郎君

三城豐造君

水井文吉君

中堀貞五郎君

井上長太郎君

飯山七三郎君

明治三十二年九月

山上萬次郎識

目次

第一章 緒言

第二章 日本の地理

第三章 日本列島の地誌

第四章 日本列島の地誌

第五章 日本列島の地誌

第六章 日本列島の地誌

第七章 日本列島の地誌

正訂 新撰地理 日本之部 目次

汎論

前篇 地方誌

第一章 中區の東部

區域

山系

水系

沿岸

交通

東京府

埼玉縣

目次

頁

一

五

六

六

九

二

四

五

八

神奈川縣……………一九

千葉縣……………二二

茨城縣……………二四

栃木縣……………二五

群馬縣……………二七

福島縣……………二八

宮城縣……………三〇

岩手縣……………三二

青森縣……………三三

秋田縣……………三五

山形縣……………三七

新潟縣……………三八

長野縣……………四一

山梨縣……………四四

産業……………四五

第二章。中區の西部……………四九

區域……………四九

山系……………四九

水系……………五二

沿岸……………五六

交通……………六〇

静岡縣……………六二

愛知縣……………六五

岐阜縣……………六八

三重縣.....六九

福井縣.....七三

石川縣.....七三

富山縣.....七五

滋賀縣.....七六

京都府.....七八

奈良縣.....八三

大阪府.....八五

和歌山縣.....八八

兵庫縣.....九〇

岡山縣.....九四

廣島縣.....九六

山口縣.....九八

島根縣.....九九

鳥取縣.....一〇二

德島縣.....一〇三

高知縣.....一〇五

愛媛縣.....一〇八

香川縣.....一〇八

大分縣.....一一〇

宮崎縣.....一一三

鹿兒島縣.....一一三

熊本縣.....一一六

長崎縣.....一二八

佐賀縣.....一二二

福岡縣.....一二三

産業.....一二五

第三章。北區.....一二九

一、北海道本嶋(北州).....一二九

區域.....一二九

山系.....一二九

水系.....一三一

沿岸.....一三三

交通.....一三三

イ、太平洋斜面區域.....一三四

ロ、オウツク海斜面區域.....一三七

ハ、日本海斜面區域.....一三八

二、千嶋列島(千島國).....一四〇

産業.....一四二

第四章。南區.....一四三

一、琉球群島(沖繩縣).....一四四

二、臺灣.....一四七

區域.....一四八

山系.....一四八

水系.....一四九

沿岸.....一五〇

氣候.....一五一

人種.....一五二

交通.....二五三

 北部(臺北縣).....二五四

 西部(臺中縣).....二五六

 東部(臺東廳).....二五七

 澎湖群島(澎湖廳).....二五八

 產業.....二五九

一 後篇 總論.....二六〇

 第一章 天然地理.....二六一

 位置.....二六一

 廣袤.....二六一

 海岸線.....二六一

 港灣.....二六五

 海峽.....二六五

 環島嶼.....二六六

 半島.....二六九

 岬角.....二七一

 地勢.....二七二

 山系.....二七四

 水系.....二七九

 氣候.....二八〇

 天產.....二八八

第二章 住民.....二八九

 種族.....二八九

人口.....一九一

教育.....一九二

美術.....一九三

宗教.....一九四

第三章。政治.....一九七

政體.....一九七

區劃.....一九九

兵備.....二〇〇

外交.....二〇九

第四章。生業.....二二一

山林業.....二二一

牧畜業.....二二二

水產業.....二二二

農業.....二二三

鑛業.....二二四

工業.....二二五

商業.....二二七

交通.....二二三

結論.....二三八

附錄。鐵道區劃表。行政區劃表。人口一覽表.....二一六

東京市街(銀座通)……………一六
 宮城二重橋……………一七
 氷川神社……………一八
 横濱港……………二一
 野嶋崎燈臺……………二三
 水戸借樂園……………二五
 日光東照宮……………二六
 蠶絲……………二八
 磐梯山(破裂後二週間)……………二九
 松嶋……………三一
 岩手山……………三三
 三本木牧場……………三四

正印新撰地理之日本挿圖目錄

富士山遠景……………八頁
 東京市街(銀座通)……………一六
 宮城二重橋……………一七
 氷川神社……………一八
 横濱港……………二一
 野嶋崎燈臺……………二三
 水戸借樂園……………二五
 日光東照宮……………二六
 蠶絲……………二八
 磐梯山(破裂後二週間)……………二九
 松嶋……………三一
 岩手山……………三三
 三本木牧場……………三四

土崎港……………三六
 月山々頂神窟……………三七
 高田の雪……………三九
 越後尼瀬石油坑……………四〇
 善光寺……………四二
 淺間山……………四三
 富士川の川舟……………四五
 佐渡礪山……………四七
 富士山頂劍ヶ峯……………六三
 名古屋城……………六六
 長良川の鶉飼……………六八
 伊勢神宮……………七〇
 敦賀港……………七二
 金澤城……………七四

立山雄山神社……………七六
 琵琶湖……………七七
 京都御所……………七九
 天の橋立……………八〇
 製茶……………八二
 春日神社……………八四
 大阪城……………八六
 那智の瀧……………八九
 神戸港……………九一
 舞子濱……………九二
 岡山後樂園……………九五
 嚴嶋……………九七
 出雲大社……………一〇〇
 伯耆の大山……………一〇三
 鳴門……………一〇四

我邦の鯨蠟(舊式)……………一〇五
 製鹽……………一〇七
 小豆嶋寒霞溪……………一〇九
 耶馬溪……………一一一
 霧嶋山天之瓊矛……………一二二
 櫻嶋……………一二四
 熊本城……………一二七
 長崎港……………一二〇
 製陶……………一二三
 早瀬海峡……………一二四
 北海道のアイヌ人……………一二六
 札幌……………一二九
 北海道の物産……………一四三
 琉球の住民及植物……………一四五
 首里中山門……………一四七

臺灣の支那人及び蕃人……………一五二
 蕃人の首棚……………一五三
 臺北……………一五五
 日本全國……………一五九
 港灣……………一六三
 海峽……………一六四
 嶋嶼ノ一……………一六六
 嶋嶼ノ二……………一六八
 半嶋……………一七〇
 岬角……………一七二
 日本地勢畧圖……………一七四
 山脈……………一七六
 水系……………一七八
 湖沼……………一八〇

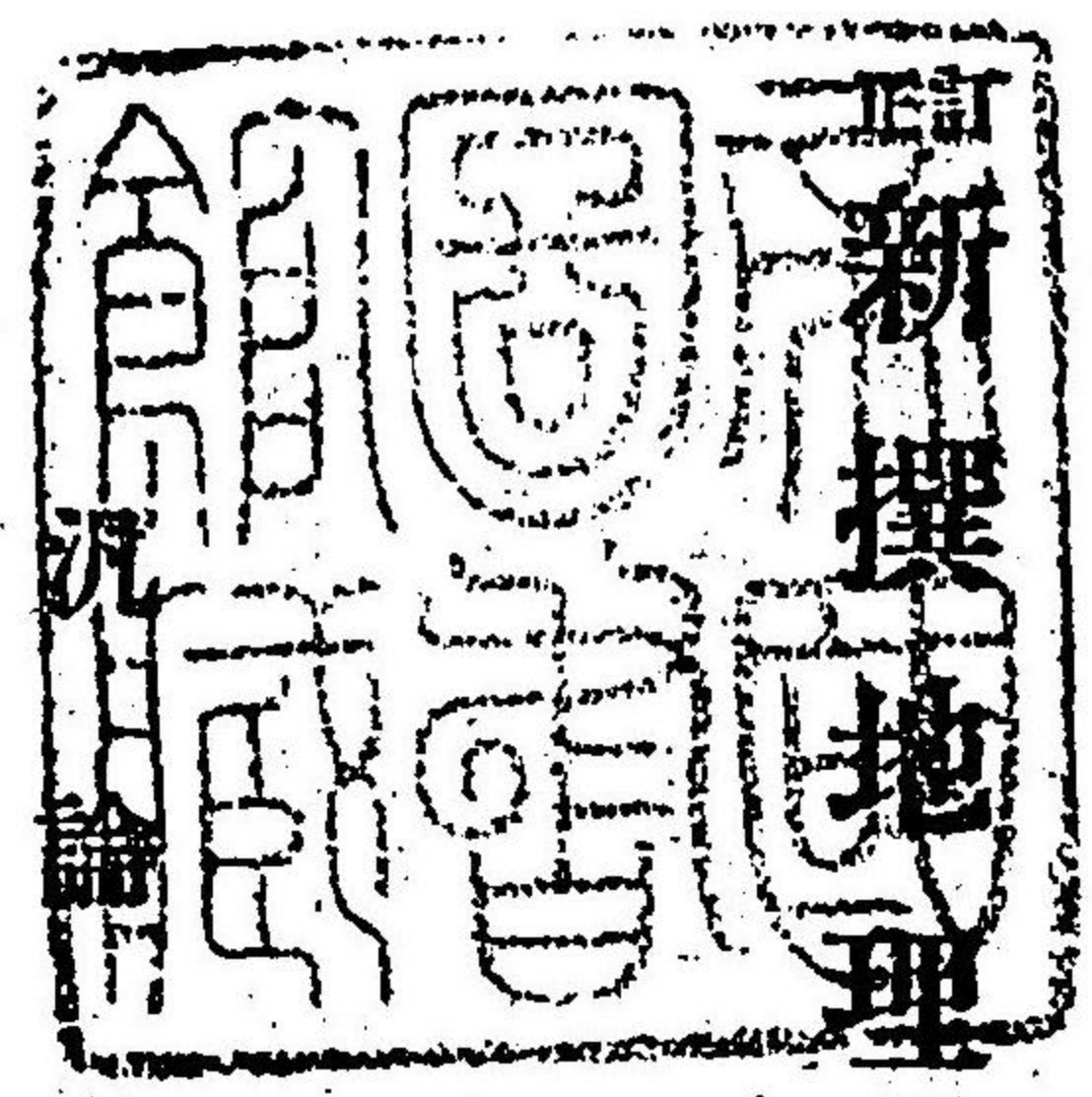
本邦全年之雨量……………一八二
 全年平均等溫線……………一八四
 日本近海之海流……………一八六
 人口之疎密……………一九〇
 東京帝國大學……………一九二
 湊川神社……………一九四
 帝國議會……………一九八
 畿道國別……………二〇〇
 行政區劃……………二〇二
 海軍區及師管區……………二〇六
 琵琶湖の疏水……………二一六
 開港場……………二一九
 交通……………二二二
 雪中汽車運轉……………二二五

訂正 新撰地理之日本挿圖目錄終



日本之部

理學士 山上萬次郎編



位置

四隣

我大日本帝國は、アシア洲の東方、太平洋の西北部に位し、本洲、北海道、四國、九州及び臺灣の五大島と、數多の島嶼とより成り、東北より、西南に亘る、千島と、臺灣とは、其兩端に在り。千島海峽を隔て、千島と相對するは、ロシア領カムチヤツカにして、宗谷海峽によりて、北海道と相對するは、ロシア領樺太島なり。支那と、朝鮮とは、日本海及び支那東海によりて隔てられ、アメリカ合衆國領のフィリッピン諸島とは、バ

況論

山系

シ―海峽によりて分たる。
我國の地勢は、崑崙、樺太の二大山系によりて、定まれり。崑崙山系は、西南より、樺太山系は、東北より來り、富士火山脈の近傍にて相會す。火山脈には、富士火山脈の外、北に千島、南に霧島の二脈あり。活火山亦少からず。

斜面

我國は、地形狹長にして、山脈中央に連り、海洋に向ひ傾けるを以て、自ら五箇の地域に分たる。即ちオホツク海、日本海、支那東海、太平洋及び瀬戸内海の五斜面區域にして、何れも地域狹きが故に、河流概ね短小なり。然れども、山脈に沿ひ流るゝものは、稍長大にして、灌溉交通共に便なり。

沿岸

我國は、面積に比し、海岸線頗る長く、オホツク海、日本海に濱せる、北海道及び本州の沿岸は、屈折少く、港灣稀にして、支那東海、太平洋に臨める、臺灣及び四國の海岸は、出入多からざれども、九州及び本州の沿岸は、屈曲甚しく、港灣に富む。

交通

かく、我國は、四周海を繞らすにより、頗る運輸交通の便あり。東は、遙に、アメリカ洲に至るべく、南は、オセアニア洲、西は、アジア洲沿岸は勿論、遠くヨーロッパ洲に達すべし。

氣候

臺灣の南部は、熱帯に入り、千島の北部は、寒帯に近きを以て、寒暑の差少からずと雖も、國の大部分は、温帯中に位し、且海水に圍まるゝを以て、寒暖中和を得、風光頗る佳なり。

産業

我國は、地味概ね肥にて、農産物多く、領海廣くして、水産は富む。礦物は、種類甚だ多く、製造業目を追ふて盛あり。

人口

我國は、人口甚だ稠密にして、凡四千五百餘万あり。

我國は開闢以來他國の侵畧を蒙らず、一種特別なる國體をなす。政體は古來多少の變遷ありしが、近年外國と交通を開き、百事改進するに當り、一變じて東洋唯一の立憲君主制を採り、國勢日に益盛んなるに至れり。

前篇

地方誌

我國(臺灣を除き)を五畿八道に大別し、更に八十五國に分す、今便宜上、全國を左の三區に分つ。

- 一。 中區……………本州、四國及九州。
- 二。 北區……………北海道本島及千島。
- 三。 南區……………琉球及臺灣。

我國は畧ぼ三箇の弓形を成し、本州、四國、九州は中央に位し、北海道、其北に、琉球及び臺灣、其南に接す。中央の三大島は、地勢畧ぼ同一なり。而して、富士火山脈の腹背兩部は、數多の著しき差異あるを以て、中區を更に分て、二となす。

- 一。中區の東部……富士火山脈以東の府縣。
- 二。中區の西部……富士火山脈以西の府縣。

第一章

中區の東部

(區域)

東京府、埼玉縣、神奈川縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、群馬縣、福島縣、宮城縣、岩手縣、青森縣、秋田縣、山形縣、新潟縣、長野縣、山梨縣

(山系)

本部の山脈は、所謂樺太山系に屬し、大別して三派を走り、陸前に入り、牡鹿半島となり、有名なる金華山に至り、仙臺灣の爲めに斷絶せられ、再び阿武隈川口の南に隆起し

其一 山系

區域

其二

吾妻山は明治二十六年五月二日磐梯山は全二

其三

山勢漸く屈曲して、内地に入る。北上山脈には、早池峯、阿武隈山脈には、八溝山、筑波山等あり。關東山脈には、著しき高峯なしと雖も、秩父山彙、小佛峠等稍有名あり。

其二は、本州東北部の中央を南走し、漸次内方に彎曲し、那須岳より西に折れて、岩代、下野の國境を通過する、希釋山脈となり、更に進みて三國山脈となり南走す。此大山脈は、分水山脈と稱せらる。此山脈には、恐山、八甲田山、岩手山、藏王山、榛吉山等の高峯あり。岩代には、吾妻山、磐梯山等聳れ、下野には、那須岳、男體山、上野には、赤城山、榛名山、妙義山等あり。信濃、上野の界なる白根山、四阿山によりて、富士火山脈に接す。

其三は、分水山脈と並行し、日本海に濱せる火山脈なり。此火山脈は、陸奥の岩木山を起點とし、鳥海山、月山となり、飯豊



富士火山脈

山を経て、分水山脈に合す。これを羽越山脈と稱す。羽越山脈の西北に並行して、噴起せる小火山脈あり。羽後の男鹿半島より、越後の彌彦山、米山を経て富士火山脈に接す。

富士火山脈は、遠く南洋諸島より、硫黄島、小笠原島を経て、豆南諸島に至り、大島の三原山、伊豆の天城山、相模の箱根山を過ぎ、富士山を経て、八

飛騨山脈は本邦中最高の地域なり。乗鞍岳の高さ一萬四百尺あり。

岳、妙高山、焼山に終る。

信濃の東北部は、富士火山脈に連り、關東八州との境界をなす。淺間山は、此脈中にある大火山なり。西方飛騨、越中諸國との間に、飛騨山脈ありて、鎗岳及乗鞍岳、其中に聳る。御岳は其南に峙つ。木曾山脈は國の中央より、西南に走る。

甲斐の西部には、赤石山脈の駒岳、地藏岳、七面山、身延山等連續し、東部には、關東山脈に屬する諸山あり。南境には、富士北境には、八岳ありて、地勢險峻、自ら別天地をなす。

(水系)

本部は、其中央を貫通する分水山脈によりて、太平洋及び日本海の兩斜面區域に分れ、河流は、此山脈より發して、右兩海に入る。太平洋斜面區域は、那須岳と、八溝山とを連接する。一連の低山脈によりて、更に南北に二分せらる。以

水系

太平洋斜面區域

水系

奥の平野は米穀生絲の産地なり

南は即關東の平野にして、地肥に農業に適し、三國山脈に發する利根川、東南に向ひて流れ、關宿にて江戸川を分派し、本流は、鬼怒川と會して、銚子口に注ぐ、長さ七十三里、舟楫灌漑の便極めて多し、其西には荒川、下流を隅田川といふ、多摩川、馬入川あり、其東には那珂川あり。

利根川の下流は、霞浦、周回三十六里、北浦と通じ、其南方に、手賀沼、印旛沼、周回十二里等あり。

中禪寺湖は、日光山中にあり、周回八里、海拔四千三百尺、風景頗る佳なり、富士山の麓には、山中、河口等の諸湖あり。

八溝山以北の太平洋斜面區域は、北上、阿武隈兩大川の灌漑にして、奥の平野とあり、北上川(六十里)は、南流し、阿武隈川(五十里)は、北流し、共に仙臺灣に注ぐ。

日本海斜面區域

越後の平野は長さ四十里に富み、米産に富み、越後二百萬石の稱あり

小河原沼、周回十三里餘、及び十和田湖、周回十里、は陸奥に、品井沼、周回五里半、は陸前にあり。

日本海斜面區域は、海岸に近く、火山脈走れるを以て、太平洋斜面區域の如き河系を成さず、唯越後に、本州第一の長流、信濃川及阿賀川あり、信濃川(八十八里)は、信濃の東境に發し、犀川を合せ、東北流して、越後の平野を過ぎ、阿賀川は、岩代より來り、川口に近く海に入る。

信濃の中央には、富士火山脈及飛驒山脈の餘脈、一の分水界をなし、天龍川及び木曾川を太平洋斜面區域に、千曲川及び犀川を日本海斜面區域に向はしむ。

諏訪湖、周回四里、は、信濃にあり、天龍川ここに發す、猪苗代湖、周回十六里、は、岩代にあり、其水、日橋川となりて、越後に入

る阿賀川これなり。

越後平野の北方には、最上川、御物川、能代川あり、皆沿岸の火山脈を横断す、獨り岩木川は、山脈に沿ひ、北流す。

八郎潟は、羽後にあり、周回十五里、男鹿半島これを抱く。

(沿岸)

本州の東海岸、大吠崎以南は、岬灣頗る多く、上總

の大東崎に至る沙濱は、九十九里濱と稱し、屈指の漁業地なり。

安房の野島崎を廻れば、即東京灣にして、南北凡十三里、房

總半島の富津崎と、三浦半島の觀音崎と、相對して其口を扼

す。三浦半島の西は、相模洋にして、陸地に近く江島あり。

大島は、東京の西南三十二里の海上にあり、昔源爲朝の配

流せられし所にして、島民多く漁獵に従事す。其南に利島、新

島、式根島、神津島、三宅島、御倉島あり、以上を伊豆七島と云ふ。

八丈島は、御倉島の南にあり、八丈絹を以て名高し。

小笠原島は、八丈島の南にある群島にして、熱帯に近けれ

ども、海風常に吹き、盛夏と雖も、攝氏三十五度を超ゆること

稀なり。地味牧畜耕作に適し、漁獵の利多し、信天翁、大蝙蝠、椰

子、鳳梨等を産す。其南に硫黄島あり。小笠原島は、警備隊の衛

成地として、指定せられたる所なり。

大吠崎以北の海岸は、大灣稀にして、且良港少く、唯中央に

一の仙臺灣あるのみ。北上山脈の海岸に迫るところは、屈折

鋸齒の如く、北端には斗南津、輕の二大半島ありて、陸奥灣を

擁す。陸奥灣は、夏泊崎によりて、青森野邊地の三灣に分たる。

斗南半島の尻屋岬、大間岬、津輕半島の龍飛崎は、共に津輕海

峽を隔て、北海道に對す。

硫黄島は明治二十四年我版圖に入る

交通

日本海沿岸は、地形簡單にして、屈曲に乏しく、獨り男鹿半島の突出あるのみ。佐渡は、日本海中にある孤島にして、形格も分銅の如く、飛鳥は、羽後の海上にある火山島なり。

(交通) 關東諸國は、往昔政權を握りし武將の割據せし地にして、天險を恃みて、往來の便を圖らざりしが、徳川氏の覇府を江戸に開くに及び、諸侯の參勤街道に當れるを以て、概ね修理し、維新後、大に道路を改修し、航路を擴張せしを以て、交通の便なること、全國に冠たるに至れり。

鐵道は、東京を中心として、東海道を貫通する東海道鐵道、中仙道の一小部を経て陸奥に向へる東北鐵道、甲武兩州を連ねんとする甲武鐵道、東京より下總に至る總武鐵道等を主として、數多の支線を有し、航路は、横濱を起點として、西は

東京府

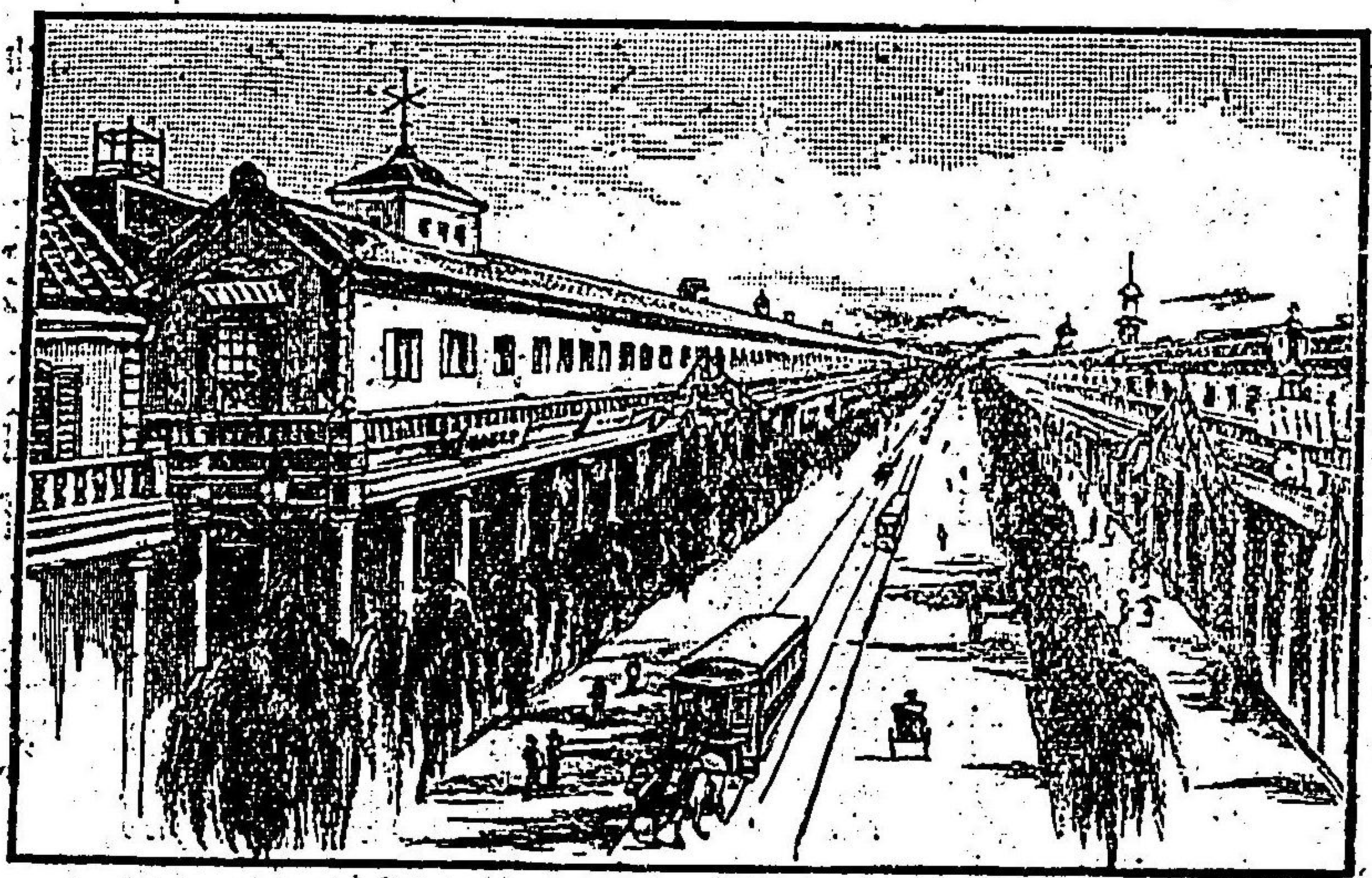
神戸に、北は函館に達す。

中仙道線は、東京より前橋に至り、官設鐵道は、高崎より、有名なる碓氷峠を越えて、信濃を過ぎ、越後の直江津に及び、北越鐵道によりて、新潟に達す。

日本海沿岸は、馬關、小樽間の航路に當り、稍通商の便を受くれども、冬季は波荒く、舟人の大に戒心するところなり。

東京府 府廳は東京市にあり、東京市の外、武藏の内八郡、伊豆七島及び小笠原島を管轄す。

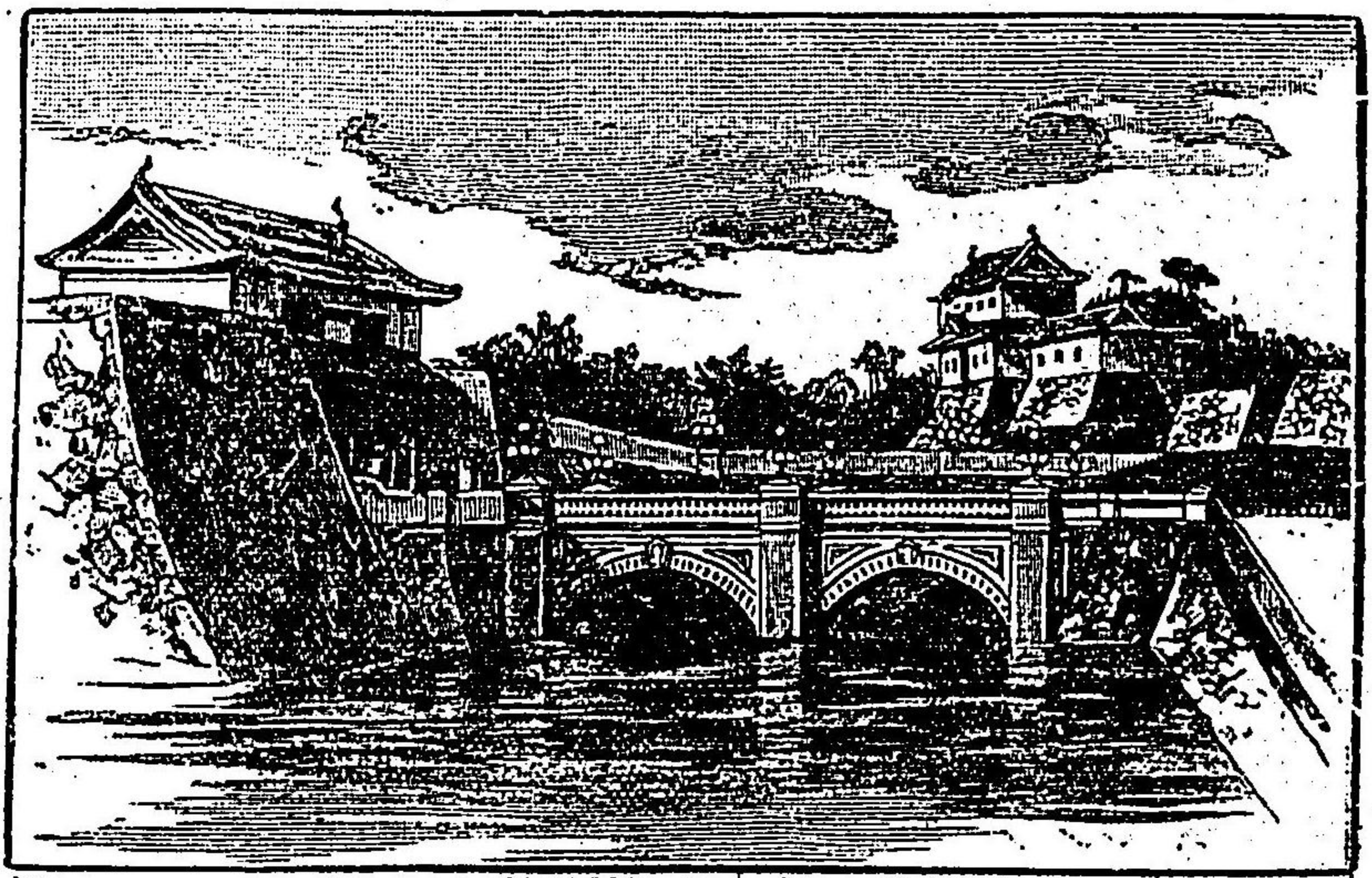
東京市（人口百四十万七千）は、武藏にあり、隅田川其東部を貫流し、南は東京灣に臨み、東北西の三面は、平野遠く連り、地勢極めて平坦なり。東西凡三里、南北凡四里、宮城は、其中央に位し、最も高潔にして、繞らすに溝渠を以てす。



四宿は千住、板橋、品川、新宿なり

中央政府の諸官省、立法、司法の府、近衛師團司令部、第一師團司令部、東京帝國大學等皆こゝにあり。主要の通路には、馬車鐵道の設ありて、電信の線は、蛛網の如く空に架す。驛路は、所謂四宿の地を経て四方に通ず。斯く交通の衝に當れるを以て、四方の物貨、殊に關東八州、中仙道及び奥羽各地、諸物産の集散場となり、商業交通極めて盛なり。

上野公園は日本三公園の第一なり



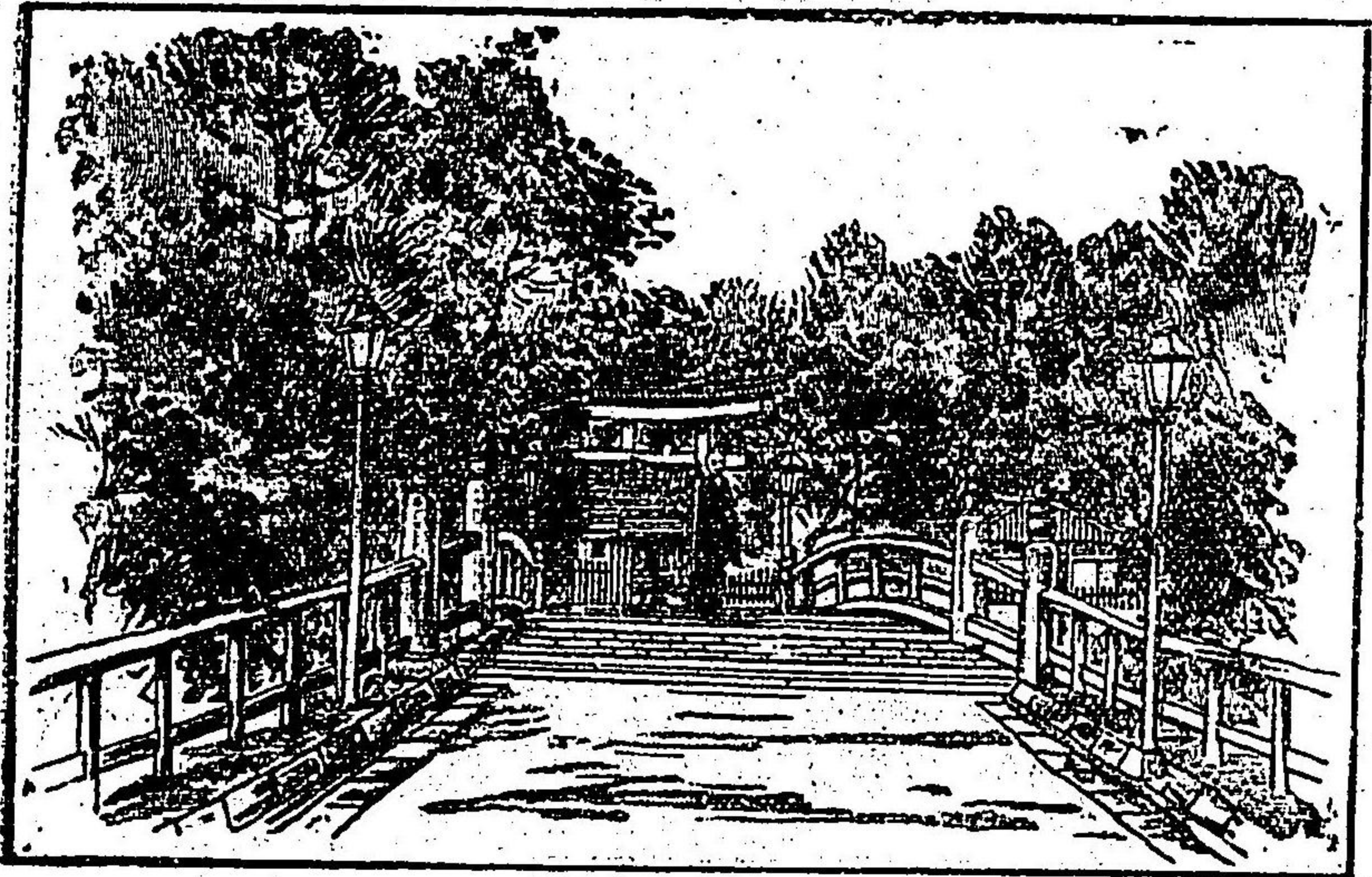
宮城二重橋

此市は、太田道灌の始めて城を築きし地にして、其後徳川氏覇府を開き、名を江戸と改めてより、大に繁昌を加へ、明治二年の奠都以來、更に舊觀を改め、大帝國の首府として遜色なきに至れり。全市を麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區に分つ。市内に上野、淺草、芝、深川等の公園あり。

多摩川上水

矢口渡は、新田義興の計に陥り、戦死せしどころなり。

埼玉縣



水川神社

東京の西に八王子あり、絹織物の名あり。其北なる羽村より、多摩川の水を引き、東京市民の飲料とす。東京より、多摩川の下流、六郷川を渡り、横濱に達す。川の上流に矢口渡あり。埼玉縣は、浦和町にあり、武蔵の内九郡を管轄す。浦和町は、東京の西北六里、東北鐵道線路に沿ひ、本綿

水川神社は、官幣大社にして、素盞鳴尊外二神を祭る。

神奈川縣

安政六年此地を以て五市場となす。

織を産す。北方大宮には、水川神社あり、其公園は、遊覽に宜し。鐵道は、此の地にて中仙道及び東北の二線路をなす。東北鐵道により、栗橋を過ぐれば、利根川流れて、茨城縣の境をなす。

大宮より中仙道鐵道により、熊谷に達す。熊谷直實の墳墓あり。此の地の西秩父地方は、良材に富み、秩父絹を以て著はる。川越は、此の地方の一商區なり。

神奈川縣

縣廳は、横濱市にあり。相模全國及び武蔵の内一市三郡を管轄す。

横濱市（人口十八万八千）は、もと五港の一に數へ、東京の西南八里、東京灣に臨み、本牧岬其東南を擁し、背後は圓むに丘陵を以てす。本港は太平洋航路の要衝に當り、内外の船

サンフランシスコ又はヴァンクouver、上海、香港、及び南洋等へ定期航海の便あり

官幣中社鎌倉は宮護良親王を祀る

稲村崎は新田義貞の佩刀を海に投じたるところ

金澤は金澤文庫と八景とを以て名あり金澤文庫は北條實時の設立せるもの

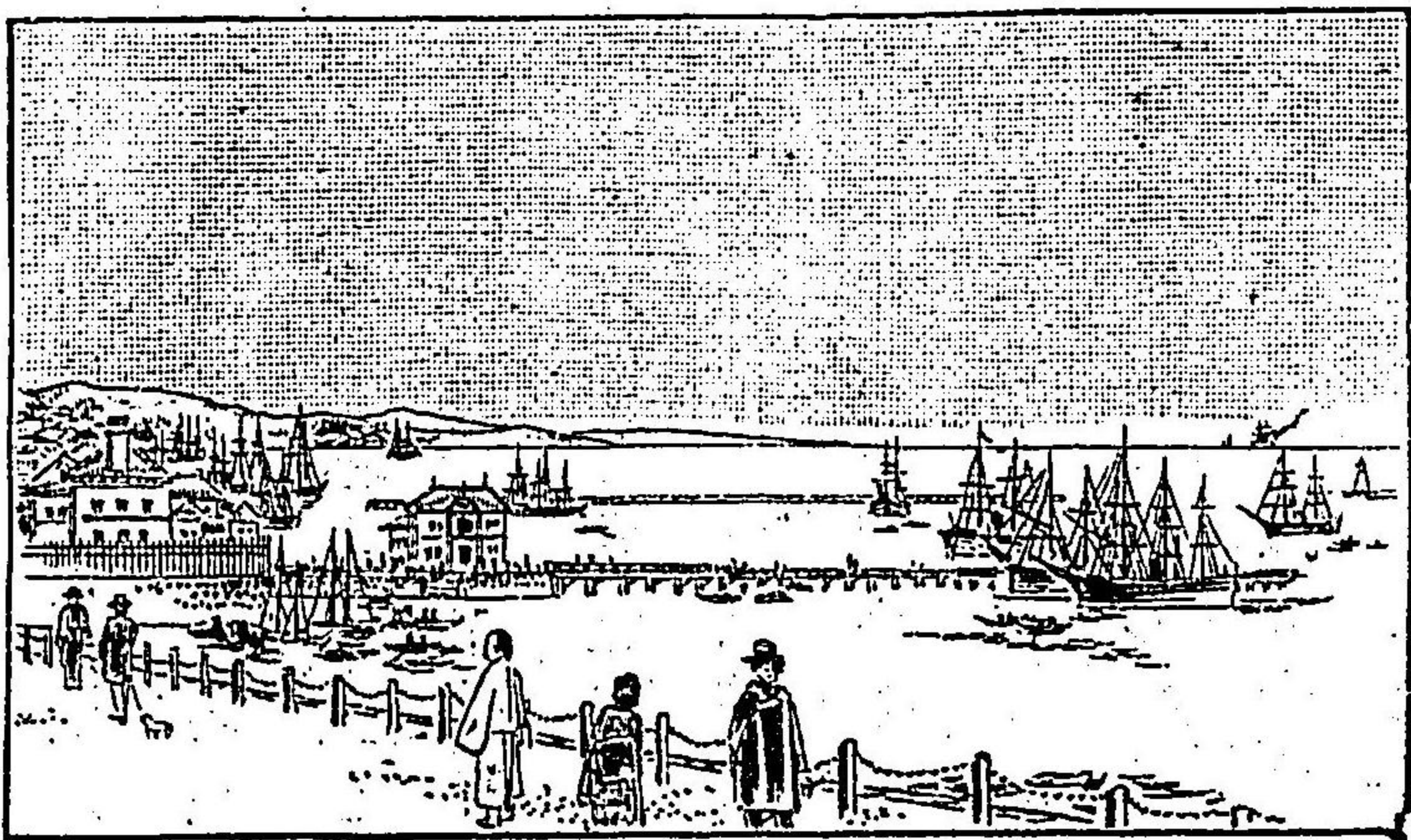
浦賀は米艦の始めて来りし處なり

小田原は大久保氏十一萬石の城地小田原の附近に源頼朝が旗揚げしたる石橋あり

船常に輻輳し、開港場中、貿易の盛なること、神戸と並び稱せらる。輸出品は、生絲、茶、絹布、銅等にして、總價額凡そ九千七拾萬圓、輸入品は、綿絲、砂糖、石油、唐縮緬、毛布、機械、雜貨等にして、總價額凡そ八千六百八拾參萬圓とす。(明治三十一年末調査) 正金銀行、税關及び諸條約國の領事館あり。

横濱の西南に大船あり、東海道鐵道の一支部は、此地より起り、鎌倉を経て、横須賀に至る。鎌倉は、昔源頼朝の幕府を開きし地にして、鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、長谷觀音、大佛等有名なる神社佛閣尙ほ存し、稲村崎、其西に突出し、遙に江島を控へ、富士山を望み、風景絶佳なり。鎌倉の東に、金澤あり。

横須賀は、第一海軍鎮守府の在る所にして、東洋第一の造船場を有し、灣内水深く、自然の良港なり。浦賀は、其南方



横 濱 港

數里にあり。大船より西馬入川を渡り、大磯及び小田原に至る。

浦賀の東端は、即ち觀音崎にして、堅牢の砲臺あり、要塞砲兵こゝに衛戍す。三崎は、浦賀の西南に位し、東京帝國大學の臨海實驗所あり。

箱根山は、箱根七湯を以て名高し。山上に蘆湖、周回三里あり。其水極めて清く、近く富士の秀峯を望む。湖畔に離宮あり。其南

關東關西の稱
は此の關より
起る

足柄山は新羅
三郎の笙を吹
きしどころ

千葉縣

誕生寺は僧日
蓮の誕生せし
どころ

千葉縣

岸に、古の關所の趾あり。

箱根山は、所謂箱根八里の峻坂を有するを以て、東海道鐵道は、國府津より酒匂川に沿ひ、西北に向ひ、足柄山の麓を迂回し、數多の隧道を貫きて、靜岡縣に入る。

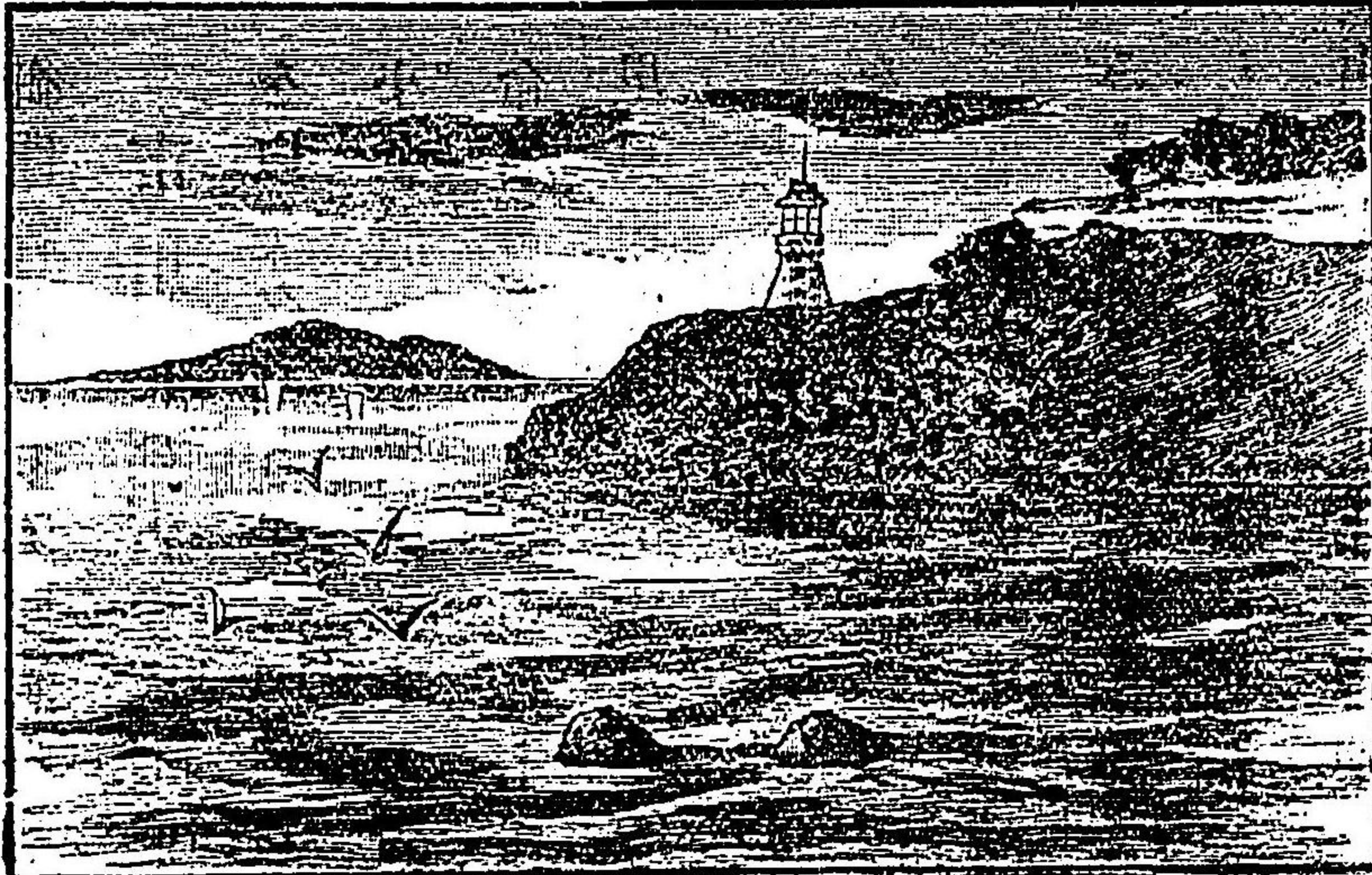
千葉縣 縣廳は、千葉町にあり。安房、上總の全部及び下總の内六郡を管轄す。

千葉町 は、東京灣に臨み、房總鐵道の起點にして、第一高等學校の醫學部あり、これより鐵路銚子に至る、銚子は利根川口にあり、縮及び醬油を特産す。其極端を犬吠崎といふ、附近に暗礁多し。

犬吠崎の西南、九十九里濱は、鯉漁を以て名あり。小湊には、誕生寺あり、清澄山には、清澄寺あり。館山、北條は、安房の

佐倉は堀田氏
十一萬石の城
地近傍に木内
宗吾を祀れる
社あり

官幣大社香取
神社は武甕槌
命外二神を祀
る



野 島 崎 燈 臺

名邑なり、鋸山は、山頂鋸齒の如く、鹿野山其北に峙つ。木更津は、東京灣の一要津なり。千葉より、總武鐵道により、佐倉に達す、歩兵第二旅團司令部の設あり、佐倉炭は此附近より出づ。成田は、不動堂を以て名高く、佐原は、酒を産す、本邦地學の泰斗伊能忠敬氏は、此に出づ、近傍に香取神社あり。又成田に佐原の間に、小御門村に別格官幣社小

千葉縣

御門神社あり、藤原師賢卿を祀る。

市川には、古の國府臺あり、醬油の名産ある野田、味淋を以て名高き流山は、皆江戸川の沿岸にあり、其東方には、小金原及び習志野あり、習志野は、明治六年陸軍演習の際、御命名ありしところにして、國府臺は、凡四百年前、北條氏康の里見氏を敗りし古戰場なり。

茨城縣

茨城縣 縣廳は、水戸市にあり。常陸全國及び下總三郡を管轄す。

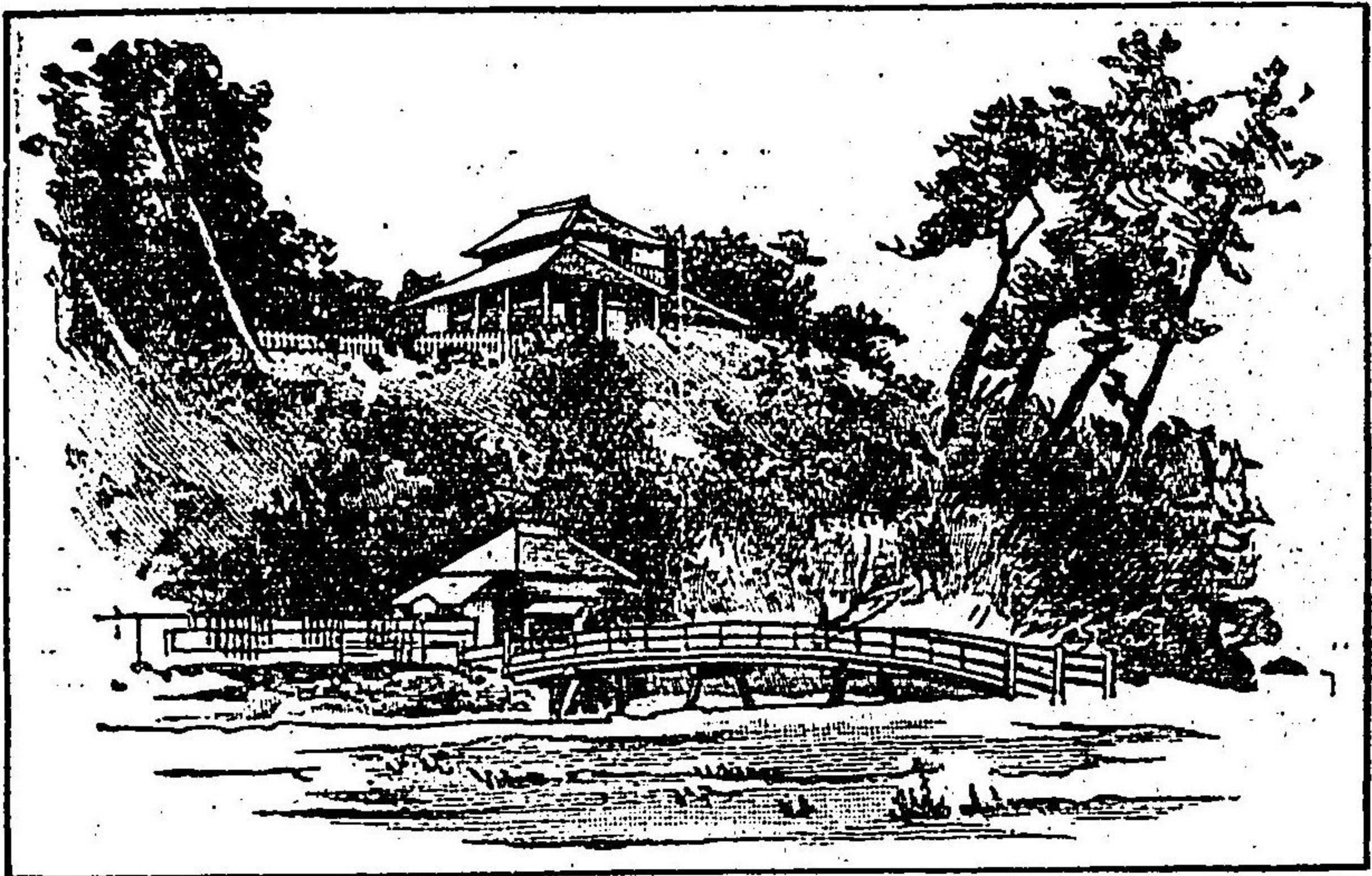
水戸は水戸家三十五万石の城地其偕樂園の日本三公園の偕樂園の東に別格官幣社常盤神社あり義烈兩公を祀る北浦の近傍に

水戸市は、徳川氏の親藩を置きし地にして、那珂川に臨み、義公、烈公、藤田東湖等こゝに出づ、弘道館、偕樂園、今尙ほ存し、木綿、烟草の産あり。土浦は、霞に濱する名邑なり。筑波山は、土浦の西北に聳ゆ。

は鹿島神社あり官幣大社にして武甕槌命外二神を祀る

八幡太郎の詠歌を以て著はる

栃木縣



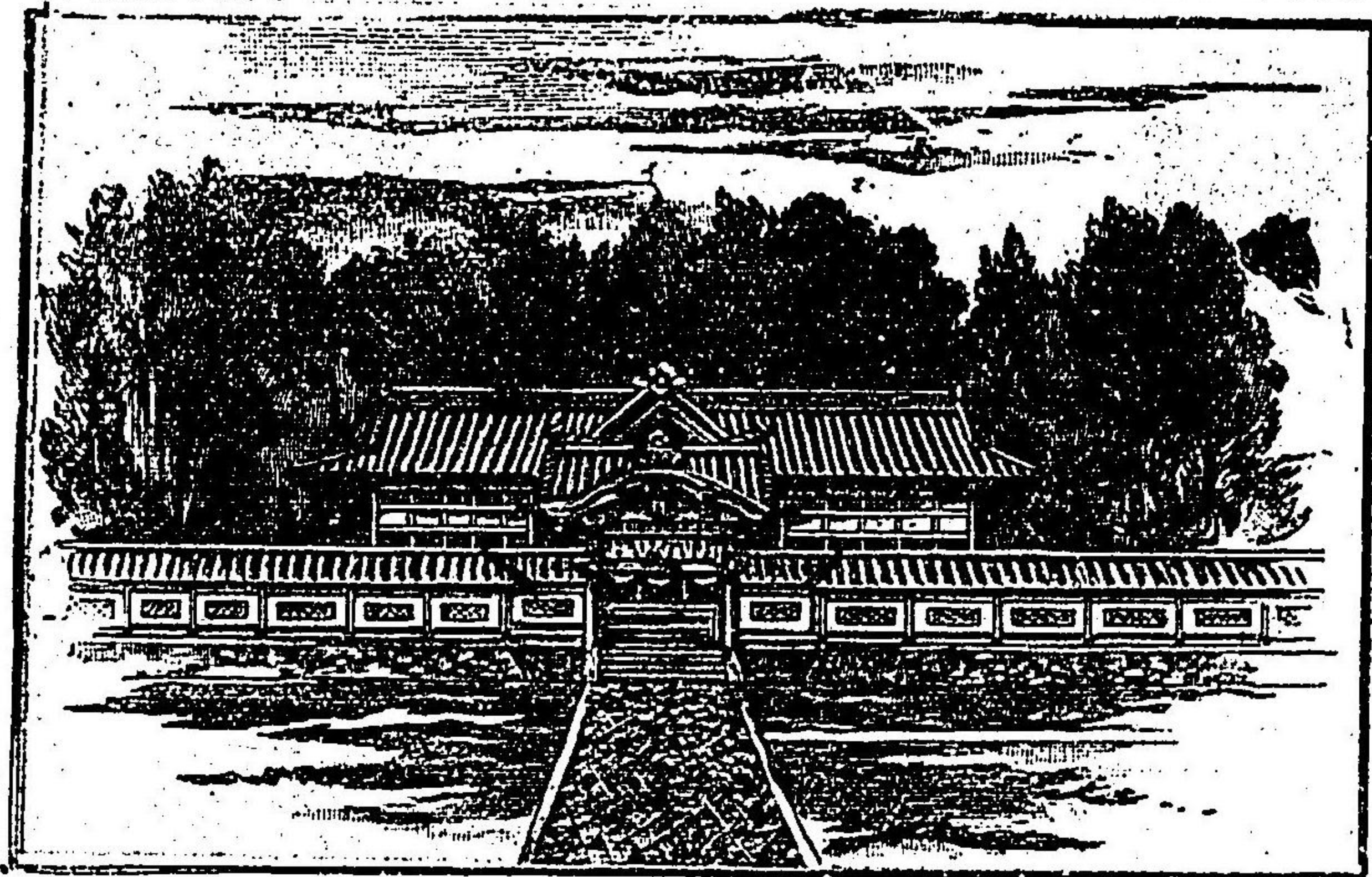
水戸偕樂園

水戸より、鐵道により、西すれば、結城に達す。水戸の北方、久慈川に至る間は、地勢平坦なれども、これより以北は、山岳起伏し、道路は、海岸に沿ひて、東北磐城に通ず、奥州濱街道これなり。其國境に勿來關あり。

栃木縣

縣廳は、宇都宮市にあり。下野全國を管轄す。宇都宮市は、奥州街道の要路に當れる繁華の都會に

日光東照宮は別格官幣社にして徳川家康公を祀る中禪寺の湖は古昔放魚を禁ぜしも今は其禁を解き魚類繁殖せり



日光東照宮

して、蒲生君平此地に出づ。鐵道の支線は日光に通じ、本線は北方に進み、鬼怒川、那珂川を越え、那須野原を過ぐ。那須岳は、國の北境に聳ゆ。其西南高原山の麓に、鹽原温泉あり。日光は、徳川氏祖廟のある所にして、其東照宮は、幕府盛時の經營にかゝり、結構壯麗なる。と本邦第一たり。其北に男體山あり。中禪寺湖は、水深く、且清く、溢れて華嚴瀑とな

此地方は新田足利兩氏の起りしところ。足利に小野篁の創立に係る。足利學校あり。群馬縣高崎は松平氏十七万石の城地

群馬縣

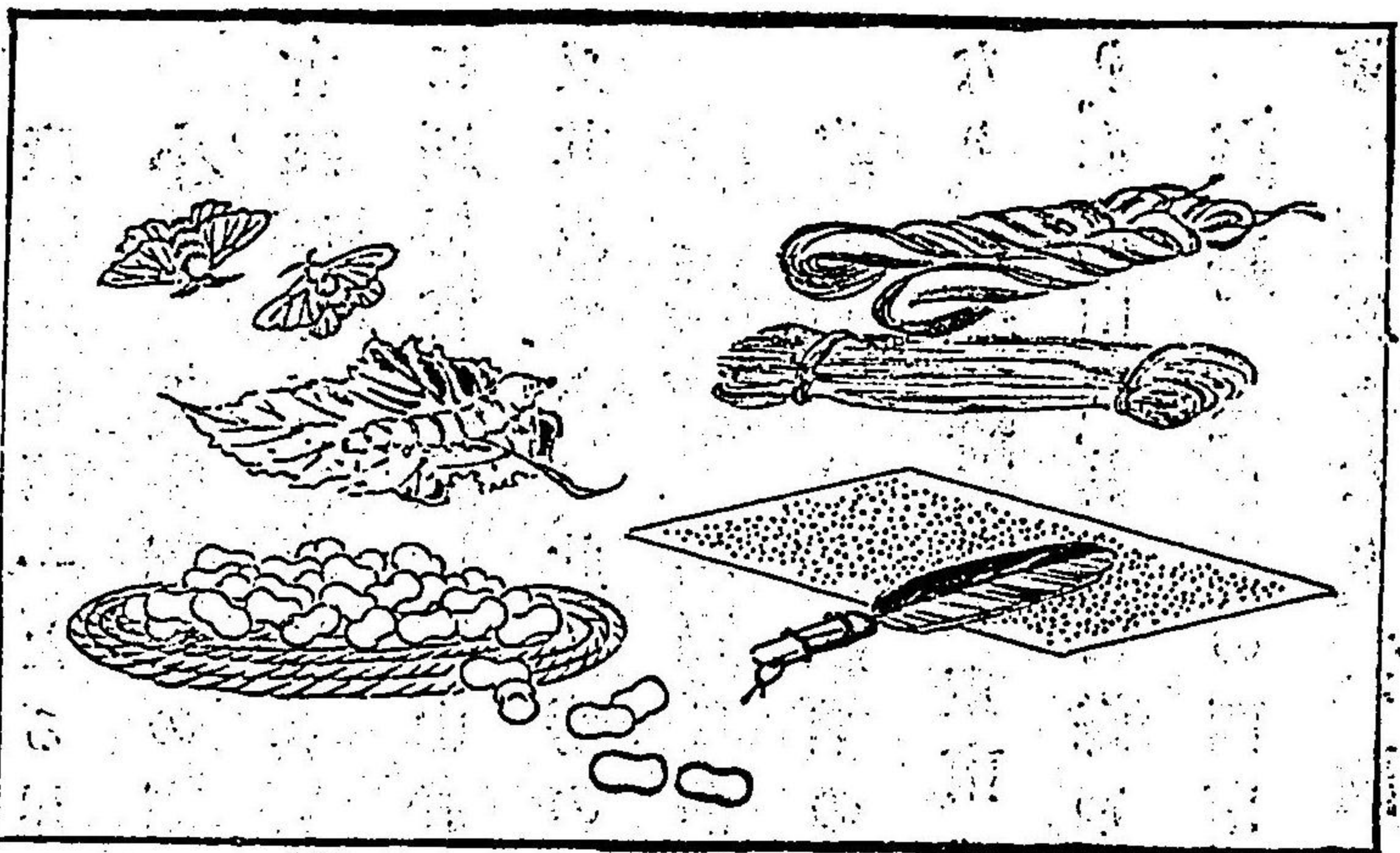
縣廳は、前橋市にあり。上野全國を管轄す。

り、大谷川となりて、鬼怒川に入る。産額本邦第一たる足尾銅山は、上野の境にあり。小山は、宇都宮の南にあり、東北、兩毛及び水戸三鐵道の會點にして、西北に栃木あり、又其西に佐野あり、佐野の北に別格官幣社唐澤山神社あり、藤原秀郷卿を祀る。足利は、又其西にあり、此近傍の都邑は、すべて絹織物を以て名あり。前橋市は、生絲業の中心にして、兩毛鐵道の沿ひ、市況盛なり。伊勢崎は、其東南に、桐生は、其東にあり、機業頗る盛なり。赤城山は、其北に聳ゆ。

高崎は、前橋の西南、瀛車程僅に二十分時、歩兵第十五聯隊の衛戍地なり。富岡は、其西南に當り、有名なる製絲場あり。

碓氷峠は日本
武尊の故事を
以て著はる

赤城榛名妙義
は上野の三山



蠶

絲

り。妙義山は其西に峙ち、奇岩怪石を以て知らる。越後の直江津に通ずる鐵道は、其北麓を過ぎ、碓氷峠に至る。高崎の西北榛名山腹に、伊香保温泉、四阿山の東北に、草津温泉あり、何れも有名なり。本縣の大部は、峻嶺起伏すれども、南東利根川の灌域は、土地肥沃、農桑に適し、産物甚だ豊かなり。

福島縣

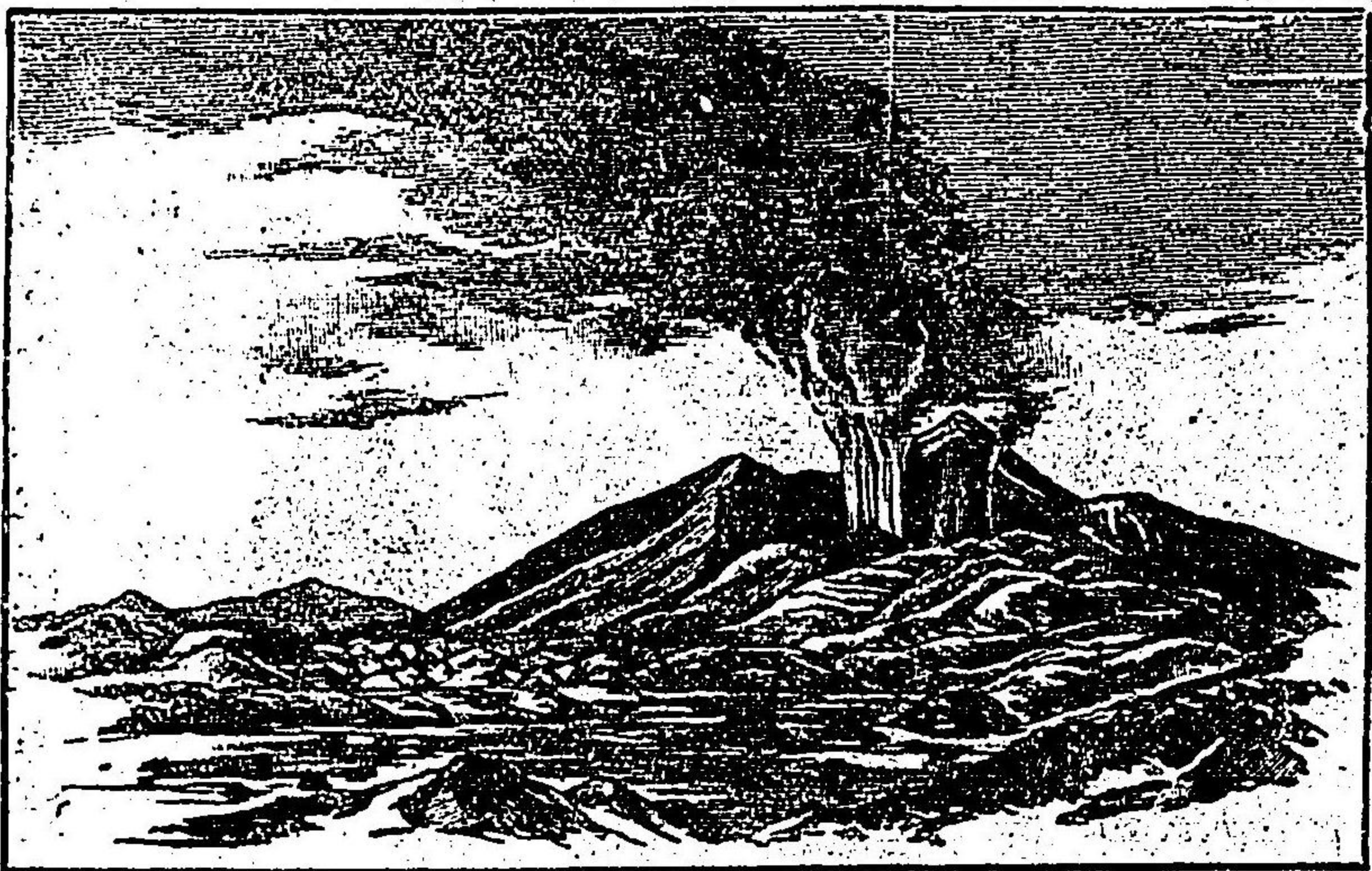
福島縣

縣廳は福島町にあり。岩代全國及磐城七郡を

を管轄す。

別格官幣社靈
山神社は北畠
顯家卿等を祀

若松は松平氏
三十八万石の
城にして戊辰
の戦に名あり



磐梯山

磐梯山(破裂後二週間)

福島町は、東北鐵道線に沿ひ、製絲業盛なり。東方靈山には、靈山神社あり、福島の東南に川俣あり、絹織物の産夥し。相馬焼に名高き中村以南の沿海は、概ね平坦にして、魚鹽の利多く、平の附近は、石炭に富む。福島市の北に半田銀山、西に吾妻山あり。

若松市は、磐梯山の西南

に當れる會津平に在り、漆器、蠟燭を出す、岩越鐵道は此地に達せり。

二本松 は、福島の南に在り、尙南すれば白河に至る。

此地は、戊辰の激戦地にして、東南古關村に白河の關趾あり。

三春駒

三春 は、郡山の東方にあり、其附近は駿馬を産す。

阿武隈川の灌域は、奥州街道の通路にして、東北鐵道これ

を貫けり。此灌域と、會津平とは、地味肥沃、農産多し。

宮城縣

宮城縣 縣廳は、仙臺市にあり。磐城の三郡及び陸前の

十三郡を管轄す。

仙臺市 は、奥羽第一の大都會にして、東京を距ること瀧

車程十二時、第二師團司令部、控訴院及び第二高等學校等あり。

勤王家林子平此地に出づ、精好織(仙臺平)、羽二重、銅器、陶器、

仙臺は伊達氏六十二万石の城地

多賀城は大野東人の置きしものにして古碑は壺のいしふみと云ひ藤原朝獵の建てし所なり

東北鐵道は支線を鹽竈に出す



松島

埋木細工等を出す。市の近傍

に多賀城趾あり、古碑を存す。

鹽竈 は、仙臺灣に臨み、鹽

竈神社あり、製鹽に名ある所

にして、又松島を望むに宜し。

松島 は、灣の西部にあり、無

数の小島、碁布星列し、老松其

上に生じ、風光明媚、所謂甘本

三景の一なり。

石巻 は、北上川の口にある

港にして、商業盛なり。荻濱は、

其東南にあり、横濱、小樽間を

航する漁船寄泊す。金華山は、牡鹿半島の東にある小島なり。古來有名なる宮城野は、北上、阿武隈兩川の灌域に屬し、米穀能く登り、仙臺米の名高し、北上川は、漁船上下して、運送頗る便なり。國の西北、鍛冶屋澤に、軍馬育成所あり。

巖手縣

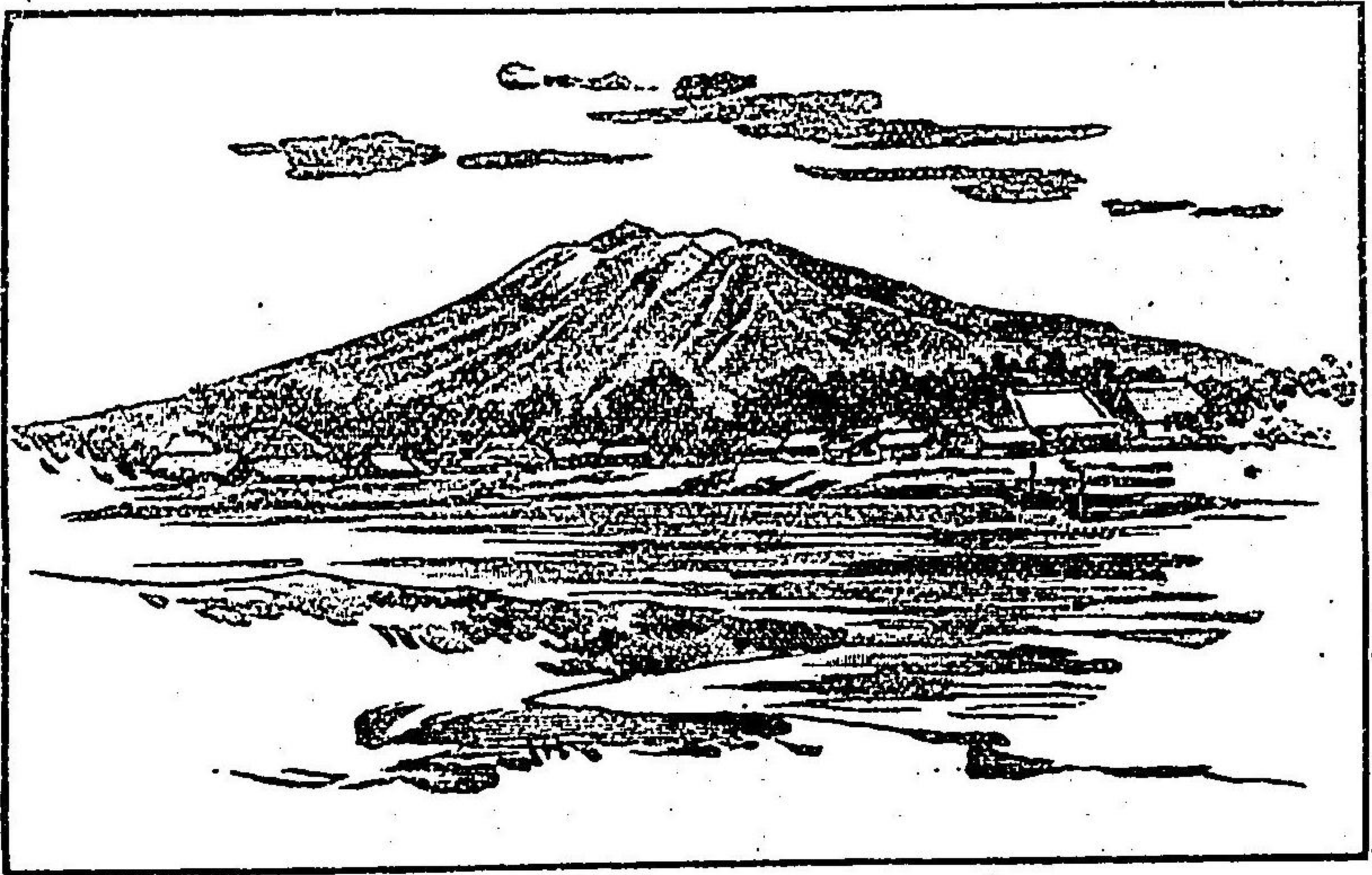
巖手縣 縣廳は、盛岡市にあり。陸前の一郡、陸中の十七郡及び陸奥一郡を管轄す。

南部氏二十万石の城地
安部貞任の討死せしところ
衣川には辨慶の故事あり
中尊寺は藤原秀衡の建立
高館は源義經平泉は秀衡の居館

盛岡市 は、北上川の上流に位し、青森に通ずる要路に當り、生絲及び鑄物を産す。厨川の柵趾は、其近傍に在り。水澤國の南部にあり、鎮守府の舊趾は、此地に近し、衣川は、北上川は、の一支流にして、附近に衣川の柵趾、中尊寺、高館、平泉の館趾等あり。釜石及び宮古は、北上山脈の東部海岸にあり、海水深く碇泊に便なり。

釜石鐵山は本邦第一の鐵山にして、水澤鐵山も亦有名なり

青森縣



巖手山

本縣は、北上川の水利によりて、交通灌漑の便少からず。又馬と鐵に名あり。
青森縣 縣廳は、青森市にあり。陸奥八郡を管轄す。
青森市 は、北海道に對する交通の要點に位し、歩兵第五聯隊暫らくこゝに衛戍す。野邊地灣頭に野邊地あり。斗南半島、東北に突出して、陸奥灣を抱き、恐山、焼山其中に聳ゆ。

大湊は良港の名あり

弘前は津輕氏十萬石の城地

岩木山は一名津輕富士の稱あり

秋田は佐竹氏二十萬石の城地

船川港は冬季碇泊に便なり



三本木牧場

大湊は、斗南半島の南岸にありて、野邊地と相對す。恐山の山脈、國の中央に延び、八甲田山となり、南麓に十和田湖を湛ふ。鐵道は、馬淵川を渡り、八戸に至り、馬淵川口なる鮫港に支線を出す。八戸の西北、三本木に軍馬育成所あり。青森の西南に、弘前市あり、岩木川に臨み、第八師團司令部あり、商業繁盛、漆器を産す。岩木川は、國の南部に發し、

秋田縣

岩木山の東を流れ、十三瀨に注ぐ、其灌域は、米産を以て、名高し。

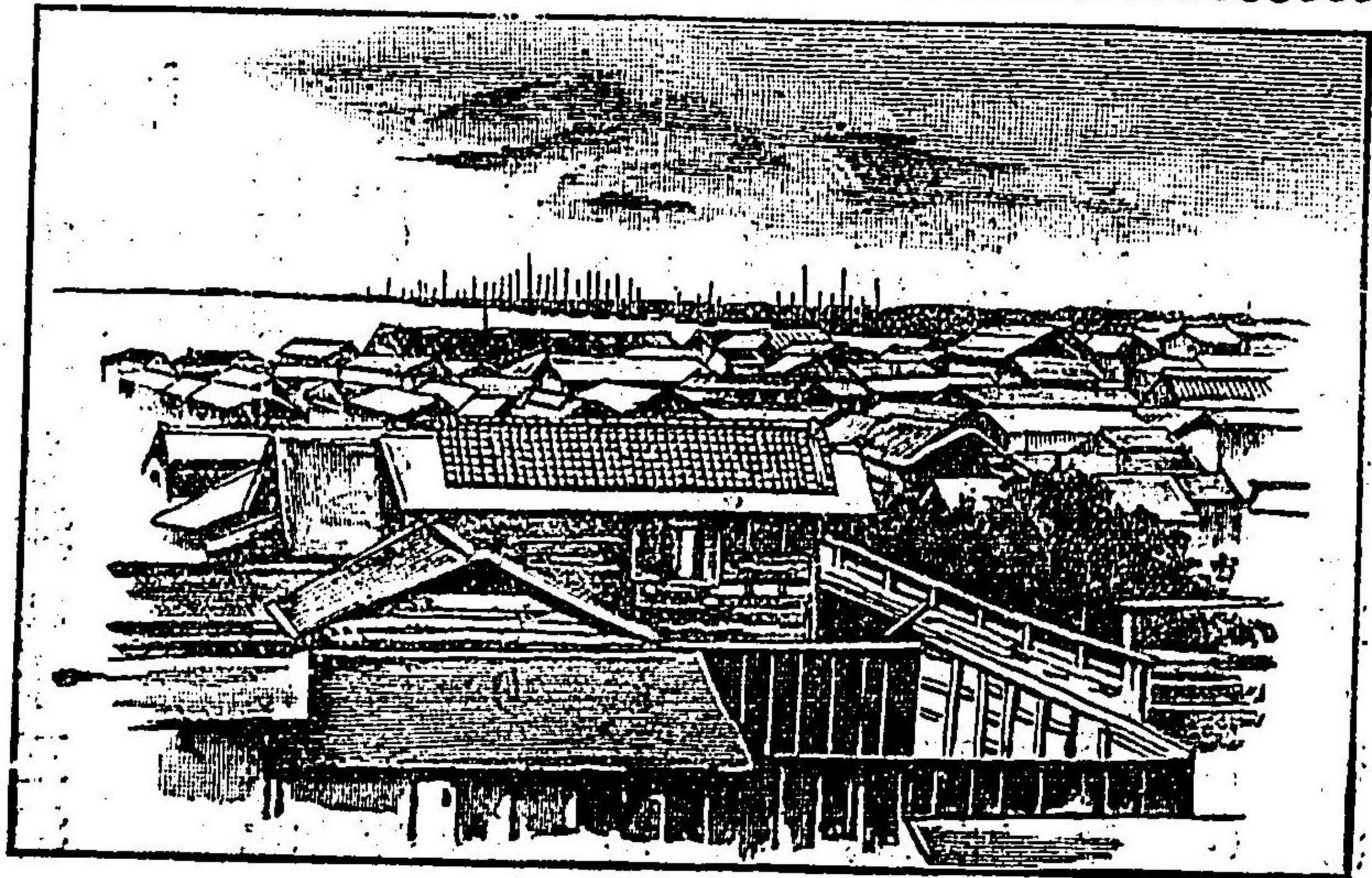
八甲田山の山脈は、西北に延きて、津輕半島となり、龍飛崎に至りて盡く。此半島と斗南半島との間は、即ち平館海峡にして、陸奥灣の口なり

秋田縣 縣廳は、秋田市にあり。羽後の八郡及び陸中の一郡を管轄す。

秋田市 は、御物川の口にありて、後に太平山を貢ふ、歩兵第十六旅團司令部の所在地なり、秋田織、秋田蓆を以て名あり。これより北、土崎港を過ぎ、船川港を、寒風山下に望む。

能代 は、能代川の口にあり、春慶塗を産す。能代川は、陸中北部の尾去澤に近く發源し、西流して阿仁川を合せ、能代に

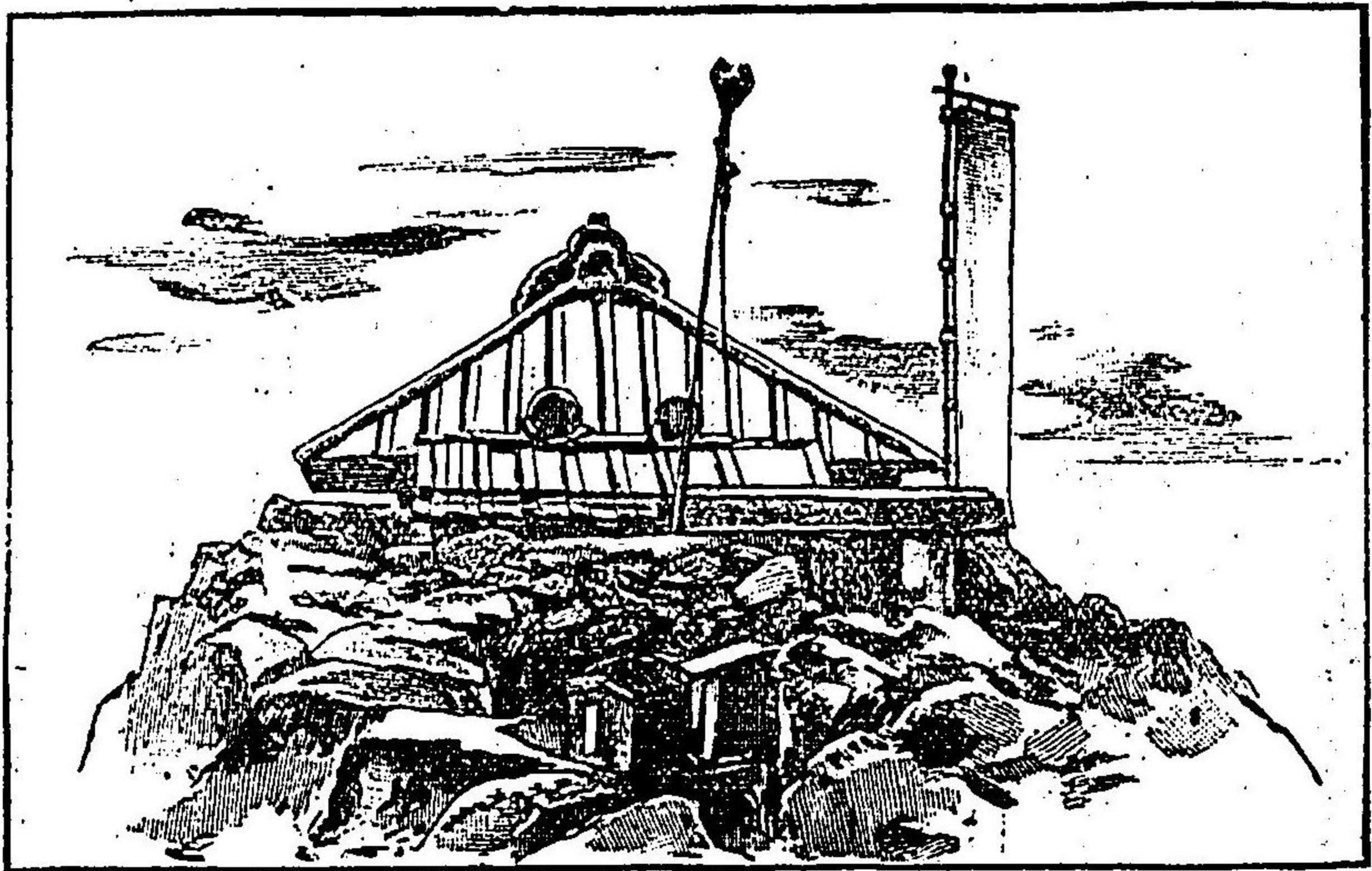
源義家の武衛
家衡を攻めし
どころにして
柵趾あり



秋田

至り海に入る。此沿岸の地方は米に富めり。秋田より御物川の灌域を、東南に進めば、金澤に至る。御物川は、國境の駒岳に發し、流域は、多く米穀を産す。これより院内鑛山に近き院内峠を越え、山形縣に入る。鳥海山、海岸に近く峙立して、地勢を南北に分つ。本縣の東部には、中央分水山脈連亘し、鑛山に富む。即ち

山形縣



山形縣

窟神頂山山月

北部に小坂銀山、尾去澤銅山、中部に阿仁銀山及び荒川銅山、南部に院内銀山あり。山形縣 縣廳は山形市にあり。羽前全國及び羽後の一郡を管轄す。山形市は、藏王山の西北にあり、商業繁盛にして、又歩兵第三十二聯隊の衛戍地なり。新庄は、北方にありて、綾織を産す。酒田は、最上川の口にありて、船舶の出入多し。鶴岡

米澤は上杉氏十八万石の城地

最上川は日本三急流の一

新潟縣

新發田は溝口氏十一万石の城地

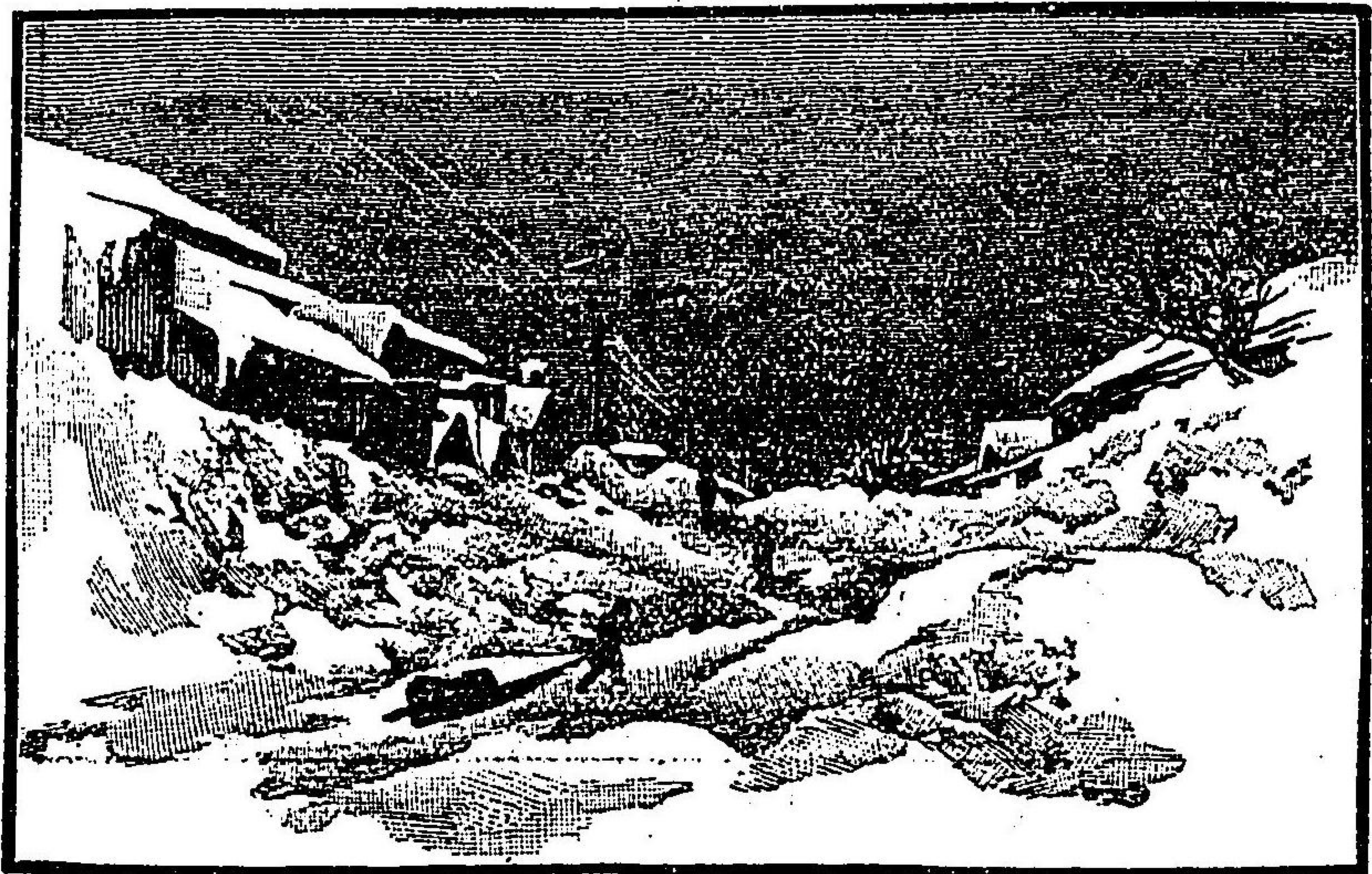
(一名庄内)は、其南方にあり、湯殿山、羽黒山、月山は、其東南にありて、羽前の三山といふ。米澤市は、其南に在り、されより鐵道は、福島に通ず。
最上川は、國の南境吾妻山に發じ、米澤を通過し、山形に接近し、羽黒山の麓を繞りて、日本海に入る。此灌域は、廣大にして、産業盛んなり。

新潟縣

縣廳は、新潟市にあり。越後及び佐渡を管轄す。

新潟市は、信濃川の口にありて、もと五港の一に數へらる、然れども、泥砂年々河口を埋め、船舶の碇泊不便にして、貿易振はず。新發田は、其東方にありて、歩兵第十五旅團司令部の所在地なり。

新潟より、信濃川を溯れば、綿布を以て有名なる、三條に

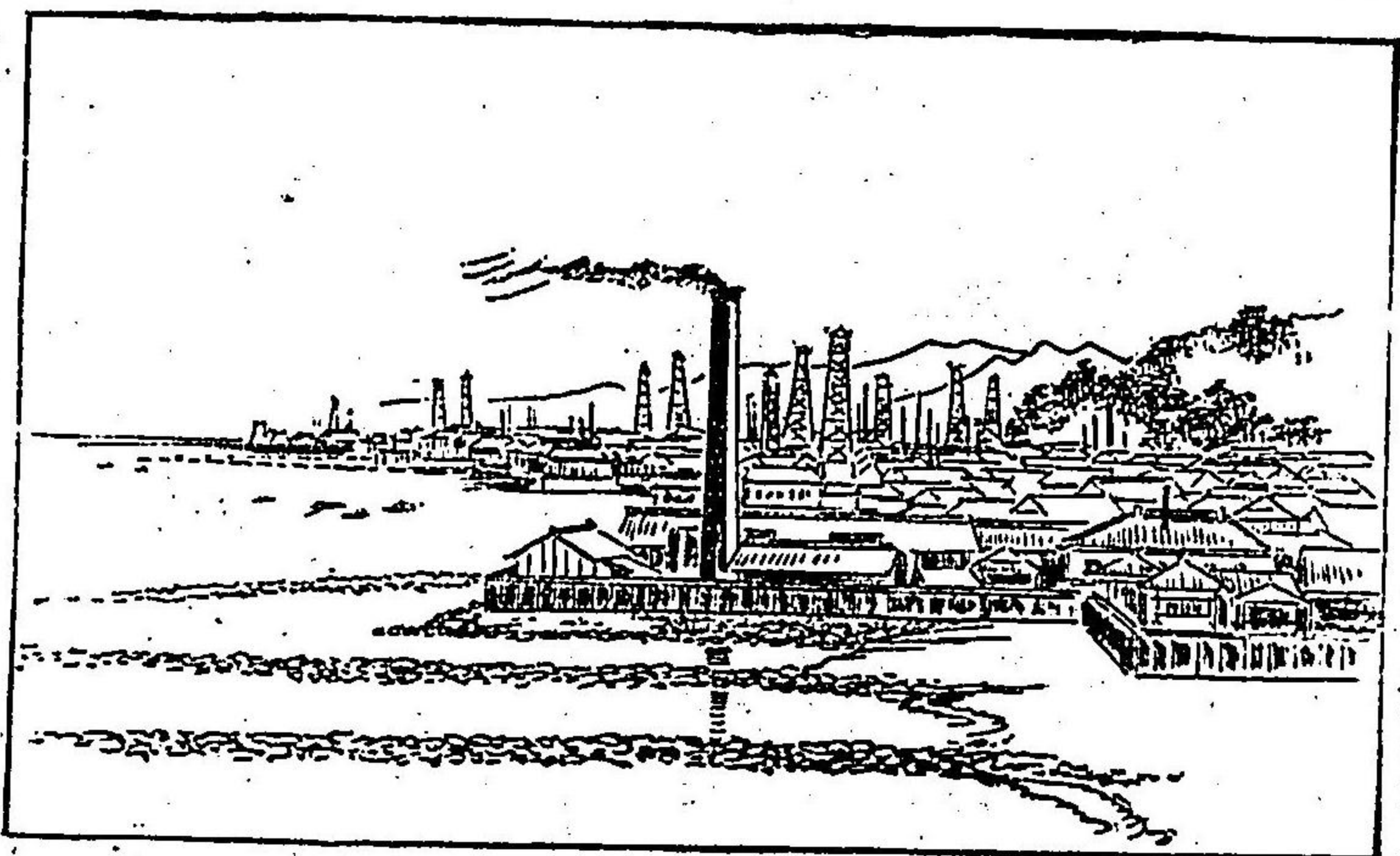


新潟縣

高田の雪
至る。五泉は、其東北にあり、五泉平の産地なり、五泉の南に村松あり、歩兵第三十聯隊の衛戍地なり。長岡は、三條の南にありて、新潟を距ること十七里、日々汽船の往復盛んに、又鐵道の便あり、絹織物及び鑄物の製造盛んなり。東方の浦瀨は、石油を産すること夥し。

小千谷、十日町は、南にあり、透綾、越後縮を以て著はる。

高田は榊原氏
十五万石の城
地



越後尼瀨石油坑

渡の小木に至る。

直江津は國中の要津にも
て、又鐵道の便あり。雪に名高き
高田は、其南にあり、西南に妙
高山、焼山ありて、其山脈海岸に
迫り、越中との國境に於て、親不
知の險道となる、然れども、今は
平坦なる新道を開通せり。
直江津の東北海岸に、尼瀨あ
り、もと有名なる石油産地なり
き。其北に、出雲崎、寺泊あり。出雲
崎より、海上十一里餘にして、佐

夷港は新潟開
港場の附屬港
なり

長野縣

千曲川犀川の
會合する股間
に甲越軍記に
名高き川中島
あり

小木の北に、新町あり。其東方眞野村の山中に、順徳天皇の
陵あり。相川は、島中第一の都會にして、無名異焼を出す。金
北山は、金銀の産出夥しく、夷町は、對岸の湊町と相對し、
泊舟に便なり。本島は、警備隊の衛戍地として、指定せられた
る所なり。

本縣の東南は、山岳重疊し、地勢高峻なれども、信濃、阿賀兩
川の灌域は、越後の平野をかゝし、米の産額多く、且つこれ等の
河流は、多く鮭を産す。

長野縣

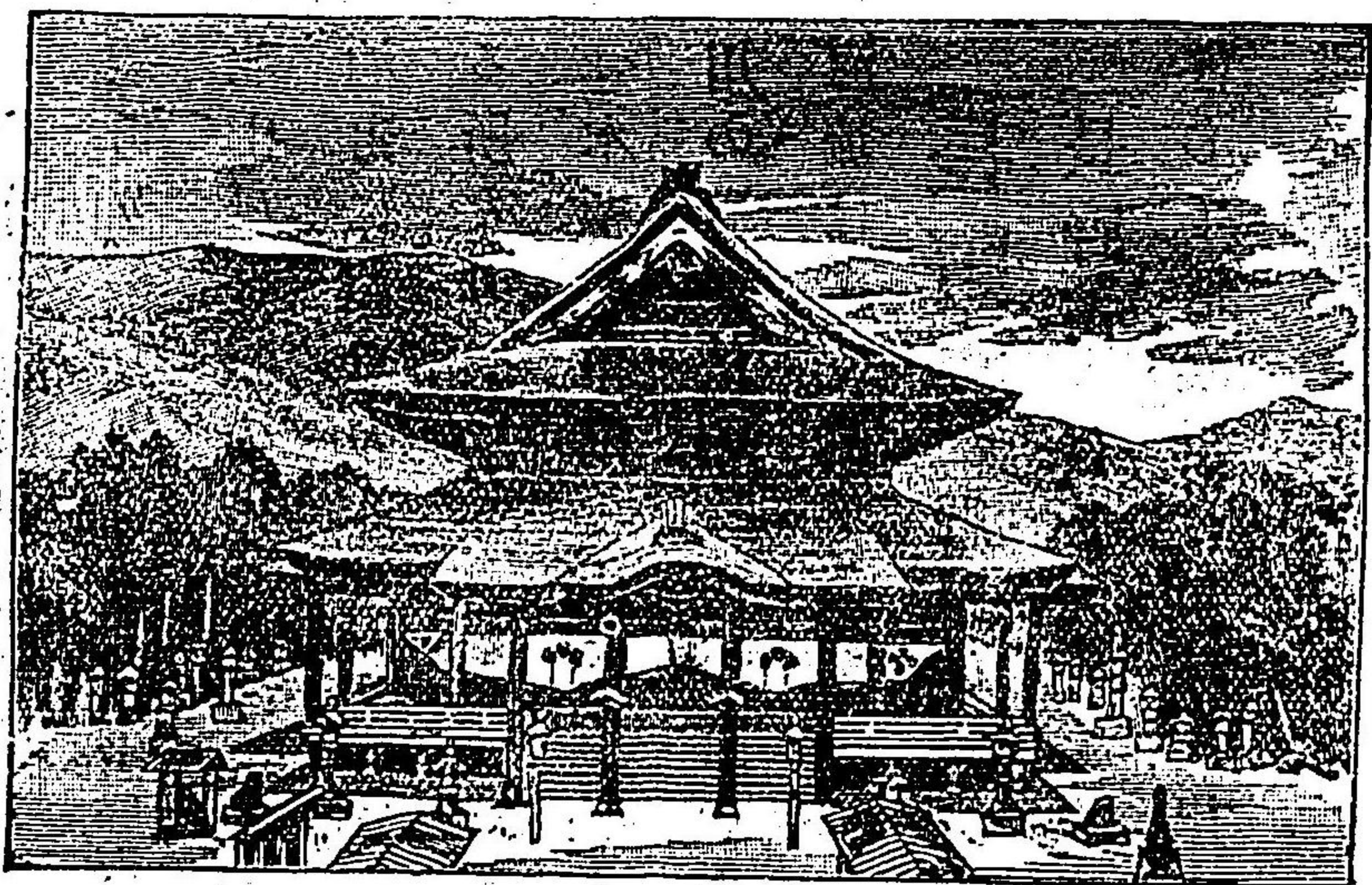
縣廳は、長野市にあり。信濃全國を管轄す。

長野市は、善光寺を以て名高く、千曲川、犀川此近傍に相
會して、信濃川をなし、沿岸に善光寺平の名あり。鐵道は、北に
進みて、越後に入る。

松本は歩兵第十五聯隊の衛戍地として指定せられたる所なれども現に衛戍す

木曾義仲の起りし所

長野縣

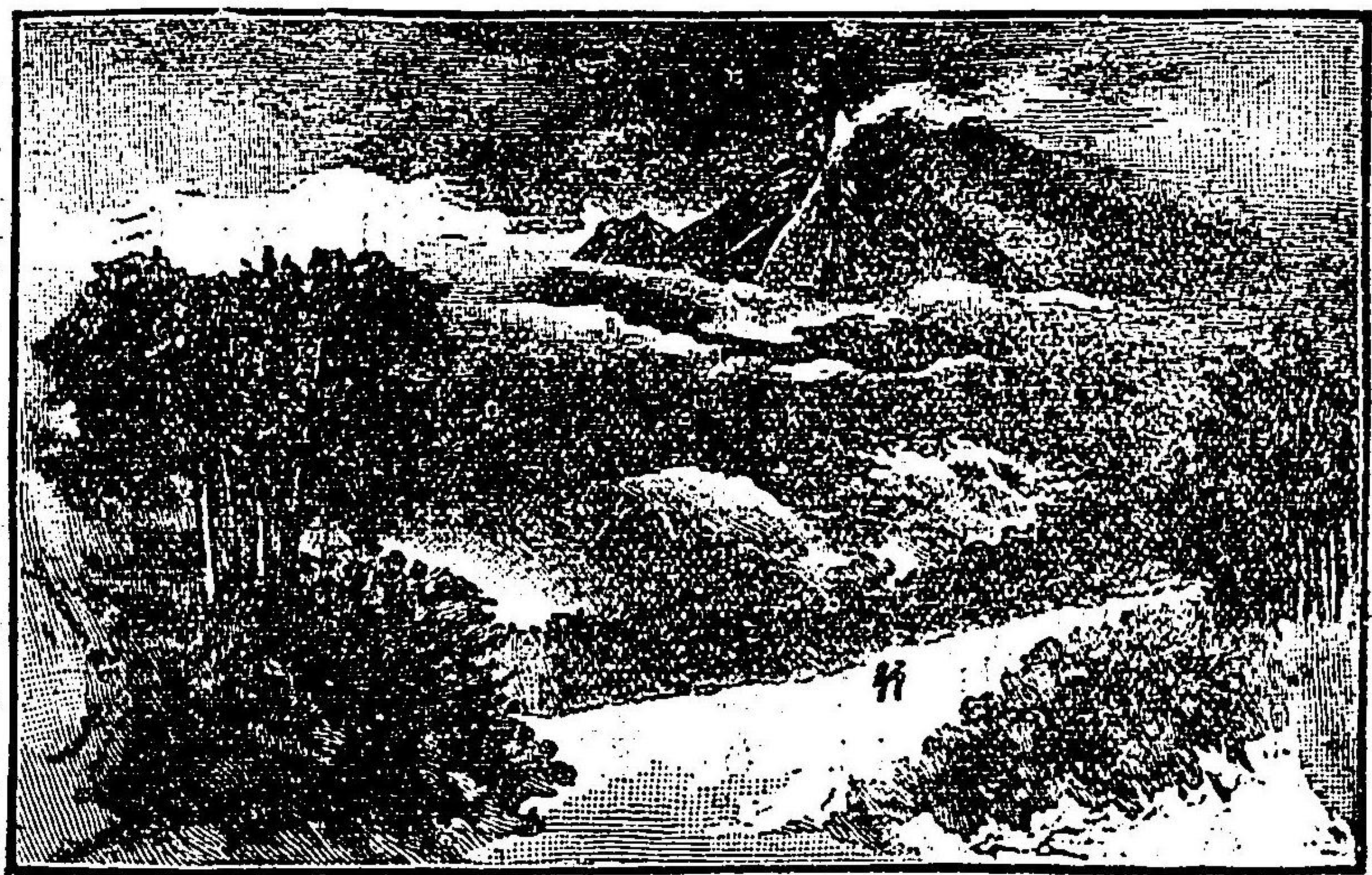


善光寺

松本は松本平にありて縣下第二の都會なり其南部に木曾山脈あり鹽尻峠は其起端にして脈を西南に引き、木曾河谷と天龍河谷とを分つ。

木曾川は源を小木曾の山中に發し木曾山脈の西北を経て美濃に入る此河谷には大森林ありて良材を産す木曾街道これに沿ひ、谿谷急峻所謂木曾の棧道をなす、飛驒

四三



長野縣

山脈は此河谷の西にあり一万余尺内外の高峯連亘す。

飯田は天龍河谷の中央にあり南方參遠諸國に達する要衝に當り交通頻繁にして傘紙等を産す。此河谷は木曾河谷よりも廣濶にして西及び北方は木曾山脈東は高峻なる赤石山脈によりて限らる。天龍川は諏訪湖に發源し南流して遠江に入る。此湖は冬季湖面氷結して人馬往

四三

碓氷峠は地勢
高く横川より
輕井澤に通ず
る鐵道線路は
アプト式を用
ひ二十六箇の
隧道あり
碓氷山は觀月
の名所
松代は眞田氏
十萬石の城地
佐久間象山此
地に出づ

山梨縣

富士川は日本
三急流の一

天目山は武田
勝頼の滅亡せ
し處

猿橋の猿橋は
日本三奇橋の
一なり

産業

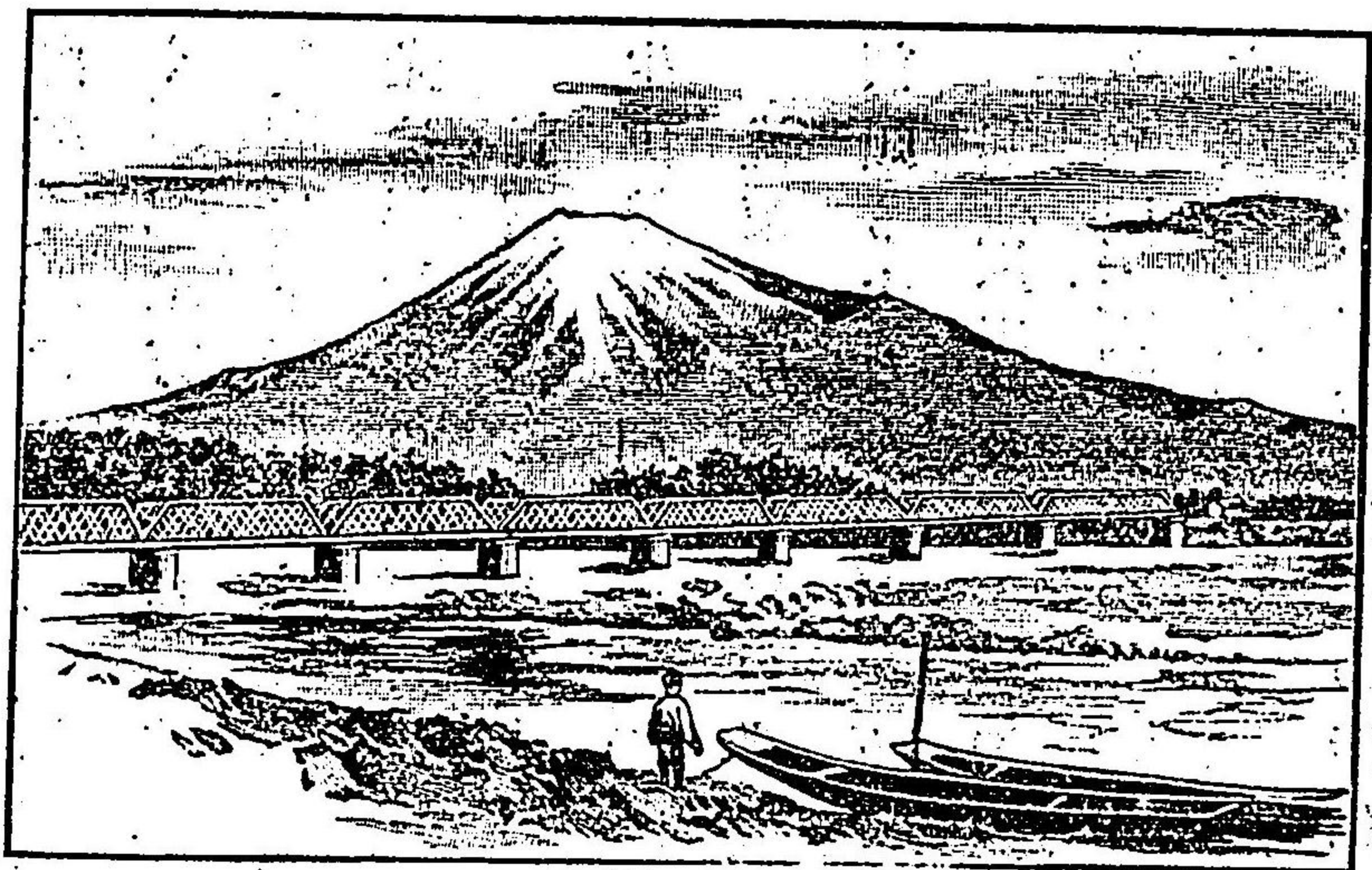
山梨縣

復す。上諏訪は湖の東南にあり、温泉を以て名あり。東方上野の國境に碓氷峠あり。西北に淺間山あり。上田は養蠶紡績の業盛んにして、上田縞、上田紬の名夙に著はる。これより碓氷山の近傍を過ぎ、松代の西を経て、長野に入る。本縣は、境域甚だ廣く、十箇國に接し、山脈四周を圍み、西部殊に高峻なり、然れども千曲、犀、天龍諸川の灌域には、平地ありて、蠶業甚だ盛んなり。

山梨縣

縣廳は甲府市にあり。甲斐全國を管轄す。

甲府市は、國の中央に位す。笛吹川及び釜梨川は、國中の水を受け、相合して富士川となり、駿河に入る。水勢甚だ急にして、鰍澤は、此沿岸にあり。其西南、身延山には、日蓮宗の本山あり、これより、北方は、峻嶺連続し、白峰山、駒岳其中にあり。



富士川の舟

八岳は西北隅に峙ち、其東の金峯山は、多く水晶を出す。

甲府の東に天目山あり、此附近、都留郡一圓を、郡内と稱し、盛んに甲斐絹を製出す。これより、猿橋を過ぎ、相模に入る。

本縣は、四面に高山峻岳連り、中央に平原あり、形恰も播鉢の如し、蠶業盛んにして、又硯及び葡萄の産あり。

(産業) 關東地方は、平

山梨縣

野多く、米は、武蔵、常陸、上總、下總等より産し、麥は、武蔵最も多く、房總地方これに次ぐ。煙草は、常陸を最とし、相模これに次ぎ、麻は、下野に多く、藍は、利根川、荒川の灌域に産す、下野の日光は、杉、檜等の良材を出す。

養蠶の盛んなるは、上野にして、武蔵、相模等これに次ぎ、桐生、伊勢崎、足利、八王子、秩父等の絹織物は、産額多し。

漁業は、房總半島の沿海最も盛んにして、乾鰹、鱧節等の産額頗る大なり。鑛産は、下野の銅、伊豆の石材最も名あり。

其他常陸及び房總地方の綿井に牛馬、下總の銚子縮、下野の眞岡木綿、東京の摺附木、蒔繪細工、錦繪、淺草海苔、箱根の湯本細工、下總流山の味淋、野田、銚子の醤油等著名なり。

奥羽地方は、米の産出多く、仙臺の平野其最なり。牧畜は、

足尾は本邦第一の銅山



佐渡の鑛山

各國共に盛んにして、良馬は、其東半部の名産なり。養蠶は、岩代を最とし、陸前、羽前等これに次ぐ。

鑛山は、最も多し、磐城の石炭、岩代半田の銀、陸中釜石の鐵、尾去澤の銅、小阪の銀、羽後阿仁の銀、院内の金、銀等最も著はる。

其他岩代の會津塗、會津燒、蠟燭、磐城の相馬燒、陸前の埋木細工、陸中の鮭、陸奥の木材及び津輕

塗、羽後の能代塗等皆名あり。

越後の米産は、本邦第一に位し、織物の製造亦盛んにして、越後縮、越後上布、五泉平等最も名高く、石油の産出は、全國に冠たり。佐渡は、有名の産金地にして、又多量の銀を出し、沿海には鱈、鮑多し。

甲信地方は、養蠶最も盛にして、信濃は、全國第一と稱せらる。上田、岡谷、内織は此兩國より出す。木曾は、良材多く、甲斐は、水晶の産地ならず、其他信濃の更科、蕎麥、甲斐の葡萄等有名なり。

木曾の五木
(檜、花柏、羅漢柏、鼠子、金松)は有名なり

第二章

中區の西部

區域

(區域)

静岡縣、愛知縣、岐阜縣、三重縣、福井縣、石川縣、富山縣、滋賀縣、京都府、奈良縣、大阪府、和歌山縣、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、島根縣、鳥取縣、徳島縣、高知縣、愛媛縣、香川縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣、熊本縣、長崎縣、佐賀縣、福岡縣

(山系)

本部の山脈は、所謂崑崙山系に屬し、大別して二大派をなす。其一派は、南日本外帶山脈にして、九州山脈を起點とし、四國の四國山脈となり、紀伊半島の紀伊山脈に連なり、志摩に至り、更に其對岸に現はれ、進んで、赤石山脈となり、

山系
南日本外
帶山脈

富士火山脈に達す。

九州山脈は薩摩の西北部より肥後日向の境なる市房山を經、豊後日向の境にて祖母岳を起し、豊後の佐賀關に至り、海に没す。

四國山脈は伊豫の西南部より土佐伊豫の境を過ぎて阿波に入り、劍山を起し、阿波の中央を貫きて海に入る。

紀伊山脈は紀伊半島を横走して、其主軸を成す、高野山は此中にあり、大和にては幽峻なる吉野山彙となる。

紀伊山脈の伊勢内海に没し、渥美半島に出づるや、參遠の境に走せて、急に高さを増し、秋葉山に連り、駿遠の境に至りて、赤石山となり、甲信の境にて、駒岳を起す、赤石山脈これなり。

赤石山の高さ
一萬二百尺あり

南日本内
帶山脈

御岳の高さ一
萬三百尺、乘鞍
岳の高さ一萬
四百尺あり

他の一脈は九州の西北部に起り、馬關海峽に没し、本州に入りて、中國の分水界を成し、東北に進みて、飛驒、木曾兩山脈となる、南日本内帶山脈これなり。
内帶山脈の九州に屬する部分を、筑紫山脈と稱す、山勢高峻ならず。

中國山脈は、長門より石見の境に至り、徳佐峰となり、東方に進み、山城の北境にて、愛宕山となり、近江の境にて、比叡山を起し、琵琶湖北を過ぎて、濃飛高原に連る。

飛驒山脈は、地勢頗る高峻にして、御岳、乘鞍岳等の高峰あり、木曾山脈は、飛驒山脈の南にあり、赤石山脈と並走す、駒岳、惠那山等、此中にあり。

其他琵琶湖の南方に、鈴鹿、笠置、及び葛城の小山脈あり、又

霧嶋火山脈

阿蘇火山脈

日本海沿岸火山脈

水系

太平洋斜

内帯山脈に屬す。

霧島火山脈は、琉球諸島に起り、九州に入り、開聞岳、櫻島岳を起し、霧島山より、稍西北に折れ、温泉岳、多良岳に終る。

阿蘇火山脈は、九州の中央部を、殆んど東西に走り、其脈延きて、四國の石槌山に連る。阿蘇山は、此脈中の盟主なり。

日本海沿岸には、海岸に沿ひ、東北に連る火山脈あり、中國の三瓶山及び大山、北陸の立山等、所々に噴起す。

以上外帯、内帯の二大山脈及び霧島、阿蘇、日本海沿岸の三火山脈は、實に本部を構造する、主要の山脈なり。

(水系)

本部の水系は、本州の西部、四國及び九州に亘り、

太平洋、支那東海、日本海及び瀬戸内海の四斜面區域に分る。

本州の太平洋斜面區域は、富士火山脈を以て、東を境に、濃

濃尾の平原は、木曾川の流域にして、米産を以て名あり

飛高原にて、北方を限り、飛驒、木曾、赤石等の諸山脈、皆富士火山脈に向ひ、東北に連亘するに依り、これより以南の河流は、概ね諸山脈の溪間を、南方に流れ、太平洋に注ぐ。

木曾川は、木曾、飛驒兩山脈の間を西南流して、飛驒川と會し、濃尾の平原に出でて、長良、揖斐二川を合せ、伊勢内海に入る、長さ四十六里。其東に、矢作川、豊川、天龍川、大井川、安倍川、富士川ありて南流し、其西には、東流する櫛田川、宮川、南流する熊野川、西流する紀伊川等あり。

四國及び九州の太平洋斜面區域は、四國山脈、九州山脈及び霧島火山脈によりて限られ、河流の長大なるもの少し、四國の吉野川は、最大にして東流し、仁淀川、渡川は南流し、九州の五箇瀬川、大淀川等は、皆東流す。

吉野川の平野
は名あり

支那東海
斜面區域

筑後川の灌域
は農産物多し

日本海斜
面區域

吉野川は、四國三郎と稱し、源を四國山脈中に發し、東流して海に入る。

支那東海斜面區域は、霧島火山脈、九州山脈及び筑紫山脈によりて限られ、地勢稍開豁なるを以て、九州の大河は、概ね此一區に集る。川内川、球摩川、筑後川の如きこれなり。

筑後川は、筑紫二郡と稱し、二源あり。相合し、西流して、筑紫洋に注ぐ。長さ三十五里あり。

川内川は、薩摩の北部にあり、西流して海に入る。長さ四十六里、九州第一の長流なれども、水流頗る急激なり。

日本海斜面區域は、九州にては、筑紫山脈によりて限られ。中國にては、中國山脈、南境をなし、北陸は、濃飛高原及び飛驒山脈によりて、太平洋斜面區域と境す。九州の遠賀川、中國の

江川、日野川は、北流し、北陸の日野川は、西北流し、東部の射氷川、神通川等は、正北に流る。

江川は、中國第一の大河にして、中國山脈の南に發し、山脈を横斷して、日本海に注ぐ。簸川は、共道湖(周回十三里)に入る。其東に中海(周回十六里)あり。

神通川は、飛驒山脈の水を集めて北流し、海に入る。長さ五十餘里。其西に庄川(射水川)あり。

瀬戸内海斜面區域は、琵琶湖及び笠置、葛城諸山脈以西、中國山脈以南、筑紫山脈、阿蘇火山脈及び九州山脈一部の東、四國山脈以北にして、瀬戸内海に向ひ、傾斜する區域なり。本州には、琵琶湖より出でて、大阪灣に入る淀川、中國山脈より出でて、南流する加古川、揖保川、吉井川(東大川)、旭川(西大

瀬戸内海
斜面區域

庄川及び神通
川の平原は越
中米の産地な

川、大川、川邊川、太田川等あれども、九州及び四國には、僅に大野川、肱川あるのみ。

琵琶湖は、本邦第一の大湖にして、湖中に竹生島、沖島等あり。湖脚は勢多川となり、西流して宇治川、淀川の稱を得て、大阪灣に入る。此灌域は、大阪灣より、東北に連る平地にして、京都、大阪の二大都會あり。

四國及び中國の瀬戸内海沿岸は、平坦なる處多く、都邑に富む。

沿岸

伊豆半島より大阪灣に至る沿岸

琵琶湖の周囲六十里、沿岸は平坦にして米産に富む

(沿岸) 伊豆半島の沿岸は、斷崖多く、南端の石廊崎は、遙に御前崎と相對し、駿河灣を擁す。石廊崎以西、志摩の鳥羽に至る間は、所謂遠州洋にして、海上七十五里、一の良港なし。伊勢内海は、渥美、志摩兩半島によりて扼せられ、南北凡十七

七里、灣内良港多し。三河灣は、知多、渥美兩半島により擁せられ、渥美、知多の二灣に分る。

志摩半島より、紀伊半島の潮岬に至る間は、絶壁多く、其沖を熊野沖と稱す。以西の海岸にては、田邊灣獨り名あり。これより、紀伊海峽の東岸を過ぎ、由良海峽を経て、大阪灣に入る。

大阪灣(茅渚の海)は、畿内の門戸にして、東北には、關西商業の中心なる大阪あり。其南に堺港、西に神戸港あり。灣内水深く、廣袤凡十里あり。

瀬戸内海沿岸は、出入甚むく、無數の島嶼羅列し、良港少からず。東西凡百里、南北最も廣き處、凡二十里あり。

大阪灣より明石海峽を過ぐれば、播磨洋にして、小豆島を過ぐれば、北方に、兒島半島突出して、兒島灣を抱き、以西に、水

瀬戸内海沿岸

四國の南岸

蹠蹠岬は一に足摺岬と云ふは往昔地震の爲に陥いりしものなりといふ

九州の沿岸

島洋、備後洋、廣島灣等あり。大島を過ぐれば、周防洋にして、柳井津半島あり。南方には高松、多度津等ありて、燧洋灣入し、伊豫の西北に、硫黃洋ありて、豊後海峽を以て、外洋と通じ、周防洋は、馬關海峽によりて、日本海に通ず

四國の東北角と、淡路嶋との間は舟行危険なる鳴門海峽にして、東南角蒲生田岬より、室戸岬に至る沿岸は、岩礁多く、良港なし。室戸岬より、蹠蹠岬に至る大灣は、土佐灣にして、蹠蹠岬より西北、佐田岬に至る間は、海岸の出入甚しく、嶋嶼多し。佐田岬と、九州の地蔵岬との間を、速吸海峽と云ふ。

九州沿岸は、全國中、最も岬角港灣に富み、西海岸を殊に甚しとす。東海岸には、東北に國東半島あり、其南に別府灣あり、佐賀、關半島、東に突出し、これより南、日向の境に至る間は、出

入稍多く、日向の海岸は、概するに直線をなし、港灣に乏し。都井岬の西に、志布志灣あり、大隅半島、其西に突出し、薩摩半島と共に鹿兒島灣を擁す。灣内の櫻島の活火山あり。

薩摩半島の野間岬以北は、海岸大に錯雜し、西に甕島、北に天草島あり、其下島の沖は即ち天草洋にして、肥前半島、其北にあり、縦横に蟠屈して、最も港灣に富む。東方は所謂筑紫海(有明洋)にして、西方に長崎港及び大村灣あり、灣口に佐世保軍港あり、五島は其西方に列る。北、松浦半島より、東方、馬關海峽に至る間に、伊万里、唐津、博多の三灣あり。其沖を玄界洋といひ、東に響洋あり、共に風波荒し。玄界洋の西方には、急峻にして、岬灣に富める壹岐島あり。其西北には、沿岸の險阻なる對馬島横はる。兩島の間は、即對馬海峽なり。

日本海沿岸

日本海沿岸は、屈折少きを以て有名なり。中國の西端より若狹灣に至る間には、唯出雲に島根半嶋あるのみ。

若狹灣以北には、能登半島突出し、七尾及び富山の兩灣、其東にあり。能登の尖端、珠洲岬近傍は、岩礁多く、航行危険なり。

島根半島の内側には、夜見濱突出して、中海を擁す。

若狹灣内には、皆津舞鶴は皆若狹灣内にお

若狹灣は、海岸の屈折著しく、灣の西端に、經岬斗出して、これを擁す。東西凡二十里、此灣と伊勢内海との間は、本州の地頸にして、其幅僅に二十六里に過ぎず。

交通

陸路

(交通) 東海道鐵道は、東京より東海道に沿ひ、名古屋に至り、關西鐵道を分ち、美濃を経て、近江に入り、北陸線を分岐し、進みて京都に至り、奈良鐵道を分ち、更に西南に向ひて、大阪に達し、阪堺鐵道、大阪鐵道等の支線を發し、それより神戸

に至る。山陽鐵道は、神戸に起り、三田尻に達し、遠からずして、馬關に達せんとす。

山陽鐵道に聯絡せる阪鶴、播但、中國の三線路は、山陰山陽兩道の交通上最も大切なり。

四國にては、徳島より吉野川に沿ひ、西に進める徳島鐵道と、高松より、多度津を経て、琴平に通ぜる讚岐鐵道と、松山の四近を通ずる南豫鐵道あり。

九州鐵道は、門司を起點とし、福岡を過ぎ、鳥栖を経て、八代に達す。又佐世保、長崎其他へ數多の支線を出す。

國道は、以上諸國を連絡し、九州及び四國の一部と、山陰、山陽兩道の界とを除くの外、概ね平坦なり。

航路は、神戸を中心とし、或は横濱に向ひ、或は高知に至り、

九州鐵道會社
線路の外唐津
宇佐等へも鐵
道の便あり

航路

瀬戸内海沿岸
諸港は大坂商
船會社の船航
行し交通至便
なり

静岡縣

製茶の季節に
は商業頗る活
潑なり

或は瀬戸内海を過ぎ、赤間關を経て、敦賀、小樽に向ひ、又は瀬戸内海を過ぎ、九州の東海岸に沿ひ、鹿兒島を経て、長崎に至るものと、北岸を通じて、長崎に達するものとあり。
長崎より、北は、ウラジオストツク及び釜山に向ひ、西は、上海に至るべし。

静岡縣

縣廳は、静岡市にあり。伊豆七島を除く、駿河、遠江を管轄す。

静岡市は、もと駿府又は府中と稱し、昔徳川家康公退隱の地にして、山田長政こゝに出づ、歩兵第三十四聯隊の衛戍地なり。漆器、竹細工を産し、製茶業盛なり。東方に清水港あり、新開港場の一にして、港内水深く、田子浦、三保松原、一眸の中にあり。近傍の久能山に、東照宮あり。これより、興津鯛を以

久能山の東照宮を祀れる別格官幣社なり
寶永山は寶永年間を生じたるもの

富士川は日本三急流の一にして、下流は平野に流れて、平野の音を驚かし、濤走せし處なり



富士山頂劍ヶ峯

て名高き、興津を過ぎ、富士川を渡り、沼津に達す
富士山は本邦内地第一の高山にして、直立一萬二千四百六十七尺、白扇倒懸の状をなし、山頂に噴火口あり、周圍半里許。東方の山腹に一峯あり、寶永山といふ。南麓は、即富士の裾野なり。富士川西方を南流し、水勢頗る迅し。
沼津は、三島を経て、箱根に通ずる東海道と、御殿場を

蛭ヶ小島は朝の流されし所
修善寺(地名)に源頼家の幽せられし修善寺(寺名)あり
焼津は日本武尊の東夷征伐の時危難に遭ひ給ひしところ

大井川の渡は往時の奇觀

徳川家康の居る城ありしところ

過ぎて相模に入る東海道鐵道との分るところにして、海岸は、風景に富む。其近傍に、**葦山**、**北條**、**蛭ヶ小島**、**修善寺**等あり。

天城山は、半島第一の高山にして、有名なる官林あり、良材を出す。**下田港**は、伊豆の南岸に在り、維新史上名高し。**熱海**は、伊豆の東岸にあり、間歇温泉を以て聞ゆ。

静岡の南に、**焼津**あり。これより西南に進み、大井川を渡る。此川は、駿遠の境を限る大河にして、平時は、徒涉し得へきも、一朝降雨あらば、水量俄に増加し、其水勢驚くべし。

鐵道は、これより、西方に進み、天龍川を渡る。天龍川は、信濃より來り、遠江の中央を貫流す、灌漑の利大なり。

濱松は、遠州第一の都會にして、静岡、名古屋の中央に位

三方ヶ原は徳川家康と武田信玄と戦ひしところ

し、市街繁盛なり。加茂真淵此地に出づ。北に**三方ヶ原**、西に**濱名湖**あり。四百餘年前、津浪の爲に、其口切れて、海に通ぜり。今切これなり。

本縣は、東に富士火山脈貫通し、北に赤石山脈蟠屈するを以て、河流皆急峻なれども、氣候頗る溫和にして、諸大河の灌域は、最も農業に適し、殊に駿河の西部は、茶の栽培盛んに行はれ、**安倍茶**の名、世に高し。

愛知縣 縣廳は、名古屋市にあり。尾張及三河を管轄す。

名古屋市(人口二十四萬六千)は、徳川氏の親藩を置きしところにして、名古屋城は、北方に在り、金鯱を以て名高く、第三師團司令部及び控訴院あり。七寶燒、織物、扇、生絲等を産す。名古屋の南なる**熱田**に官幣大社熱田神宮あるに由り、通

愛知縣

名古屋は尾州家六十一萬石の城地
名古屋城は日本三名城の一
熱田築港の計畫已に成れり

正殿は日本武
尊外四神を祭
り大用殿に草
薙剣を祭る

桶狭間は織田
信長の今川義
元を破りしと
ころ



愛知縣

六六

稱を宮といふ。これより南は、
知多半島にして、東岸に半田
及び新開港場の一なる武豊
あり。西岸に常滑焼に名高き
常滑あり。熱田の東方數里
に、絞を以て、有名なる鳴海及
び有松あり。其南に桶狭間
あり。これより三河に入り、矢
作川を渡りて、岡崎に至る。此
地は、徳川氏創業の地にして、
漆器を産し、商業盛んなり。豊
橋は、豊川の下流に臨み、歩兵

長篠は織田信
長の武田勝頼
と戦ひしとこ
ろ

長湫は徳川家
康の豊臣秀吉
の軍を破りし
ところ

第十七旅團司令部の所在地なり。

豊川の上流に、鳳來寺山あり、山中の鳳來寺は、三河第一の
靈場と稱せらる。

長篠は、此近傍にあり此國には、三河木綿、雲母、花崗石の
名産あり。

名古屋の東北に、瀬戸焼の産地なる瀬戸あり、長湫は、
其近傍にあり。北に小牧山ありて、天正の役に名あり。清洲
は、織田信長公の居城にして、名古屋の北方にあり。東海道鐵
道は、此地を経て、木曾川を渡り、岐阜縣に入る。

矢作川は、美濃より來りて、三河灣に入る。支流に太平川あ
り。

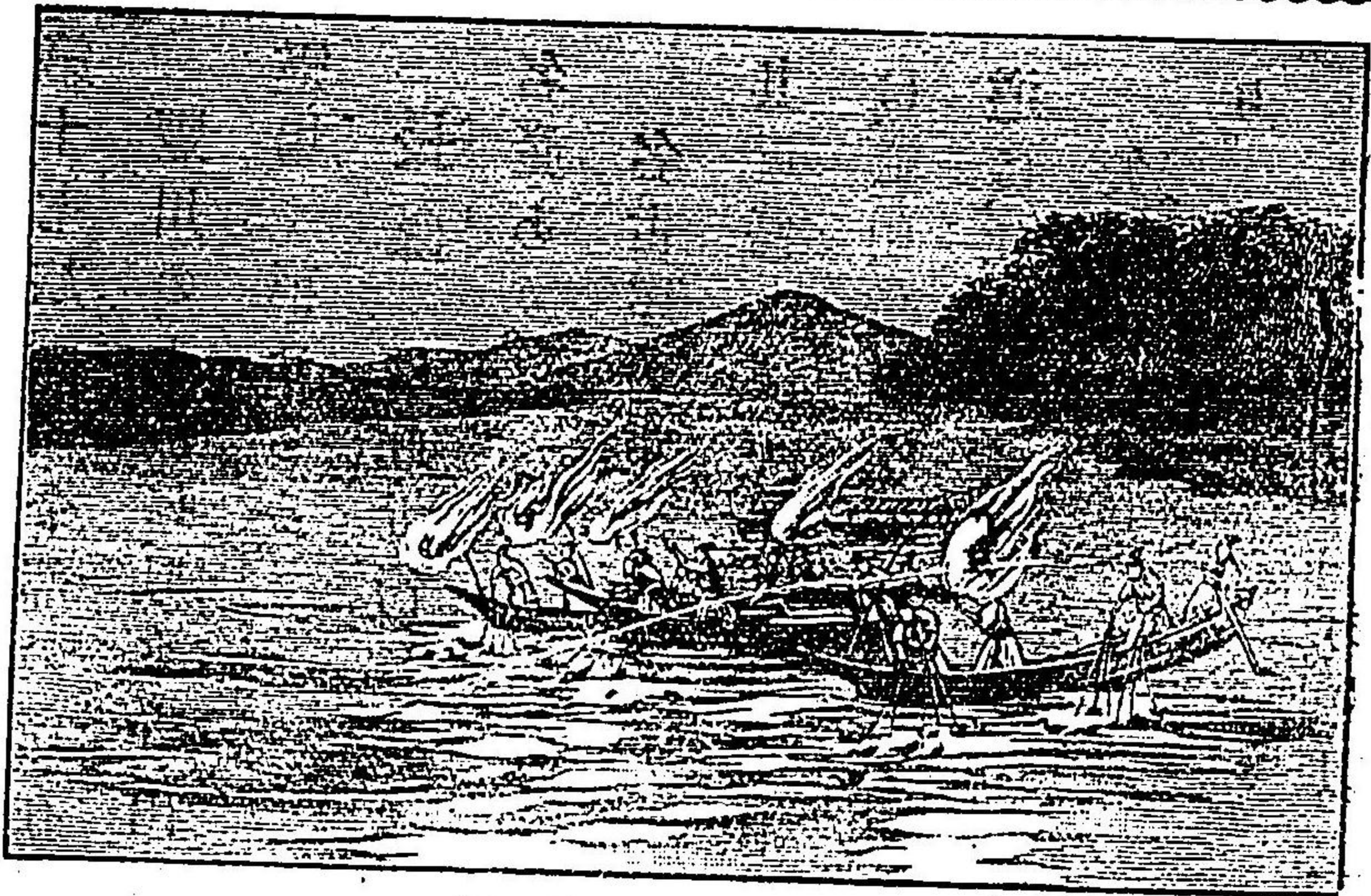
豊川は、東部にあり。以上三川あるを以て、參河の國名起る。

愛知縣

六七

岐阜縣

稻葉山は齋藤
秀龍織田信長
等の城趾



長良川の鵜飼

岐阜縣 縣廳は、岐阜市
にあり。美濃及び飛驒を管轄
す。

岐阜市 は、稻葉山を負ひ、
長良川に臨み、商業活潑なり、
岐阜提燈を産す、長良川は、鮎
を産し、鵜飼を以て有名なり。
これより、木曾河谷に沿ひて
東に向ひ、長野縣に入り、又飛
驒川の灌域を上り、宮川の沿
岸に移れば、高山に至る。高
山は、飛驒第一の都會にして、

大垣は關ヶ原
の役西軍の根
拠とせしとこ
ろ、戸田氏十
萬石の城地

製絲の業盛なり。其南に位山ありて、一位木を産す。

岐阜より長良、揖斐二川を渡り、西すれば、大垣に至る。其
西に關ヶ原あり、著名の古戰場にして、且往古不破の關あり
し所なり。養老の瀧は、多度山中にあり。鐵道は、尙西に向ひ、膽
吹山の南麓を過ぎて、滋賀縣に入る。

木曾川の灌域は、地味肥沃、水利至大なりと雖も、雨量多き
高原を負ふを以て、水害を蒙ること尠からず。

岐阜の東に、各務野及び加茂野、西北に大野あり。これ美濃
(三野)の國名の起りし所以なり。

三重縣

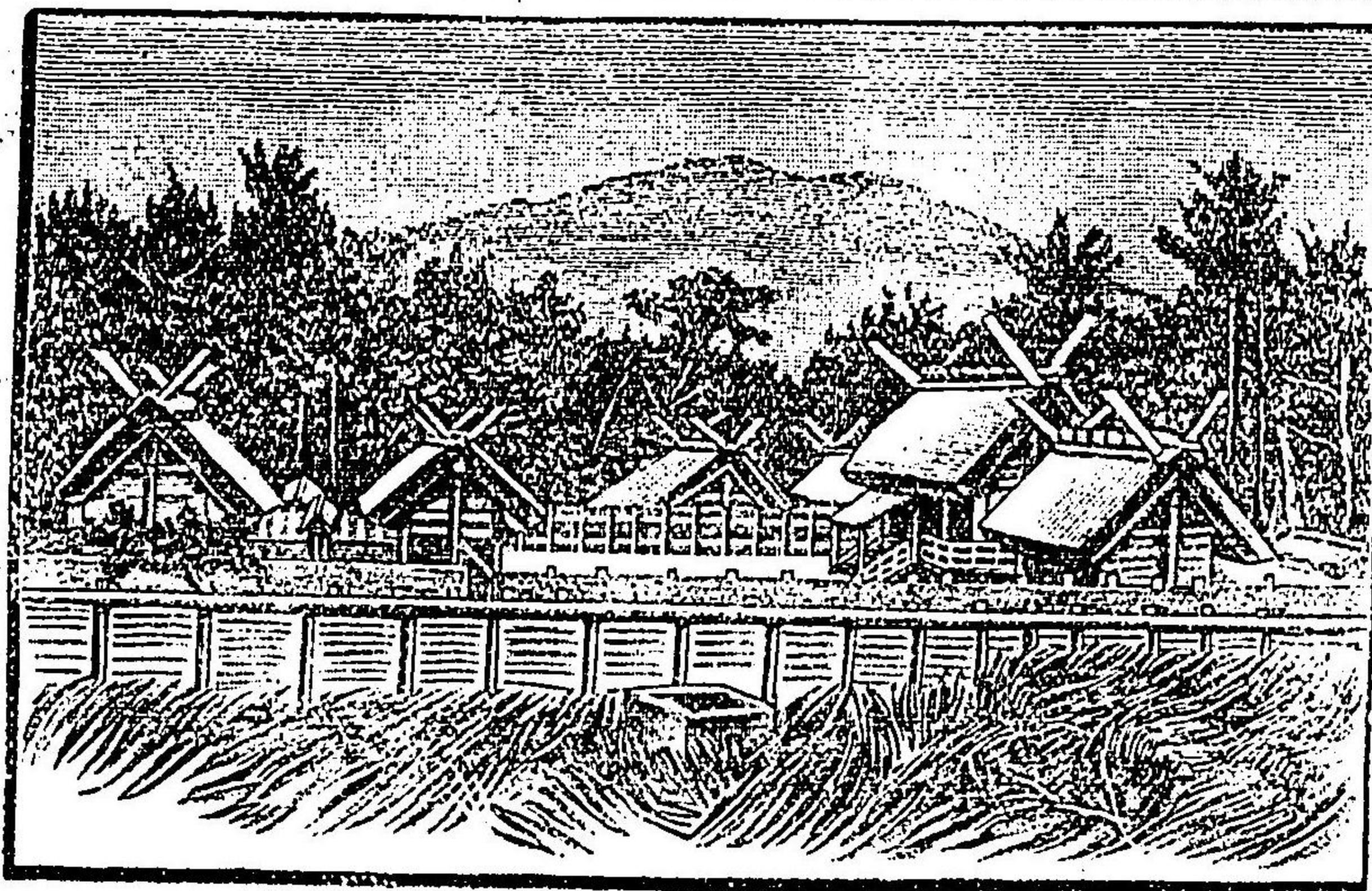
津は藤堂氏三
十二萬石の城
地

三重縣 縣廳は、津市にあり。伊賀、伊勢、志摩及び紀伊の
内二郡を管轄す。

津市 は、一に安濃津と稱し、國中第一の都會にして、東阿

結城神社は南朝の忠臣結城朝廣卿を祀れる別格官幣社なり

能褒野は日本武尊薨去の地なり



伊勢神宮

漕浦に臨む。近傍に結城神社あり。津より、龜山を経て、鐵道は左右に分る。西、鈴鹿峠を越ゆれば、滋賀縣に入る。所謂鈴鹿の關趾あり。南、伊賀に入れは、上野に達す。畿内に通ずる伊賀越の要衝に當り、傘を産す。
龜山より東北、能褒野の近傍を過ぎて、四日市市に至る。新開港場の一にして、横濱との間に定期航海あり。

桑名は松平氏十一萬石の城地

宇治、山田は相連りて一市街をなす

内宮は垂仁帝の御代、外宮は雄略帝の御代、此地に遷坐せらる

桑名

は、其北方木曾河口に在り、熱田に渡る要津にして、時雨蛤及び白魚は、此地の名産なり。附近より萬古焼を出す。

津より東南、櫛田川、宮川を渡りて、宇治、山田に達す。宇治には、天照皇大神を祀れる内宮あり。山田には、豐受大神を祀れる外宮あり。参拜者常に絶えず。春慶塗及び神路山の杉細工は、有名なり。北に二見浦あり。東南なる鳥羽港は、碇泊に便にして、昔は、伊豆の下田港と、東西遙に相對し、遠州洋を航する船舶の、必ず寄港する處なりしが、現今は、其繁昌を四日市に奪はれたり。山田より、宮川に沿ひ、紀伊に入れば、熊野川の沿岸に、瀨八町の佳景あり。

山田以南の海中に、斗出する一小區を、志摩となす。平坦の地なく、海岸の屈折出入極めて多し。

福井縣

福井は松平氏の
三十二萬石の
城地
別格官幣社藤
島神社は新田
義貞卿を祀る

福井縣



七二

福井縣

縣廳は、福井市にあり。越前及び若狹を管轄す。

福井市は、足羽川に跨り、奉書紬を産す。古は、北庄と稱し、柴田勝家の據りしところなり、近傍に藤島神社あり。九頭龍川は、足羽川、日野川を合せ、北に流れて三國港に注ぐ、上流に大野あり、盛んに奉書紬、羽二重を産す、河口に三國港あり。

金崎に南朝の
古城あり
金崎宮は後醍
醐天皇の皇子
尊良恒良二親
王を祀る
氣比神社は仲
哀天皇神社
后を祀る

小濱は酒井氏
十萬石の城地

石川縣

金澤は前田氏
百二萬石の城地

福井の南なる鯖江は、歩兵第三十六聯隊の衛戍地なり、

其南なる武生には、蚊帳及び鳥子紙の産あり。これより南、木芽嶺の新道に従ひ、金崎に達す、此地に金崎宮あり、敦賀は、新開港場の一にして、敦賀灣に臨み、北は金崎に接續し、南は鐵道に依り、東海道線に連絡す、官幣大社氣比神社こゝにあり、又歩兵十八旅團司令部の所在地なり。これより汽船に乘じ、若狹塗に名ある小濱に達すべし。

本縣は、地勢自ら二部に分れ、東部の廣大なる地は、即ち越前にして、海岸の凹凸少く、西部若狹の地は、狹長なれども、海岸の出入甚しく、頗る魚類に富み、若狹鯛の名産あり。

石川縣

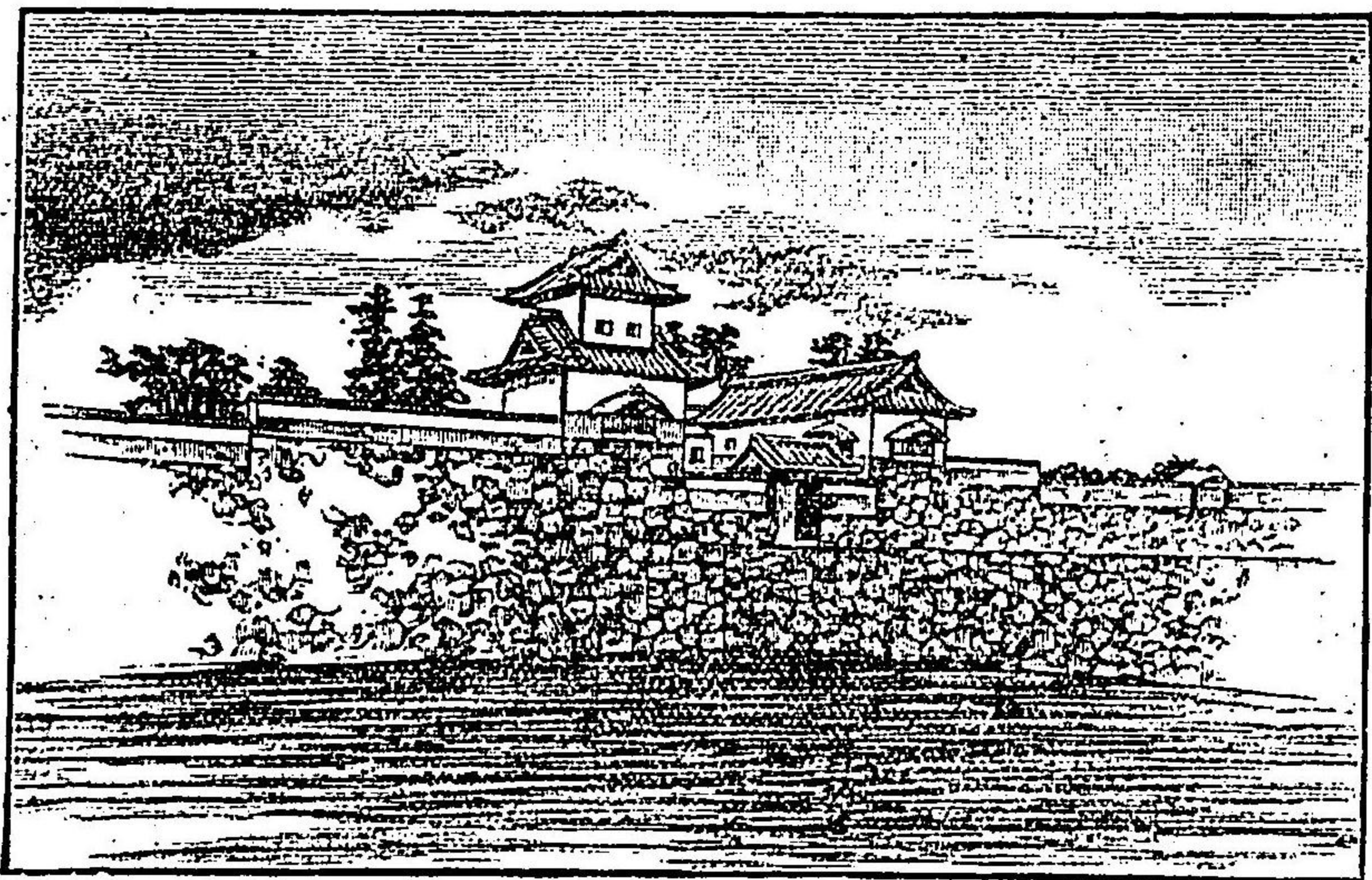
縣廳は、金澤市にあり。加賀、能登を管轄す。

金澤市は、犀川に臨み、西に金石港を控へ、第九師團司令部

福井縣

七三

大聖寺は前田氏十萬石の城



金澤

令部及び第四高等學校あり。商工の業盛にして、絹織物、象眼細工、陶器、銅器等を出す。金澤より西南に、手取川あり、此川は、源を白山に發す。これより猶ほ西南に進み、小松に出づ。安宅川其近傍を流る。上流に銅山多し。古の安宅關は、此川の下流なりしも、今は、遙なる海中にありといふ。小松より大聖寺を経て、福井縣に入る。

金澤より河北潟の近傍を過ぎ、能登に入り、寶達山脈に沿ひ、七尾灣の南岸なる七尾に至る。七尾灣は、周回約三十里、水深く、中央に能登島あり。七尾灣の南灣は、新開港場の一なり。輪島は北方にあり、國中第一の都會にして、精巧なる漆器(輪島塗)を産す。

能登は南部を除くの外、地味貧劣なれども、工藝品及び海産物に富み、特に食鹽の産額は、日本海沿岸第一と稱せらる。

富山縣 縣廳は、富山市にあり。越中全國を管轄す。

富山市 は、神通川の下流に臨み、古來藥商及び金屬器製造を以て名あり。其東北に、漆器及び織物を産する魚津あり。更に進んで、黒部川を渡り、越後の境に達す。

富山の西、庄川(射水川)の沿岸に、高岡市あり。富山に次ぐ

富山縣

富山は前田氏十萬石の城地
魚津の海上に
ては春夏の候
盛氣樓を見る
ことあり
高岡より西に
當り國境に俱

利加羅峠あり
木曾義仲の維
盛を破りし所
なり

滋賀縣



滋賀縣

都會にして、銅器及び漆器を産す。射水川に沿ひて下れば、右に新湊、左に伏木あり。伏木は、新開港場の一にして、米を輸出す。

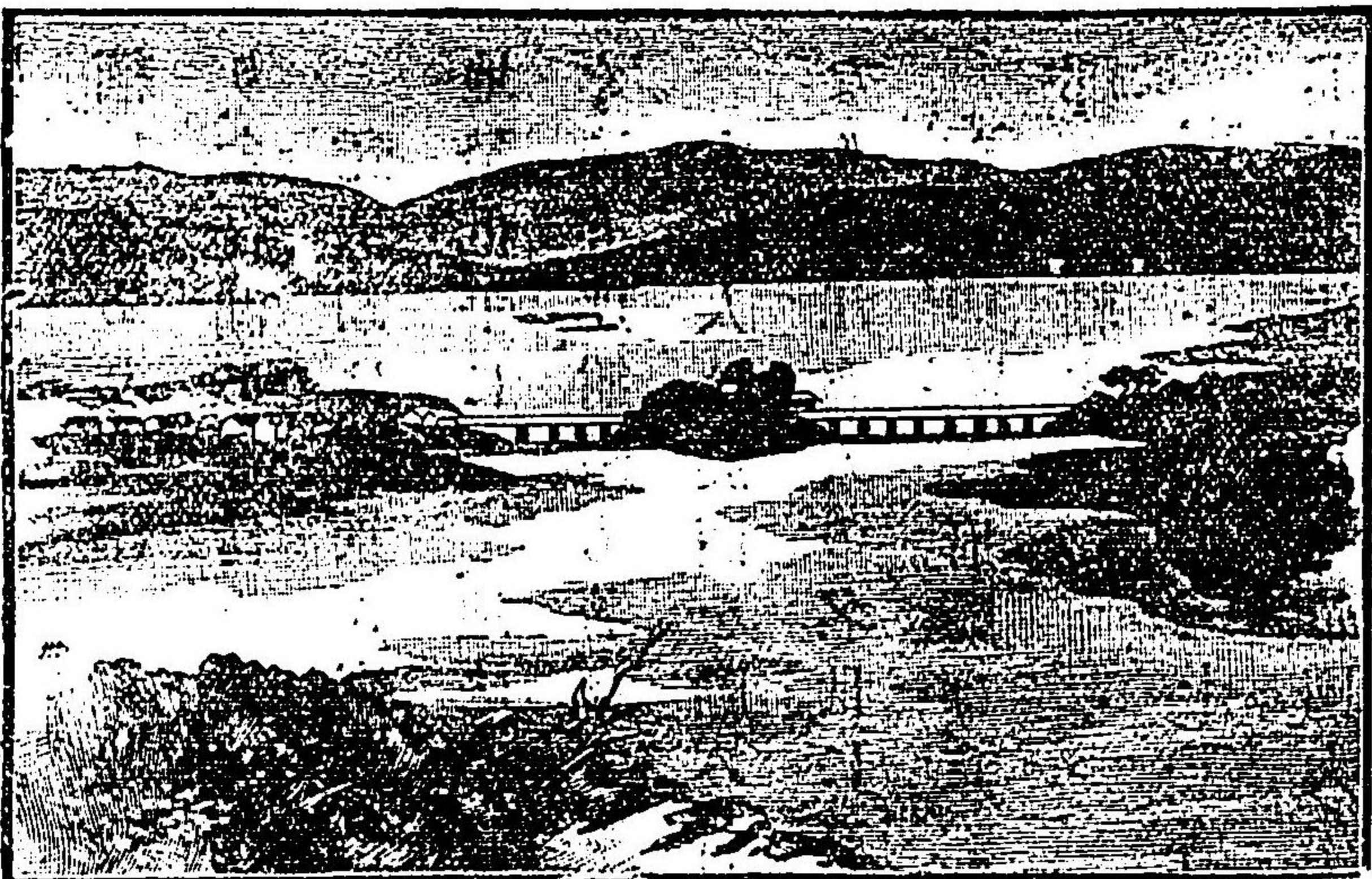
黒部川は、源を立山に發し、檜杉等の木材を運送するに便なり。此川に日本三奇橋の一と稱せらるゝ愛本橋を架す。立山々中に地獄谷と稱する處あり、常に硫烟を噴く。

滋賀縣 縣廳は、大津市

往昔天智天皇
皇都を此に奠
め給ふ

粟津原は源義
仲の戦死せし
ところ

伊井氏二十五
萬石



滋賀縣

三にあり、近江全國を管轄す。大津市は琵琶湖の西南岸に臨み、歩兵第九聯隊の衛戍地なり。水陸交通の便を有し、商業頗る盛んなり。これより粟津原を過ぎ、草津に至る。關西鐵道こゝに分れ、本線は湖野洲川を渡り、烟草及び藍の培栽に適する愛知、犬上兩川の灌域を越ゆ。彦根を経て、米原に至り、敦賀より來る鐵道と會し、東北に進みて、岐阜縣

姉川は織田信長と淺井朝倉と戦ひしとて、毘羅湖の古戦場は余吾ノ湖の南にあり

京都府

遊覽地

七六

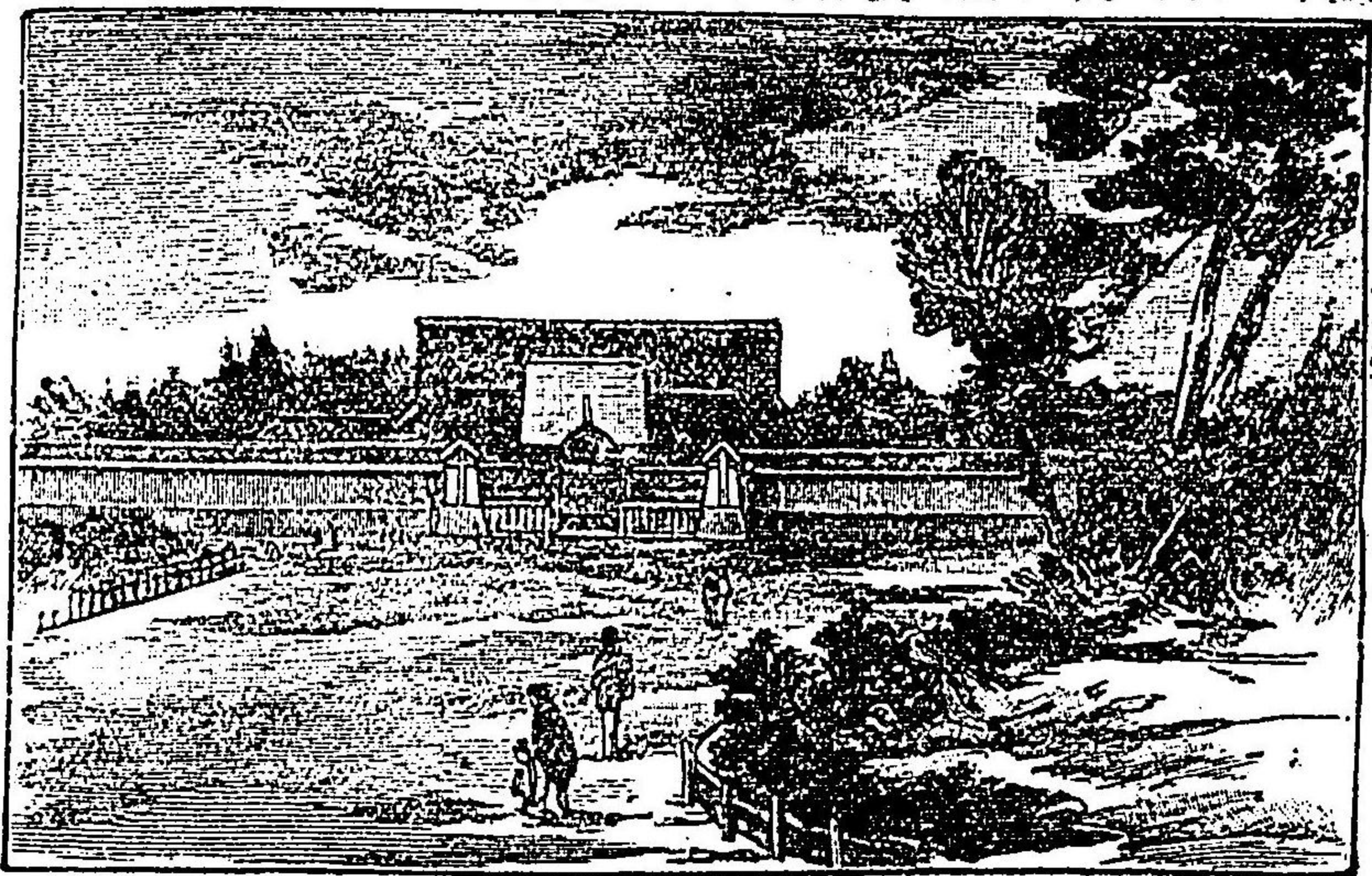
に入る。伊吹艾は、此附近より出づ。長濱は、米原の北にあり。縮緬に名あり、大津と流船の交通盛んなり。これより、姉川を渡り、余吾湖の近傍を過ぎ、柳瀬を貫き、福井縣に入る。琵琶湖は、風景に富み、流船往來して、運輸の便多し。周圍は、地勢低平にして、地味膏腴、頗る米穀に適し。湖中には、魚類多く、源五郎鮒最も著はる。

本縣人は、農商を勵み、行商をなすもの多く、頗る忍耐勤儉なり。近江商人の名世に高し。

京都市

府廳は京都市にあり。山城、丹後及丹波の内五郡を管轄す。

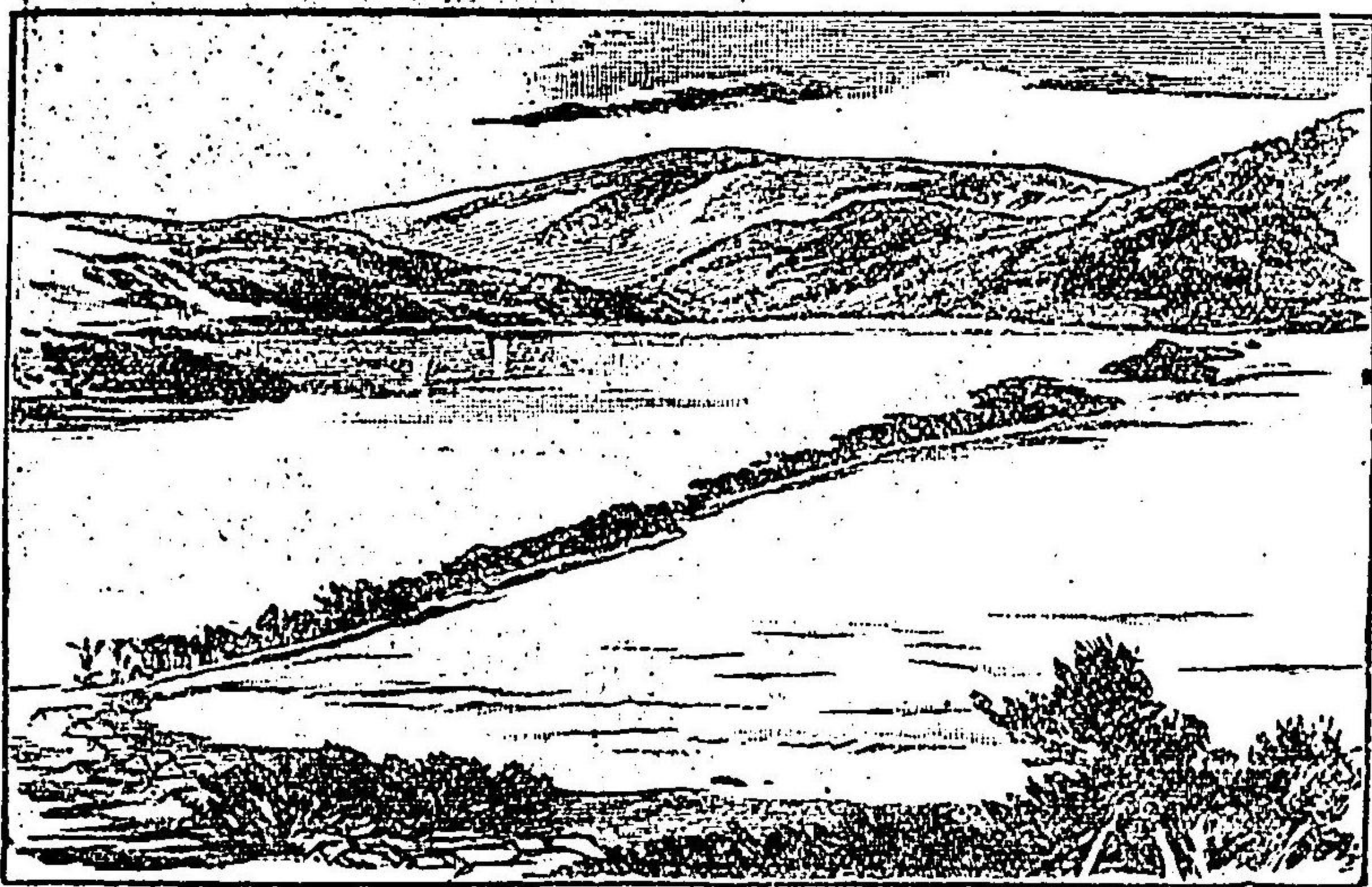
京都市（人口三十三萬二千）は、山城の中央にあり。加茂川其東を流る。京都帝國大學、第三高等學校、美術學校、博物館等



京都市

あり。街衢整正、大路東西に走る。三條通以北を上京といひ、以南を下京といふ。市の北部に御所あり、西方に二條の離宮あり。昔は、加茂川以西を洛中と稱し、以東を洛外と稱したり。川には、數多の橋梁を架す。近來琵琶湖の水を引き、工業及び運輸の便を助く。此地は、四周皆山にして、河川其間を貫流するが故に、山水の景に富

平安神宮は桓
武天皇を祀れ
る官幣大社
北野は菅公を
祀れる官幣中
社なり
豊國は秀吉公
建勳は信長公
護王は和氣清
應公梨木は三
條實萬公を祀
る別格官幣社
なり



み、名勝頗る多く、春は嵐山の
桜花を眺め、秋は高尾の紅葉
を賞すべし。桓武天皇延暦十
三年、こゝに皇居を奠め給ひ
し以來、千七十年餘間、帝都た
りしを以て、古跡亦甚だ多く、
橋 平安神宮、北野社、豊國、護王、建
勳、梨木の諸神社、泉涌寺、東西
本願寺、金閣寺、銀閣寺等の諸
佛閣最も著はる。物産は西陣
織、友禪染、清水焼、粟田焼等名
あり

京都の北は、山多く近江の境なる。比叡山には、延暦寺あり。
愛宕山は、國の西北隅にありて、桂川其麓を流る。これより丹
波に入り、龜岡を経て、福知山に至る。阪鶴鐵道は、大阪
より此地に達す。又歩兵第二十旅團司令部の所在地なり。福
知山より由良川に沿ひ、舞鶴に至る。港内水深く、第四海軍
鎮守府の指定地なり。又要塞砲兵こゝに衛戍す。これより由
良川を渡り、與謝海(宮津灣)に臨める。宮津に達す。市街繁盛
にして、新開港場の一なり。其近傍に天橋立あり、眺望絶佳。日
本三景の一と稱せらる。此國は、蠶業盛んにして、縮緬の産出
夥しく、峯山最も名あり。

京都より西南に向ひ、山崎を過ぎ、大阪府に入る。伏見
は、京都の南方二里にあり、京阪及び奈良に通ずる要路に當

り、歩兵第十九旅團司令部の所在地なり。其西南の八幡に、



茶 製

官幣大社男山
神社は應神天
皇外二神を祀

る平等院は往昔
源頼政の自及
せし處の自及
淀川の名これ
によりて起る
稲葉氏十一萬
石

奈良縣

元明天皇より
七代八十餘年
間の帝都
春日神社は天
兒屋根命を祀
る

郡山は松平氏
十五萬石の城
地

男山神社あり。宇治川の南岸に宇治あり、平等院は今尙存
し、近傍より茶を産す、宇治茶これなり。西方巨椋池の沿岸に
近く淀あり、これより南方に進み、木津に達す、其東方に笠
ゆる笠置山は、後醍醐天皇の行在所たりし所なり。

奈良縣

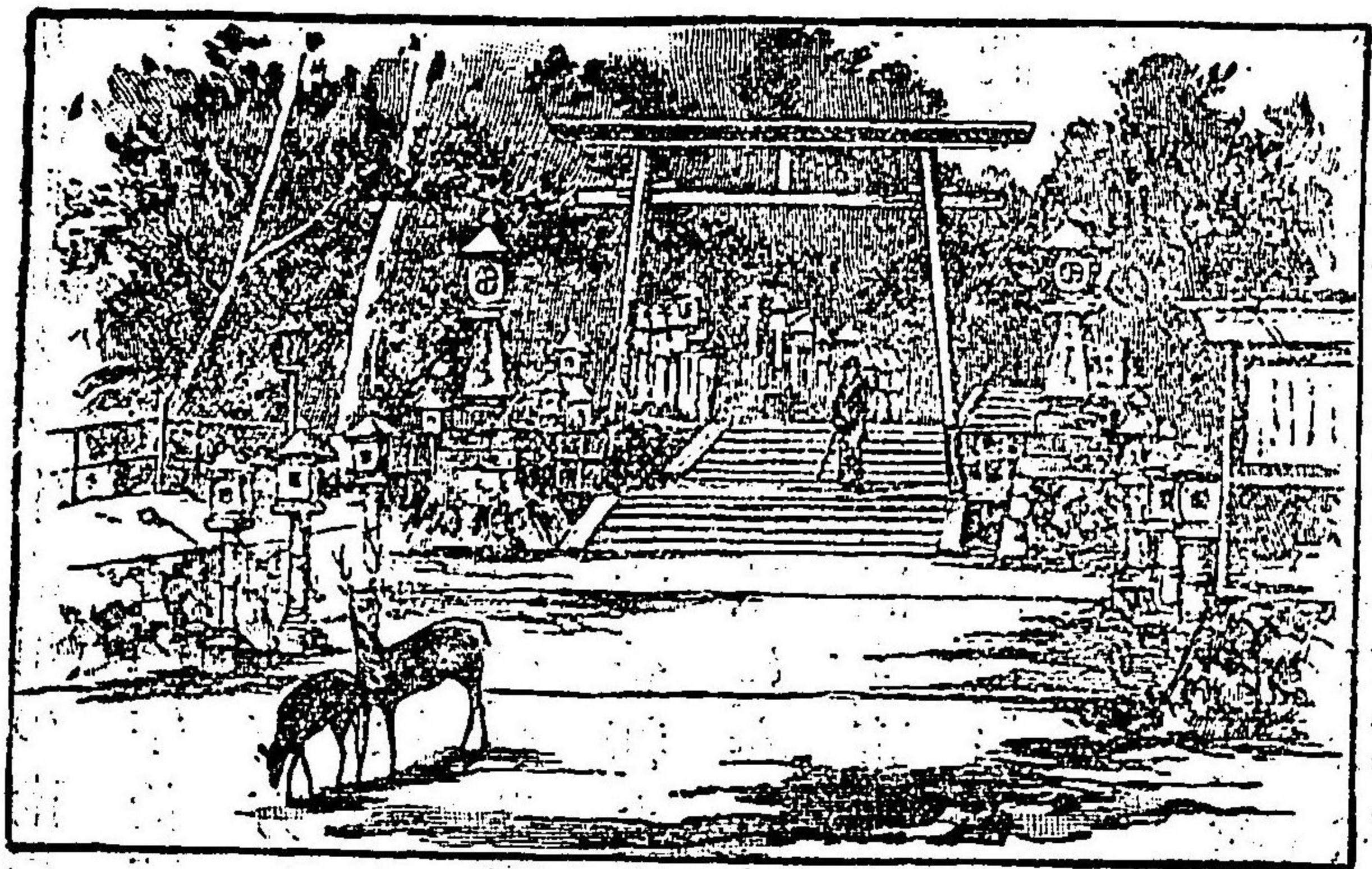
縣廳は奈良市にあり。大和全國を管轄す。

奈良市は、往古帝都たりしを以て、南都又は平城の稱あり。東方三笠山の麓に、春日神社あり。其西北の東大寺には、有名なる大佛を安置す。市内は、舊蹟に富み、帝國奈良博物館の設あり、奈良晒、奈良漬、墨等は此地の名産なり。月瀬は、東方木津川の上流にあり。

奈良より鐵道に依り、郡山及び古刹法隆寺の近傍を過ぎ、大和川の灌域に沿ひ、王寺に至り、こゝにて南に分れ、

談山神社は別格官幣社にして鑲足公を祭る

吉野野漆 吉野野紙 吉野野葛



高田を経て、櫻井に達す。其南なる多武峯には談山神社あり。沿道の畝傍山下には檀原神宮あり。高田より南、五條に至り、吉野川に沿ひ、吉野山に上る。此山は、櫻花に名高く、南朝の皇居たりしを以て、遺跡多し。紙葛、漆等は此地方より産す。山上嶽、釋迦岳等は其南に連り、吉野十二峯の稱あり。十津川は此北部に發源し、南流し、

て紀伊に入る。吉野川の灌域は、北部の低地と、大に趣を異にし、山岳重疊、交通不便にして、河流南より西に轉じて、紀伊に入る。これより以南は、地勢愈高く、良材に富み、十津川によりて紀伊に輸送す。

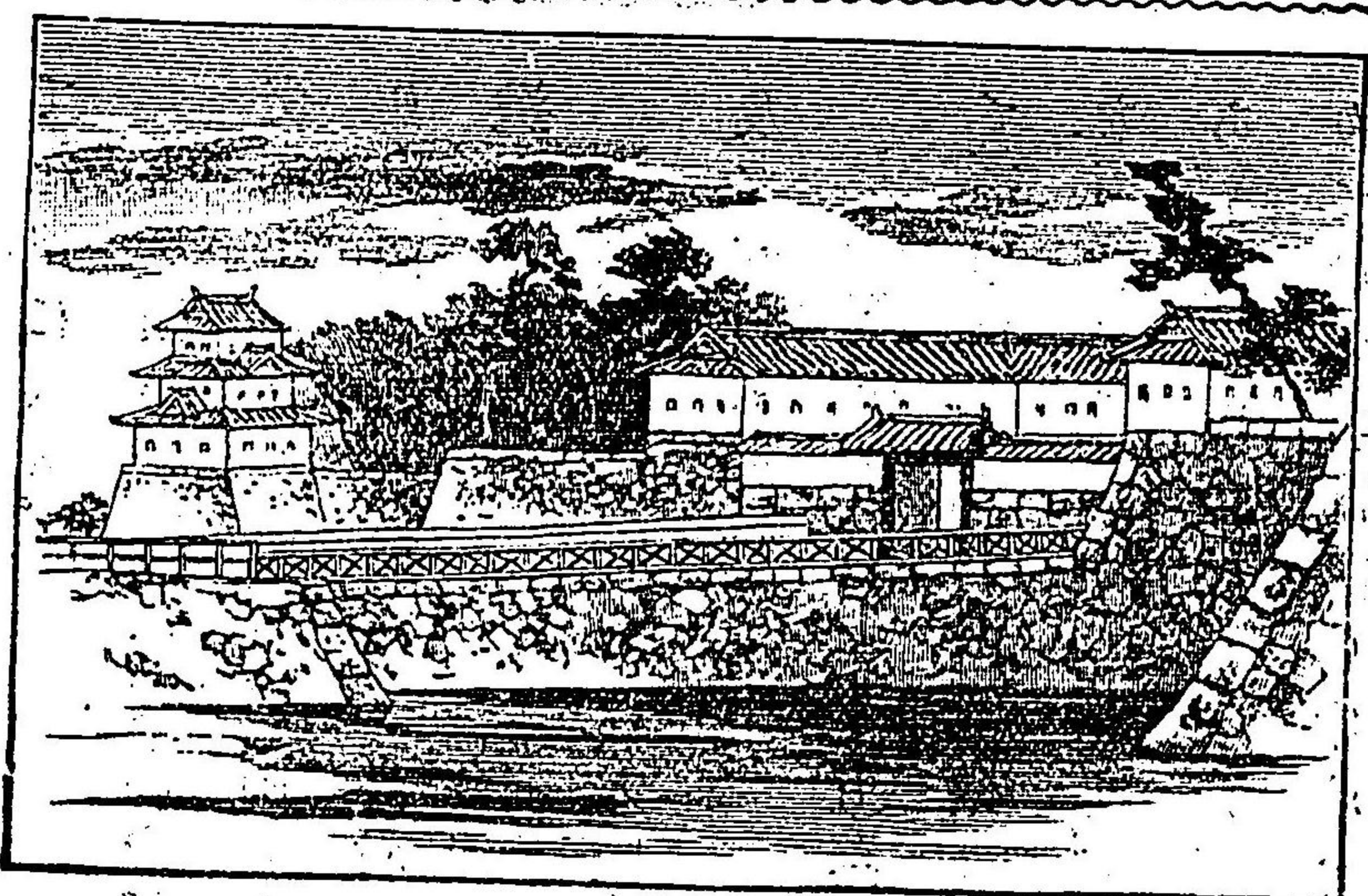
大阪府 府廳は、大阪市にあり。攝津の内一市、四郡、河内及び和泉を管轄す。

大阪市（人口七十五萬八千）は、東京に次ぐ大都會にして、淀川に跨る。溝渠縱横に通じ、鐵道四方に連り、運輸頗る便なり。昔は難波津と稱し、仁徳天皇の都し給ひし高津の宮跡あり。豊臣氏築城以來、市況大に盛大に赴き、徳川氏の世に至りては、本邦商業の中心となりしが、維新以來、外交の開くる

大阪府

橋梁甚だ多く八百八橋の稱あり
市内を東西南北の四區に分つ

大阪築港事業
は既に着手せ
られたり



に及び、港内水浅く、巨船を入
るゝ能はざるを以て、一時は
稍衰へ、現今は、復關西の要樞
に當り、貨物集散の地となり
て、繁榮日に加はり、商工業の
發達、他の都會に優るもの甚
だ多し。輸出物品は、錫、寒天、燐
寸綿絲、綿布類、酒等にして、總
價額約二百三十萬圓輸入物
品は、米、豆、綿、砂糖等にして、總
價額約四百四十萬圓(明治三十
年調査)
なり。第四師團司令部、砲兵工

補正行卿を祀
れる四條畷神
社(別格官幣
社)は四條畷
にあり

住吉神社は底
筒男命外三神
を祀り阿部野
神社は北畠顯
家卿及び親房
卿を祀る

廠、造幣局及び控訴院あり。紡績會社は、所々に散在し、綿絲の
産出甚だ盛なり。其他煙管、一貫張眞田織等の工藝品亦甚だ
多し。市の東南隅なる四天王寺、北方なる天滿宮等の境内は、
共に市人遊覽の勝地なり。

大阪より淀川の灌域を上れば、史上に名高き櫻井を經
て、京都に至るべく、東に向へば、四條畷シノハラの古戰場に達すべ
し。河内、大和の境は山岳相連なりて、北より南に互り、金剛山
に及ぶ、其山腹に千早の城趾あり。

堺市(人口五萬)は、和泉にあり、大和川の口に臨み、阪堺
鐵道に依りて大阪に通ず。昔時は繁盛なる港にして、今尙ほ
此國第一の都會なり、鐵器及び緞通を特産す。

大阪と堺との間なる住吉に、住吉神社(官幣大社)及び阿部

安治川は川村瑞軒の開きしもの

和歌山縣

和歌山は徳川氏五十五萬石の城地

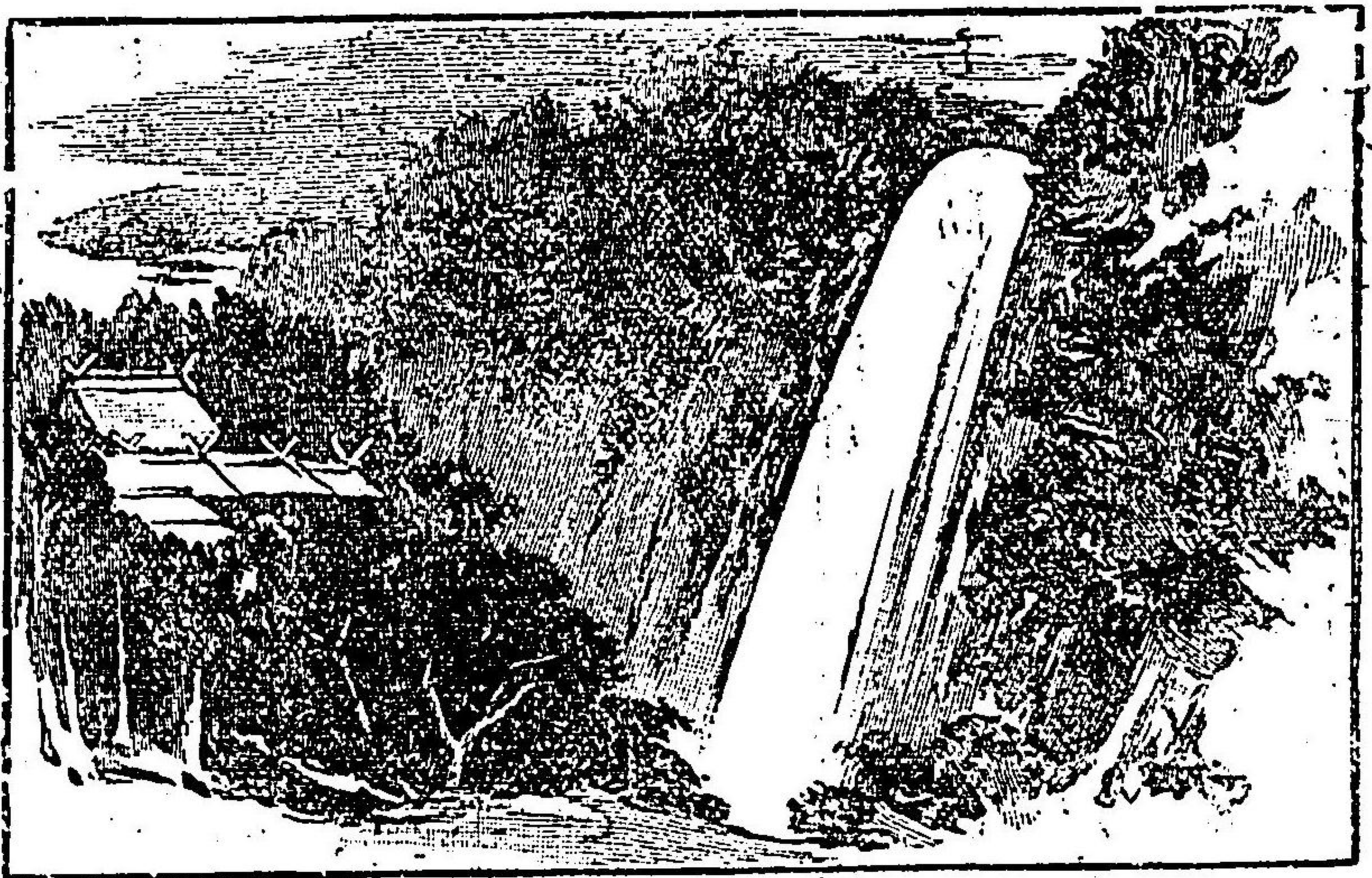
聖武天皇明光浦の名を給ふ
金剛峯寺は空海の開基なり

野神社(別格官幣社)あり。淀川は、近江より來り宇治地方を灌漑し、宇治川と稱せられ、淀に至りて、桂川及び木津川を合せ、初めて淀川と稱し、二派に分れて、大阪灣に注ぐ。安治川は、其一派なり、全長二十里、伏見より以下小蒸氣船往來す。

和歌山縣

縣廳は、和歌山市にあり、紀伊の内一市七郡を管轄す。

和歌山市は、紀伊川の口にあり、徳川氏の親藩を置きし地にして、大阪より凡十八里、綿フランネルを名産とす、水陸運輸の便あり、商業盛んに行はれ、主として大阪と取引す。近傍に和歌浦あり、風光頗る明媚なり。和歌山より、紀伊川沿岸の大和街道を上れば、高野山の麓に至る、金剛峯寺あり、昔



和歌山縣

は、僧坊三千の靈場にして、高野豆腐の名世に高し。これより、奈良縣下なる五條に至れば、これと共に、紀伊川は、吉野川と稱せらる。和歌山の南に、漆器を産する黒江あり。これより以南には、有田川、日高川あり、西流して、紀伊海峽に注ぐ。有田川の灌域は、多く蜜柑を産す、紀州蜜柑これなり。尙ほ海岸に沿ひて、南進し、潮岬に達す。此

那智瀑は直下八十餘丈本邦第一と稱せらる

兵庫縣

兵庫縣

九〇

岬の東西は、紀州洋と稱し、航海危険なり。大島は、其東にあり、これより東北に新宮あり、熊野川其東を流れ、那智山其西に聳ゆ。有名なる那智の瀑布、山の半腹に懸り、遠く紀州洋より望むを得べし。熊野浦は、捕鯨盛んにして、鯨節亦名あり。新宮より、熊野川の沿岸を上れば、温泉ある本宮に至り、尙ほ進みて、奈良縣に入れば、これと共に、熊野川は、十津川と稱せらる。

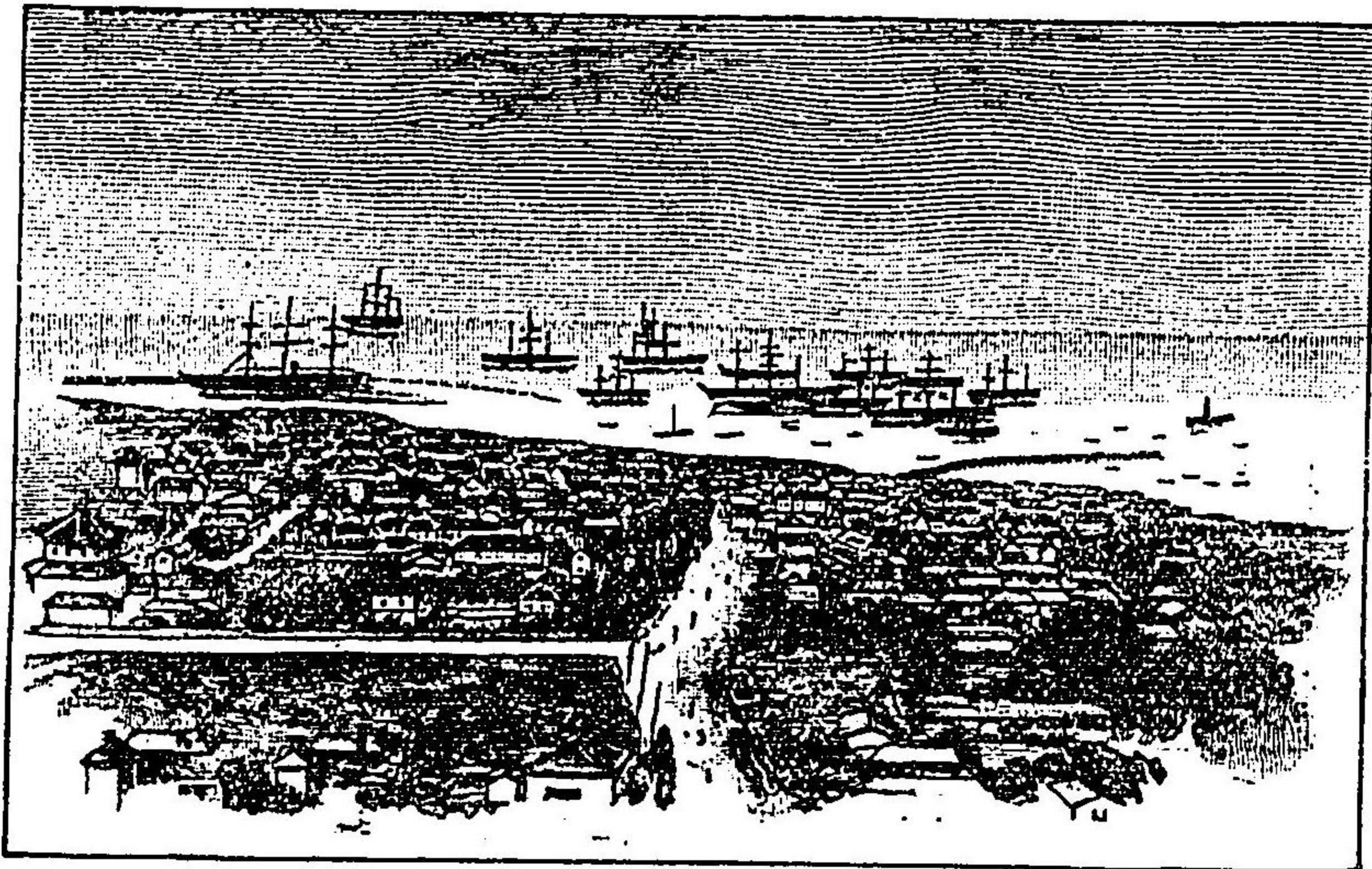
紀伊の田倉岬は、淡路の生石崎と相對して、由良海峡をなし、友島を挟み、大阪灣の咽喉を扼し、堅固の砲臺あり。

兵庫縣

縣廳は、神戸市にあり。攝津の内一市、三郡、丹波の内二郡及び但馬、播磨、淡路三國を管轄す。

神戸市（人口十九萬三千）は、攝津の西部にあり、もと五

湊川は楠公戦没の舊蹟にして、湊川神社は別格官幣社なり



兵庫縣

港の一に數人、横濱と並び稱せらる。輸出物品は米、茶、樟腦、燐寸、石炭、銅、陶磁器、水産物等にして、總價額約五千四百四十萬圓。輸入物品は綿、綿絲、織石、油、砂糖、金巾、豆類等にして、總價額約一億一千七十萬圓。（明治三十年）此地は、もと神戸、兵庫の二市街を成し、湊川を以て境とせしが、今は合して一市をなす。紙及び食牛の名産あり。神戸の後に武庫、摩耶の諸山

九一

播磨に近き船越は一ノ谷と共には源平ノ戦を以て名高し



舞子の濱

相連なり、其北に有馬の温泉あり。又神戸より東に向ひ、醸酒に名ある灘地方を過ぎ、尾ヶ崎に至る。鐵道は、此地に起り、清酒を以て名ある伊丹、池田の諸邑を経て、丹波の福知山に通ず。神戸より西に向へば、須磨、舞子を過ぎて、縮を産する明石に至る。途に一谷の古戰場あり、此邊は白砂青松相連なり、前に淡路島を望み、風色絶佳なり。明石より加古川、市川を渡り、姫

姫路は酒井氏地十五万石の城

路市に至る。第十師團司令部あり、又革細工、高砂染等を産す。南は、飾磨津に接し、北は播但鐵道によりて、但馬の生野、銀山に通ずべし。生野の北に出石あり、出石焼を産す。其西北に、豊岡ありて、柳行李を出す、附近に玄武洞あり、城崎温泉は其に北あり。

姫路より、右に書寫山を望み、揖保川を渡り、龍野に至る。此地醬油を産す。其西南赤穂は、海濱遠淺にして、製鹽に適す。北方に白旗の城趾あり。室津港は、其東にあり。

淡路には、東岸に洲本あり、第一の名邑とす。由良は、其南にありて、由良海峡を扼し、要塞砲兵こゝに衛戍す。福良は、四國に渡る要津なり。此嶋は、北に狭く、南に開き、略三角形をなす。國內山多し、雖も、地味穀物に適し、人口極めて稠密

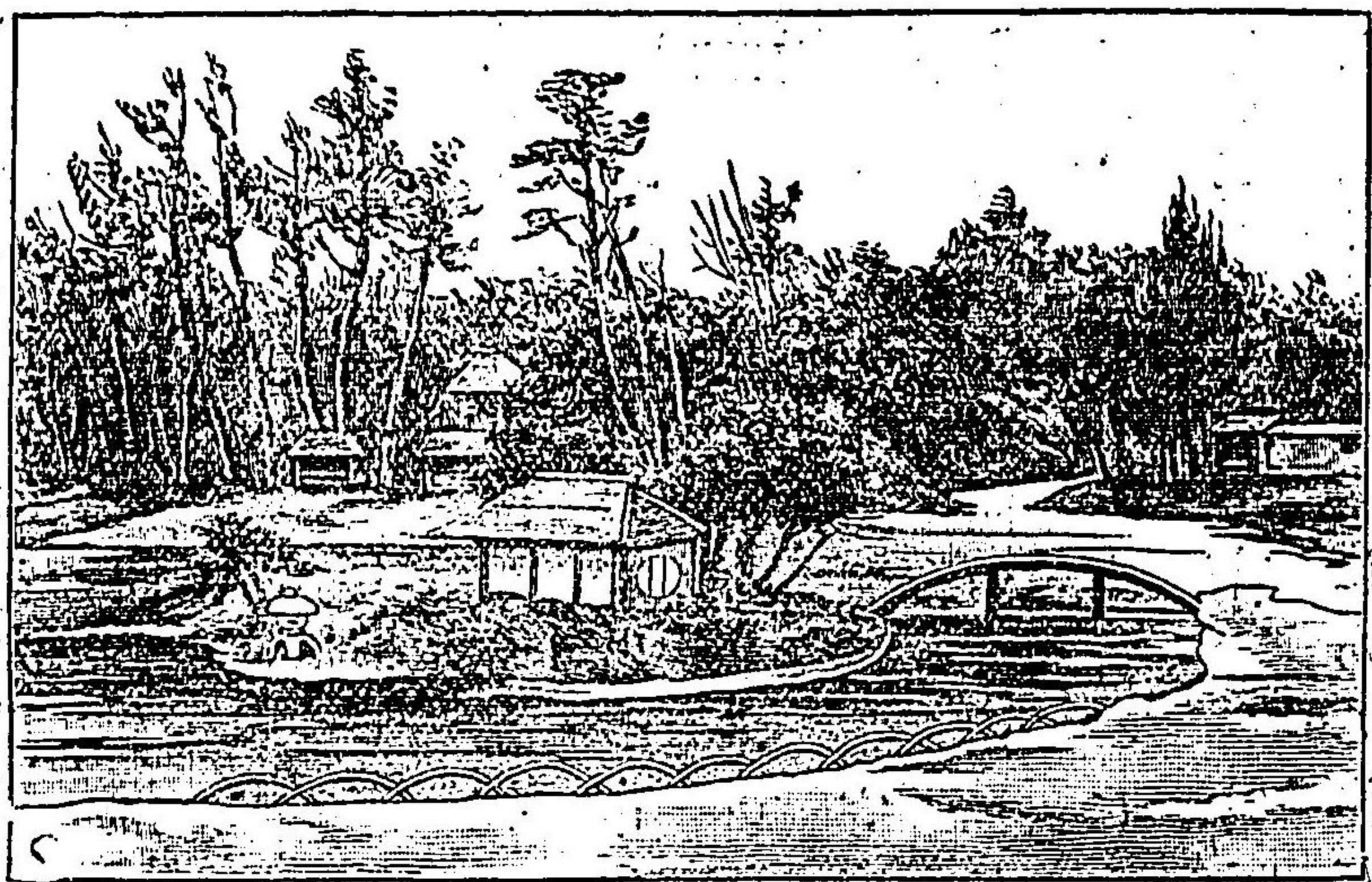
をり。且魚介の利尠からず、又伊賀野焼を特産とす。

岡山縣

岡山は池田氏
三十一萬石の
城地其後樂園
は日本三公園
の一

伊部の西に刀
劍の名高き長
船あり

岡山縣 縣廳は岡山市にあり。美作、備前、備中を管轄す。
岡山市 は、第六高等學校及び第三高等學校醫學部の所
在地なり。市況繁盛にして、旭川これを貫く。河口に三番港
あり、前に兒島灣を控へて、兒島半島を望み、古の藤戸の渡、今
は此半嶋と、本陸との地頸と變じて存す。岡山より東北、吉
井川(東大川)を渡り、陶器に名ある伊部を経て、蠟石及び煉
化石の産地なる三石に着し、舟阪山の隧道を過ぎて、兵庫
縣に入る。岡山の北、美作の中央に津山あり、吉井川の上流
に臨み、足袋の製造に名あり。中國鐵道は、岡山より此地に達
し、四近は藍及び烟草の栽培に適す。其西に院庄あり。兒島
高德の題詩を以て聞ゆ。これより高田川(旭川)の上流に沿ひ、



岡山縣

北すれば、即ち鳥取縣に入る。
四十曲は、其間の峻阪なり。岡
山より、吉備、中山の附近を過
ぎ、大川(川邊川)の下流なる玉
山島に至る。笠岡は、其西にあ
り。秀吉の水攻を以て有名な
る高松は、其東北にあり、大
川の上流なる高梁は、備中
第一の都會なり。

旭川(西大川)は、美作の北よ
り來り、南流す。岡山より、雲伯
に通ずる要路にして、舟運灌

漑の利兼ね具はる。大川(川邊川)は源を山陰、山陽の境に發し頗る運輸灌漑の便あり、灌域は綿及び蘭席を産す。

廣嶋縣

廣嶋は淺野氏
四十二萬石の
城地

二十七八年の
役大本營を此
地に進めらる

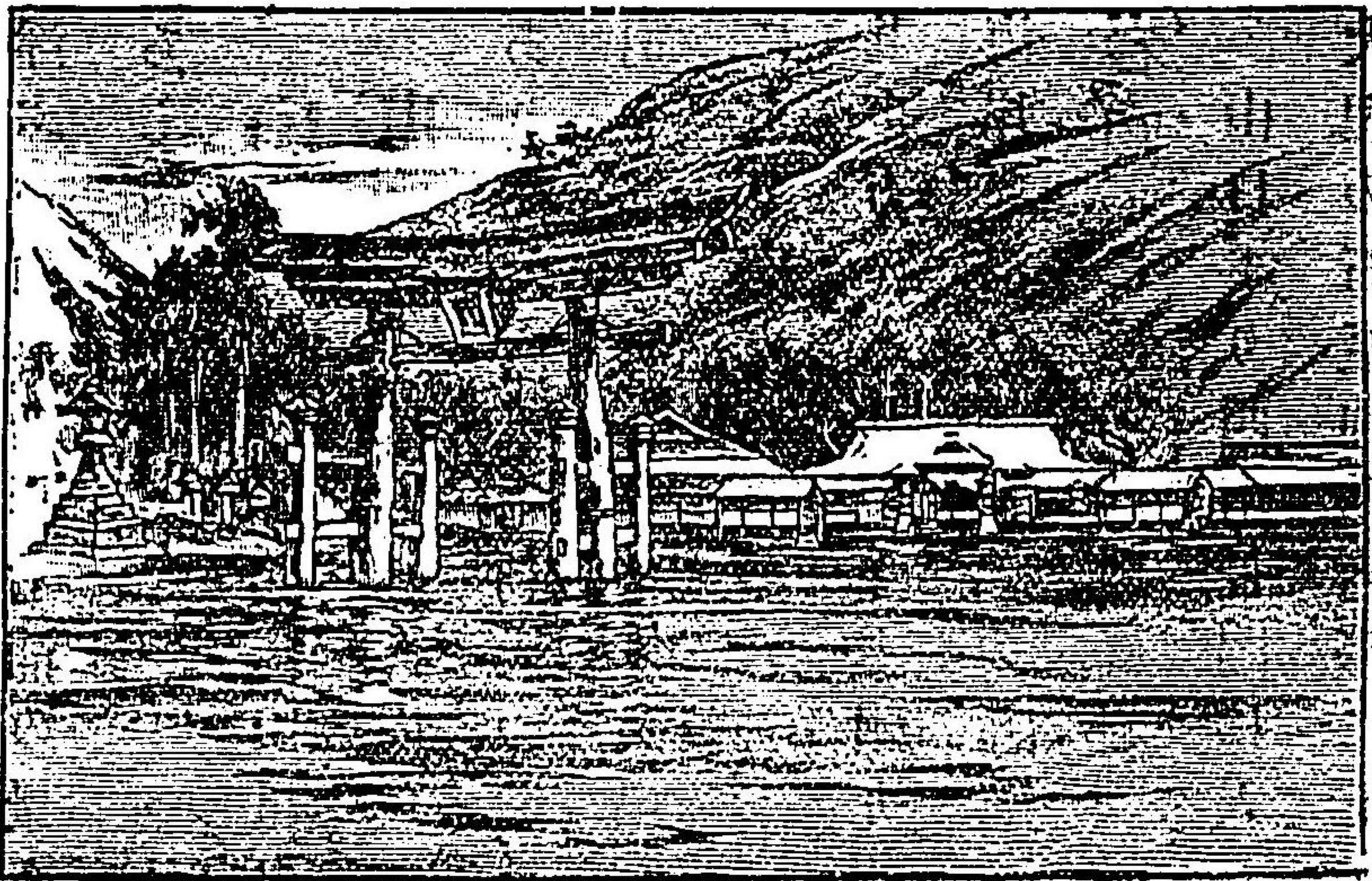
福山は阿部氏
十一萬石の城
地

廣嶋縣

縣廳は、廣嶋市にあり。備後、安藝を管轄す。

廣嶋市(人口十萬七千)は、太田川に跨り、中國第一の都會にして、第五師團司令部、控訴院等あり、繰綿、蚊帳、牡蠣等を特産す。頼山陽此に出づ。市の南方太田河口に宇品港あり、漁船の往復頻繁なり。港の西南に嚴嶋あり、廣嶋の東南に吳港あり、第二海軍鎮守府の在る處にして、要塞砲兵亦ここに衛戍す。前面の江田島には、海軍兵學校あり。これより、海田市にかへり、東備後に入り、煙草及び鹽の産ある三原を過ぎ、尾ノ道市に達す。向島、其前に横はり、船舶の出入多し。鞆は、其東南にある港にして、保命酒を産す。福山は、其

嚴嶋神社は市
杵島姫を祀る
を以て此島を
一名宮島とい
ふ



嚴 島

北にあり、繰綿を出す。尾ノ道より、國の中央を過ぎ、三次に出づ。山陰、山陽の要路に當り、市街繁盛なり。これより安藝に入り、吉田を過ぎ、廣嶋に還る。吉田は、毛利元就卿の居城ありし處なり。

嚴嶋は、日本三景の一にして、周回七里、嚴嶋神社あり、社殿は、平清盛の造營にかゝり、岸により、水に架し、廻廊長く繞り、満潮の時は、殿廊水上に

浮ぶが如し。沿岸七浦の景あり。又毛利元就卿の陶晴賢を討ちし古跡あり。

山口縣

山口は毛利氏の三十六萬石の城地
豊榮神社は別格官幣社なり

山口縣

縣廳は、山口町にあり。周防、長門を管轄す。

山口町

は、もご大内氏の城地にして、山口高等學校たかとうがくの設あり。文久以後毛利氏の城地にして、今は歩兵第二十一旅團司令部の所在地なり。又毛利元就卿を祀れる豊榮神社トヨサカこゝにあり。南東の海濱に三田尻あり、近傍鹽田多し、徳山は

其東方にあり、現今本州九州間交通の要點に當る。これより海岸に沿ひ、柳井縞の産ある。柳井津やなぎいづに至り、轉じて北方

岩國いわくにに達す。此地は、岩國縮を産し、錦帶橋を以て名高し。山口より西南長門に入り、厚東川を渡る。上流は、有名なる大理の石産地、秋吉臺にして、其西南海岸は、石炭を産し、小野

錦帶橋は一に算盤橋といふ日本三奇橋の一なり

浦は源義經の平家を滅せしところ

赤間關は又馬關或は下ノ關といふも長島の上ノ關と波郡中ノ關と合せて三關と稱せり

田のセメント會社、其他の工場あり。赤間關の前方二里に、豊浦あり、其西は、即壇浦の古戰場なり。赤間關市は、新開港場の一にして、瀬戸内海の咽喉に當り、市況頗る盛んにして、良質の硯を産し、多額の煙草を製す。赤間宮は、此市内にあり、此地には、又要塞砲兵衛戍す。赤間關の東北に萩あり、毛利氏の舊城地にして、吉田松蔭、木戸孝允等、此地に出づ。夏橙の産あり。長門の海岸は、出入に富み、西北部は、鯨獵を以て名あり。

馬關海峽は、瀬戸内海の西門なり、其東口は、潮流急にして、これを早瀬、瀬戸といひ、西口は、彦島横はりて、更に南北二口に分れ、北口には、燈臺あり。

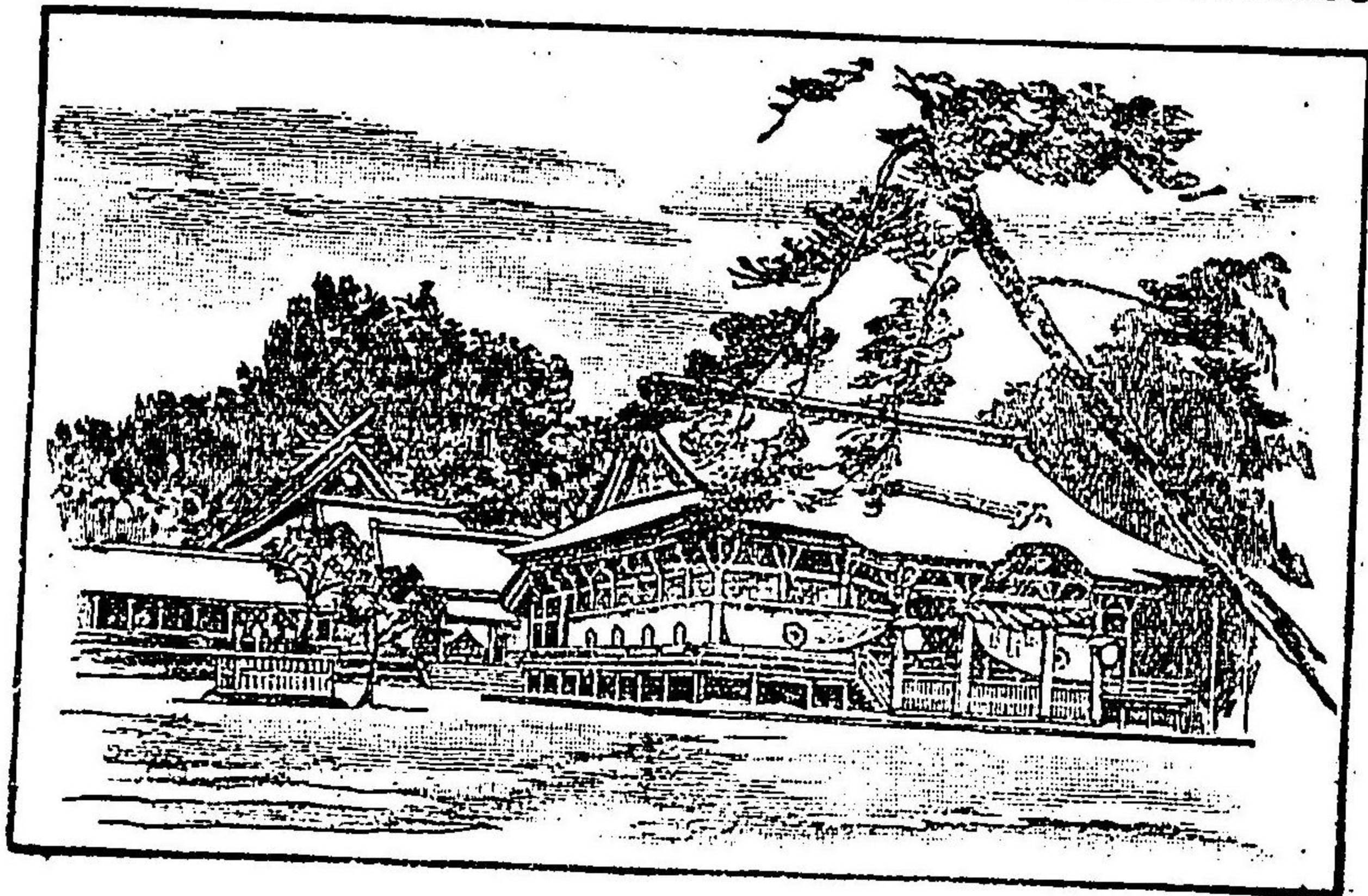
島根縣

島根縣

縣廳は、松江市にあり。出雲、石見、隱岐三國を管

松江は松平氏
十八萬石の城

上流簸の川上
に神代の古蹟
あり



轉す。

松江市 は、鱸を産する

宍道湖の東岸にあり、小流船

出 東西に往復して、交通の便あ

り。市の近傍は、製絲、製茶及び

雲 陶器製造の業盛んなり。

松江より西に進み、斐伊川

を渡り、杵築に至る。有名な

社 大 官幣大社出雲大社ありて、

大己貴命を祀る。簸川は、源を

船通山に發し、宍道湖に入る。

此川及び神門川の灌域は、米

高津川口に歌
聖梯本人磨の
祠あり

富田の城は尼
子氏の據りて
雄を中國に振
ひしどころ

穀の産額少からず。杵築より海岸に沿ひ、石見に入り、三瓶山
を望みて、大森に至り、江川を渡り、濱田に向ふ。濱田は歩
兵第二十一聯隊の衛戍地にして、又新開港場の一なり。これ
より鮎に名高き高津川を渡り、徳佐峯の南麓を過ぎ、山口縣
に入る。笹谷の銅山其近傍にあり。又松江の東南、廣瀬には、
富田の城址あり。廣瀬より、半鹹の中海に出で、安來を経て、
鳥取縣に入る。

隠岐島は、出雲の北方にあり、四大島より成り、分て島前、島
後とす。沿海は、水産に富み、鰯は殊に名高く、朝鮮、支那等に輸
出す。西郷港 は、最大島なる島後にあり、日本海の良港と
稱せらる。島前の西、島には、後醍醐天皇黒木御所の舊跡あり。
中、島には、後鳥羽上皇の御火葬場あり。地味極めて礫礫にし

て、耕耘に適せず、住民は漁業を主とす。隱岐は、警備隊の衛戍地として、指定せられたる所なり。

鳥取縣

鳥取は池田氏の三十二萬石の城地

鳥取縣

縣廳は、鳥取市にあり。因幡、伯耆二國を管轄す。

鳥取市

は、歩兵第四十聯隊の衛戍地なり。市街加露川に

臨み、南は、其河流に沿ひ、中國山脈を越えて、姫路に、北は、加

露港に通ず。東には、岩井の温泉あり。此市より西、湖山池

の近傍を過ぎ、天神川に出づ。其上流に倉吉あり、木綿及び

飛白を産す。船上山は、其西にあり、其脈西に延びて、大山に連

る。大山は、中國第一の高山にして、山麓の大山原は、牧畜の業

盛んに、京阪地方に食牛を供給すること甚だ多し。其西に日

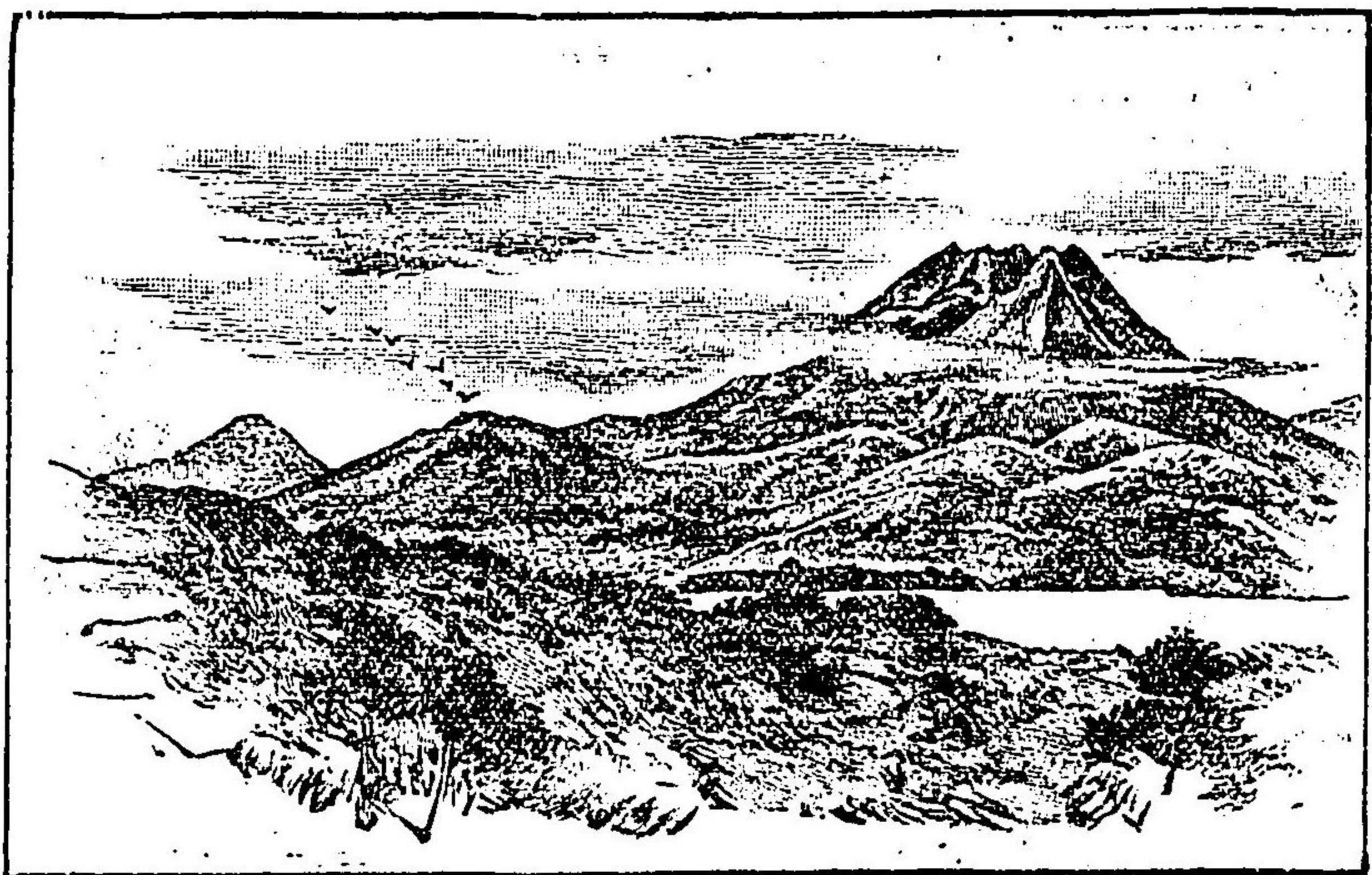
野川あり、此川の上流は、大に砂鐵を産し、其河谷は、山陰山陽

を連絡す、河口の西方、長く斗出する砂嘴を夜見濱といふ、綿

船上山は名和長年卿の嘗て王事に勤勞せしところ名和神社は名和村にありて別格官幣社なり

徳島縣

徳島は蜂須賀氏二十五萬石の城地



伯耆の大山

を産すること夥し。其基脚に

米子あり、北端に、新開港場の

一なる境港あり。

本縣は、土地狹長、其幅廣き

も十里を出づる處稀なり。南

方は、山又山を疊み、海岸は、平

坦にして、出入極めて少く、良

港に乏し、故に河流は、短く且

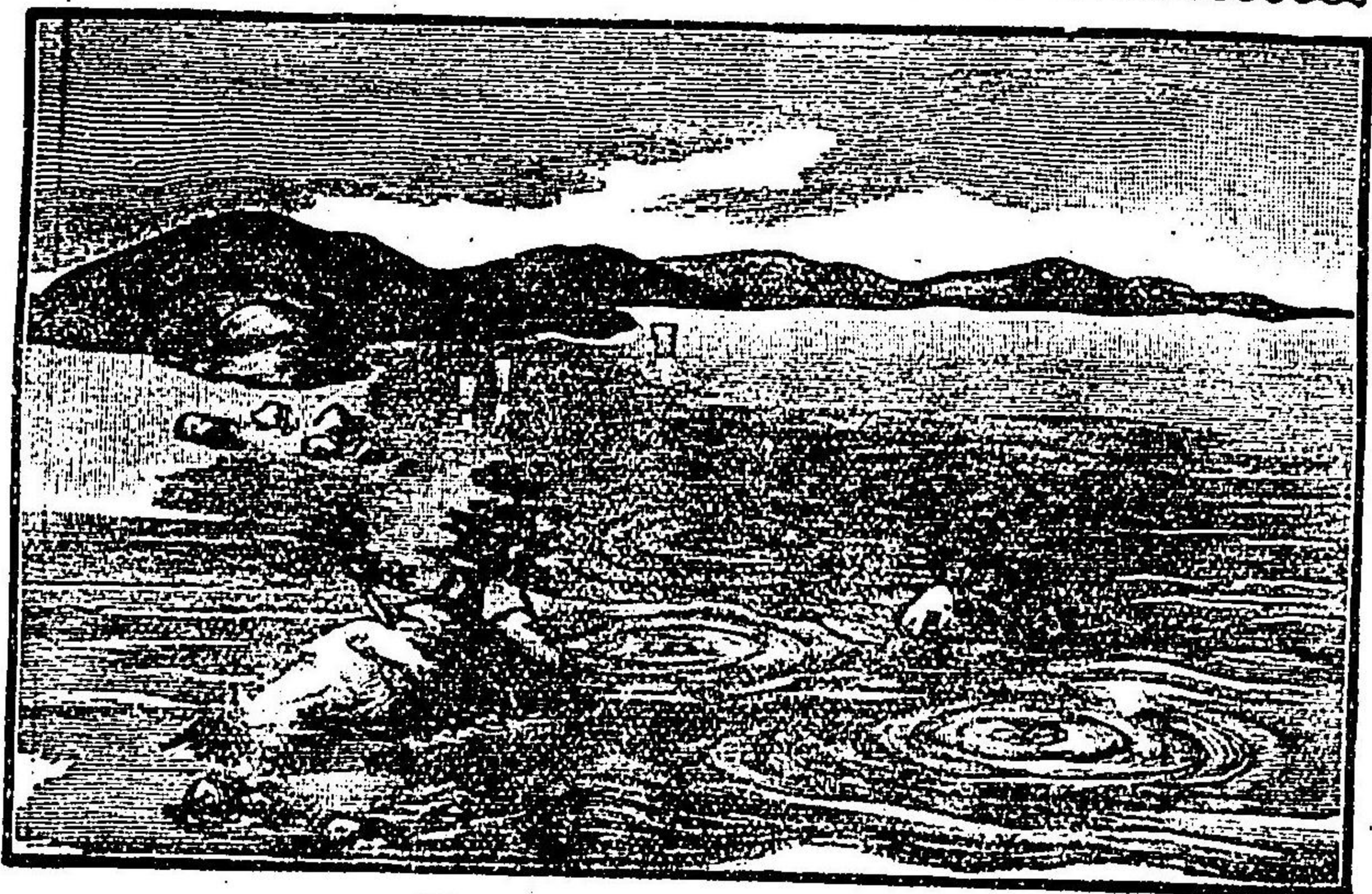
つ急なり。

徳島縣

縣廳は、徳島

市にあり。阿波全國を管轄す。

徳島市 は、吉野川の南

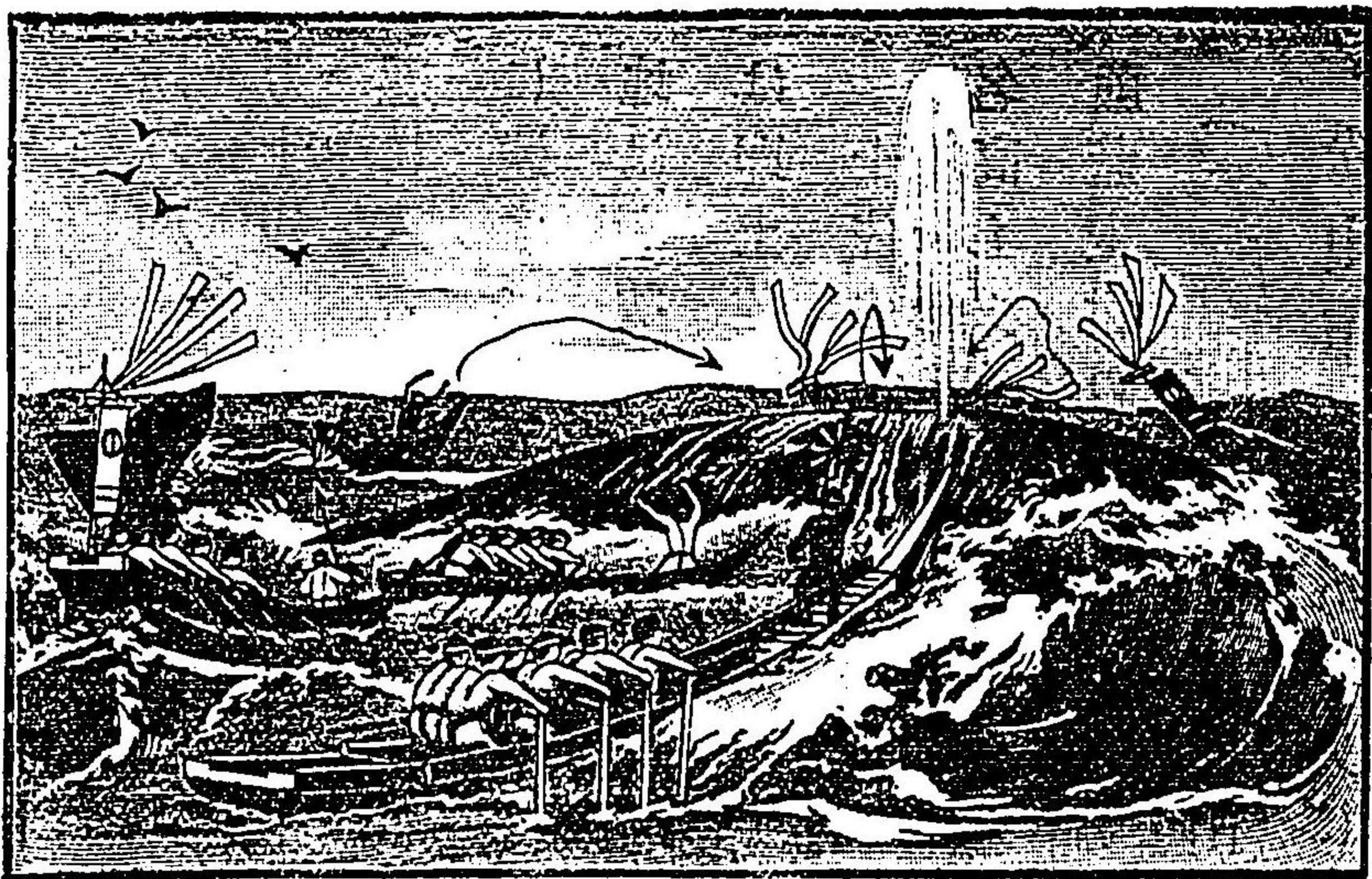


岸に位し、四國第一の都會にして、緞織は、夙に名高し、北方數里撫養港あり、淡路に渡る要津にして、齋田鹽を産す。鳴門海峽は、潮流の急なること、本邦第一にして、渦流を成し、舟行危険なり。

鐵道は徳島より起り、吉野川の岸に沿ひ、西に延びんこと、藍業の盛なる脇町、烟草の産ある池田は、皆此川の河谷にあり。

剣山は國の西
境にあり四國
第二の高峯な

高知縣



(式舊) 獵 鯨 の 邦 我

徳島より、更に南に向ひ、小松島を経て、富岡に至る、共に製鹽盛んなり。これより、日和佐を経て、遂に高知縣に入る、

阿波は、四國山脈東西に走りて、地勢を兩分し、北に吉野川あり、南に那賀川あり、吉野川の灌域は、平坦肥沃にして、頗る農産に富む。

高知縣

縣廳は、高知市にあり。土佐全國を管轄す。

高知は山内氏の
二十四萬石の
城地

浦戸は今は一
小村なるも古
昔長曾我部元
親居城を構へ
四國全部を征
服せし處なり

高知市 は、歩兵第四十四聯隊の衛戍地なり。市街鏡川に
臨み、南浦戸港に通ず。これより南方須崎港を過ぎ、渡川(四
万十川)を渡り、捕鯨の盛んなる足摺岬の頸部を過ぎて、愛媛
縣に入る。高知より、仁淀川を上れば、又愛媛縣に入り、久万
に達すべし。高知の東に 赤岡 及び 安藝 あり、これより陸
地は漸次東南に突出し、室戸崎に終る。此岬と摺岬と足の間
は、即土佐灣なり。

土佐の沿海は、水産の利尠からず、殊に鯉節、珊瑚、鯨は世に
名高し。又本縣は、降雨多量、氣候溫暖なるを以て、其沿岸は、甘
蔗、藍、蜜柑の如き、半熱帯の植物に富む。

愛媛縣

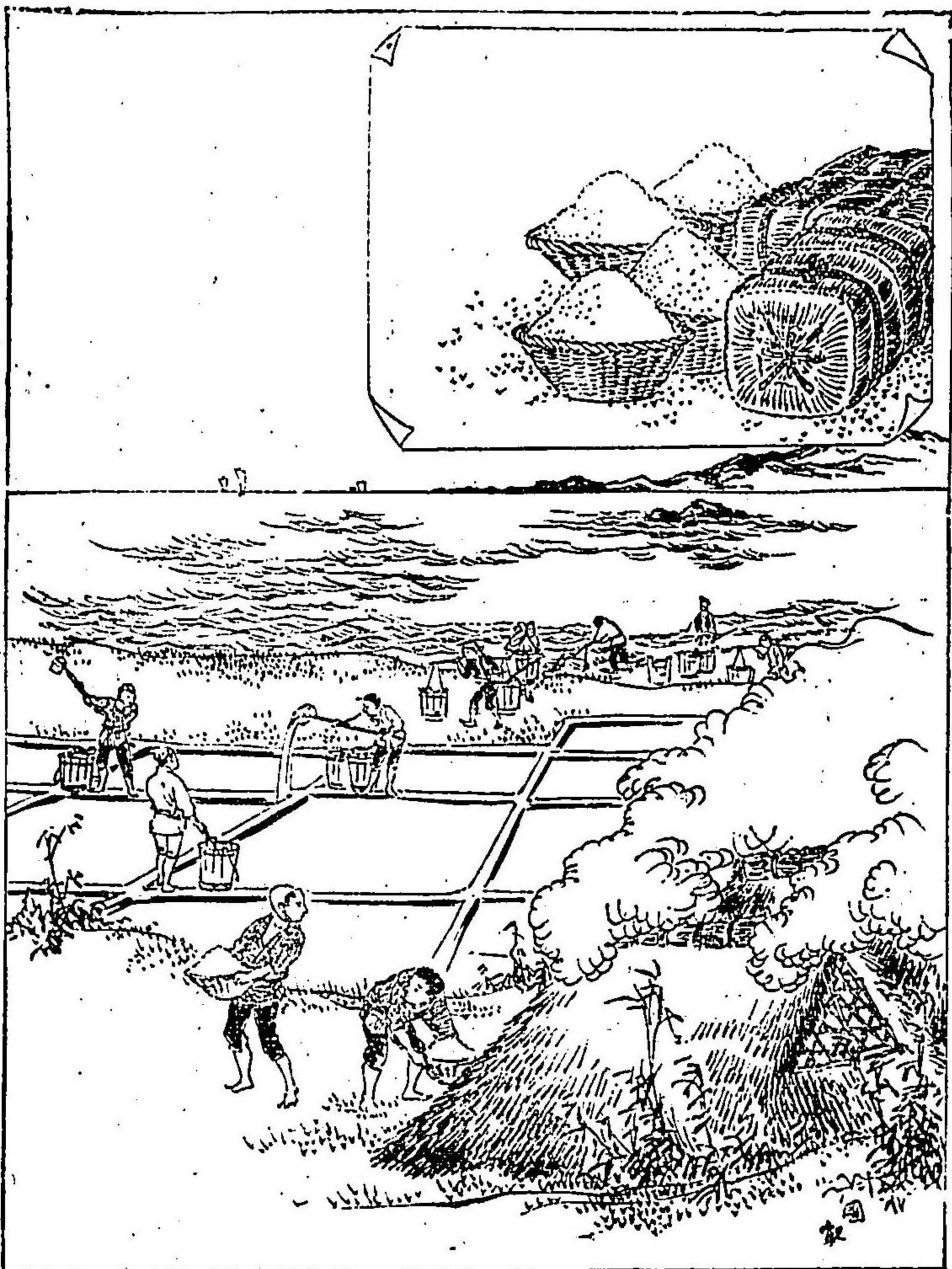
松山は松平氏
十五萬石の城
地

愛媛縣

縣廳は、松山市にあり。伊豫全國を管轄す。

松山市 は、國の中央にあり。歩兵第十旅團司令部の所在

地なり、木綿飛白を産す。市の東北十餘町に、有名なる 道後



鹽 製

宇和嶋は伊達
氏十萬石の城
地

別子は本邦第
二の銅山なり

石槌山此中に
あり四國第一
の高峰なり

香川縣
高松は松平氏
十二萬石の城
地

の温泉あり。松山の西北西に、三津濱あり、船舶の出入多し。これより肱川を渡り、佐田岬を經南すれば、八幡濱、宇和島の良港あり。八幡濱は、九州に渡る要津にして、宇和島は、此國第二の都會なり。又松山の東北には、今治あり。これより東南海岸に沿ひ、新居濱を過ぎ、香川縣に入る。新居濱以西は、製鹽頗る盛んにして、南方に別子の銅山、市川のアンナモニー鑛山あり。

本縣の南境には、四國山脈連互し、餘勢は、瀬戸内海に向ひ高繩山嘴となり、地勢を東西に分つ、山脈以東は、平地稍多し。

香川縣 縣廳は、高松市にあり。讚岐全國を管轄す。

高松市 は、此國第一の都會にして、保多織を特産す。

屋島は、其東方にある古戰場にして、志度は、其東南に當

五劍山はもと
も今は其一峯
崩壊せり
白峰に崇徳天
皇の山陵あり
其宮趾を鞍ヶ
岡といふ

屏風浦は僧空
海の生地或は
云ふ善通寺な
りと



香川縣

り、崇徳天皇の行在所ありし
ところなり。五劍山は、其北に
聳ゆ。高松より白峰の近傍を
小過ぎ、丸龜市に至る、第十一
豆師團司令部の所在地なり。其
西に多度津あり、船舶の寄
泊するもの多く、四國中國間
郵便線路の要點に當る。

これより、善通寺を過ぐ、
其南に琴平あり、背後の象
頭山には、有名なる、金刀比羅
神社あり、近海に屏風浦あ

本縣は、本邦中面積最も小なれども、海岸は、出入多く、島嶼海上に碁布し、漁業及び製鹽業頗る盛んなり。觀音崎の東北に、醤油を以て有名なる小豆島、周回三十餘里あり。

大分縣

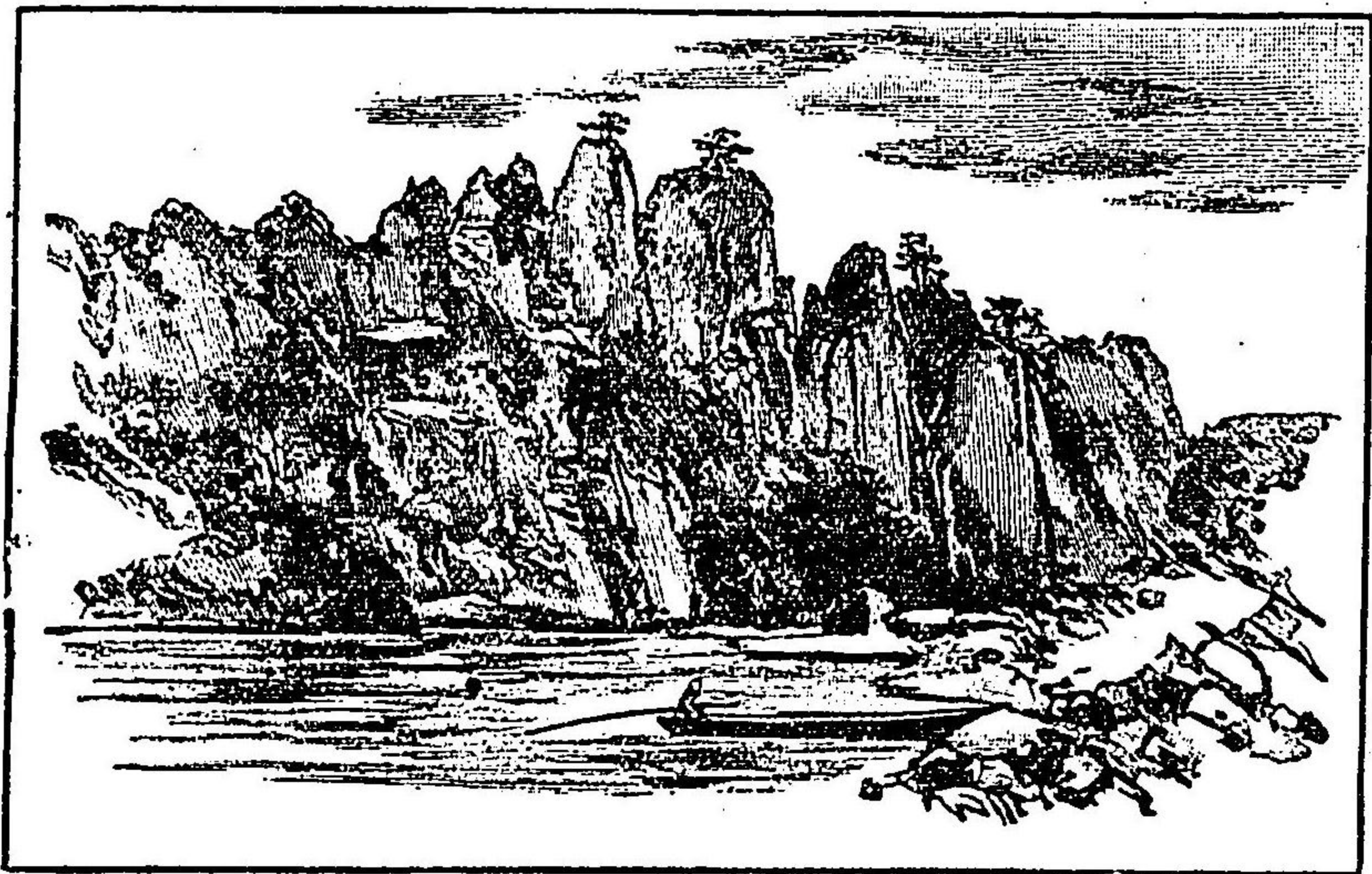
縣廳は、大分町にあり。豊前の内二郡と、豊後とを管轄す。

大分町 は、別府灣頭にありて、檜物細工を出す。これより北三里、別府に有名なる温泉場あり、鶴見山及び由布岳、豊後富士、其西北に峙つ、何れも有名なる火山なり。甘蔗紙、煙草、蔴席等は、多く此地方より産す。これより、國東半島の頸部を過ぎ、豊前の宇佐に至る、官幣大社宇佐神宮あり。

宇佐神社は應神天皇神功皇后を祀る
中津は奥平氏十萬石の城地

宇佐より、驛館川を渡り、中津に達す、此地は、山國川の東

耶馬溪は奇石怪巖多く奇勝を以て著はる



耶馬溪

岸にあり。此川の上流に、耶馬溪あり、其水源は、遠く豊筑の境なる、英彦山に發す、山上に英彦山神社あり。
大分より、大野川を渡り、佐賀關半島の佐賀關に達す、其南方に白杵、佐伯あり、何れも繁盛なる港なり。
佐賀關半島の東端は、地藏岬にして、伊豫の佐田岬と相對し、海上三里、潮流急にして、舟行危険なり。南方には鶴見

崎長く突出す。

宮崎縣

宮崎縣

縣廳は宮崎町にあり。日向全國を管轄す。

宮崎町 は大淀川の河口より南にあり、南部の一都會にして、近

傍大宮村に官幣

大社宮崎宮あり、

神武天皇を祀る、

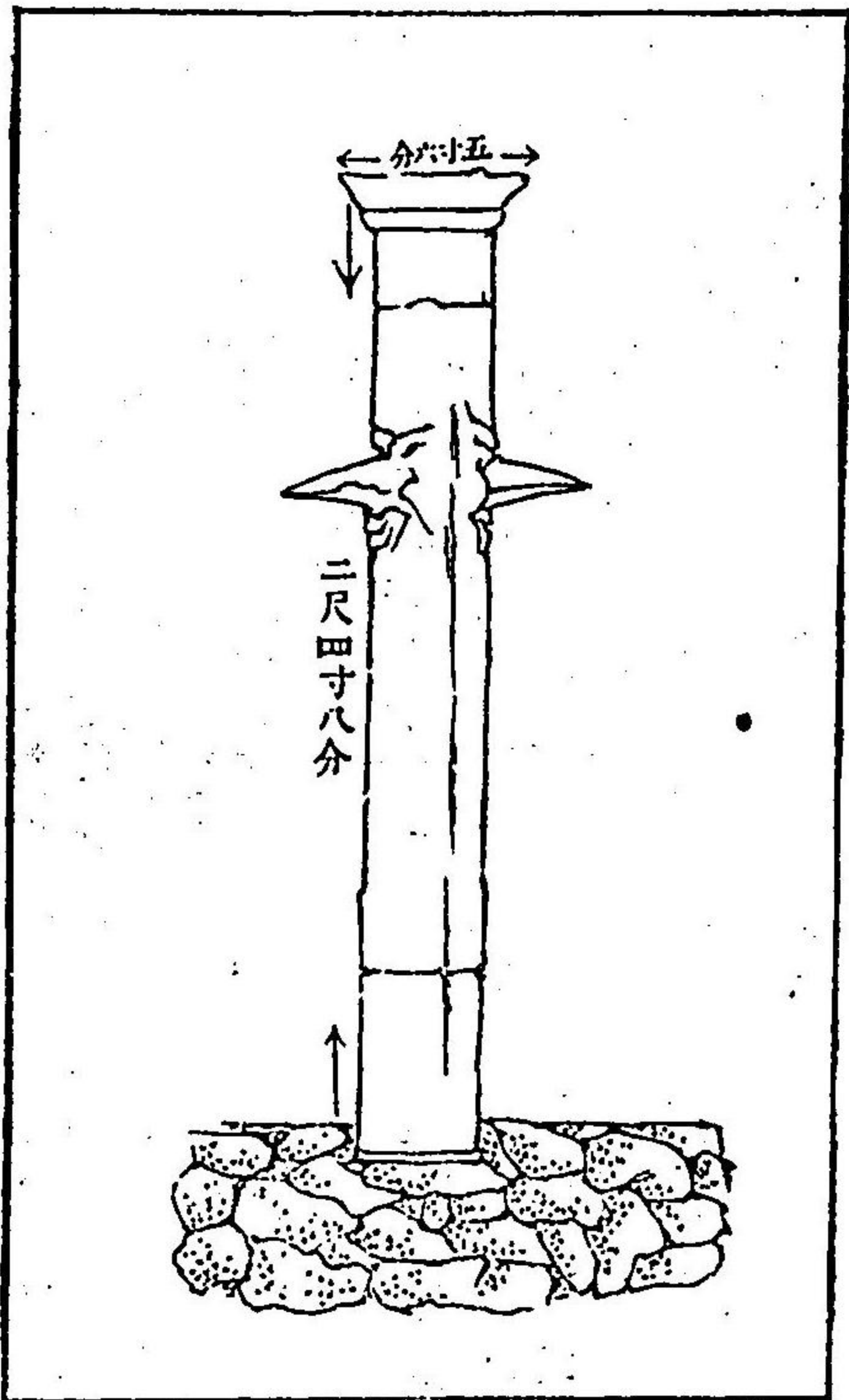
北に佐土原あり、

近傍より良米

を産す。これより

北に津川の口

あり。



に同名の港あり。又其東北には、細島港あり。

延岡 は、五箇瀬川の灌域にあり、商業盛んなり、上流の高

霧島山は東岳
西岳に分れ東
岳の頂上を高
千穂峯と稱す
天逆矛あり

鹿兒島縣

鹿兒嶋は島津
氏七十七萬石
の城地

千穂と稱する地方は、天孫降臨の靈地として傳ふるところ
なり。宮崎の南に**飢肥**あり。其東南に、**油津港**あり。

大淀川の灌域は、稍平坦にして、田圃相連なり、米、麥、甘藷、甘
蔗を産す。**都城**は、宮崎より、大隅に通ずる街道に當り、頗る

繁華なり。こゝに高千穂の宮趾あり、霧島山は、其西北に聳ゆ。

日向は、九州最大の國にして、河流多く、舟運灌漑の利ある
も、人烟稀疎、繁華の都會を見ず。東方一帯は、日向洋を控へ、海
岸屈折少く、砂洲多く、河流は、概ね東に向ひ、河谷には、尙ほ未
墾の平地多く、西南地方は、平坦にして、肥沃なり。

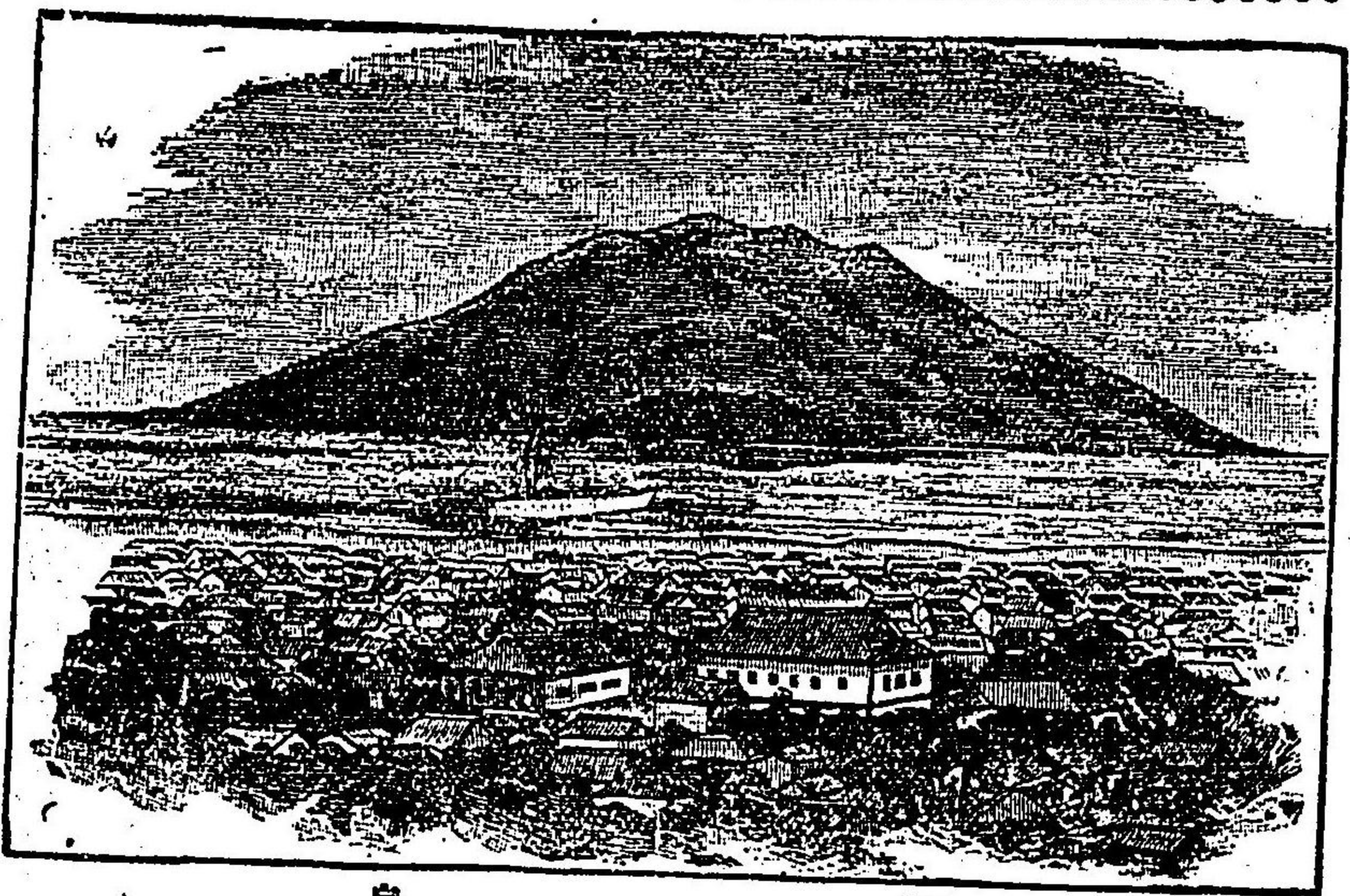
鹿兒島縣

縣廳は、鹿兒島市にあり。薩摩、大隅二國を

管轄す。

鹿兒島市 は、鹿兒島灣に臨み、櫻嶋其前に横はり、城山其

城山は西郷隆盛終焉の地



鹿兒島縣

北を繞り、市況頗る盛んにして、飛白煙草、陶器を出す。歩兵第四十五聯隊の衛戍地なり。又嶋津齊彬公を祀れる別格官幣社照國神社あり。

鹿兒島の南、谿山の近傍に、軍馬育成場あり。此地より海に沿ひ、山川港に達す。西に開聞岬突出し、薩摩富士の名ある開聞嶽其北に聳ゆ。北麓に池田湖あり、周圍凡五里、頗る灌漑の利あり。又其西に

坊津は往時唐船の來れるところ

高屋山陵は彦火々出見尊を葬り奉れるところ

霧島神宮は天鏡石國鏡石天津日高彦火瓊杵尊を祀る

坊津あり、加世田は其北に當る。

鹿兒島より西北に向ひ、芹野金山附近を過ぎ、川内川を渡り、焼酎醸造を以て有名なる阿久根及び出水を経て、熊本縣に入る。沖合なる甌島列島は、魚鹽の利尠からず。

鹿兒島より東北に向ひ、加治木に至り、高屋山陵に近き濱市を経て、國府煙草に名ある、國府の近傍を過ぎ、鹿兒島灣に沿ひ、福山に達し、東方に進みて、宮崎縣に入る。霧島山は、其北方に聳ゆる活火山にして、日向に跨る。南麓に官幣大社霧島神宮あり。

薩隅諸島は、薩摩、大隅より西南、與論島に至る列島の總稱にして、種子島、屋久島、大島、十島、川邊十島、大島、喜界島、徳島、沖永良部島、與論島等を含めり。南部の諸島は、多く砂糖を産し、

鹿兒島縣

沿海は、鯉、鱒等の魚族に富む。

種子島は、佐多岬の東南十里許にあり、天文年間、ポルトガル人の始めて鐵砲を傳へし所なるを以て、名高し。大島十島(川邊十島)の硫黃島には、僧俊寛の遺蹟あり、又硫黃を産す。大島以南の諸島は、北部の諸島と、大に言語、風俗を異にし、全く琉球の風あり。大島の名瀬港は、島廳の所在地にして、稍船を泊するに足る。大島には數多の良港あり、又警備隊の衛戍地として、指定せられたる所なり。

熊本縣

熊本城は細川氏五十四萬石の地

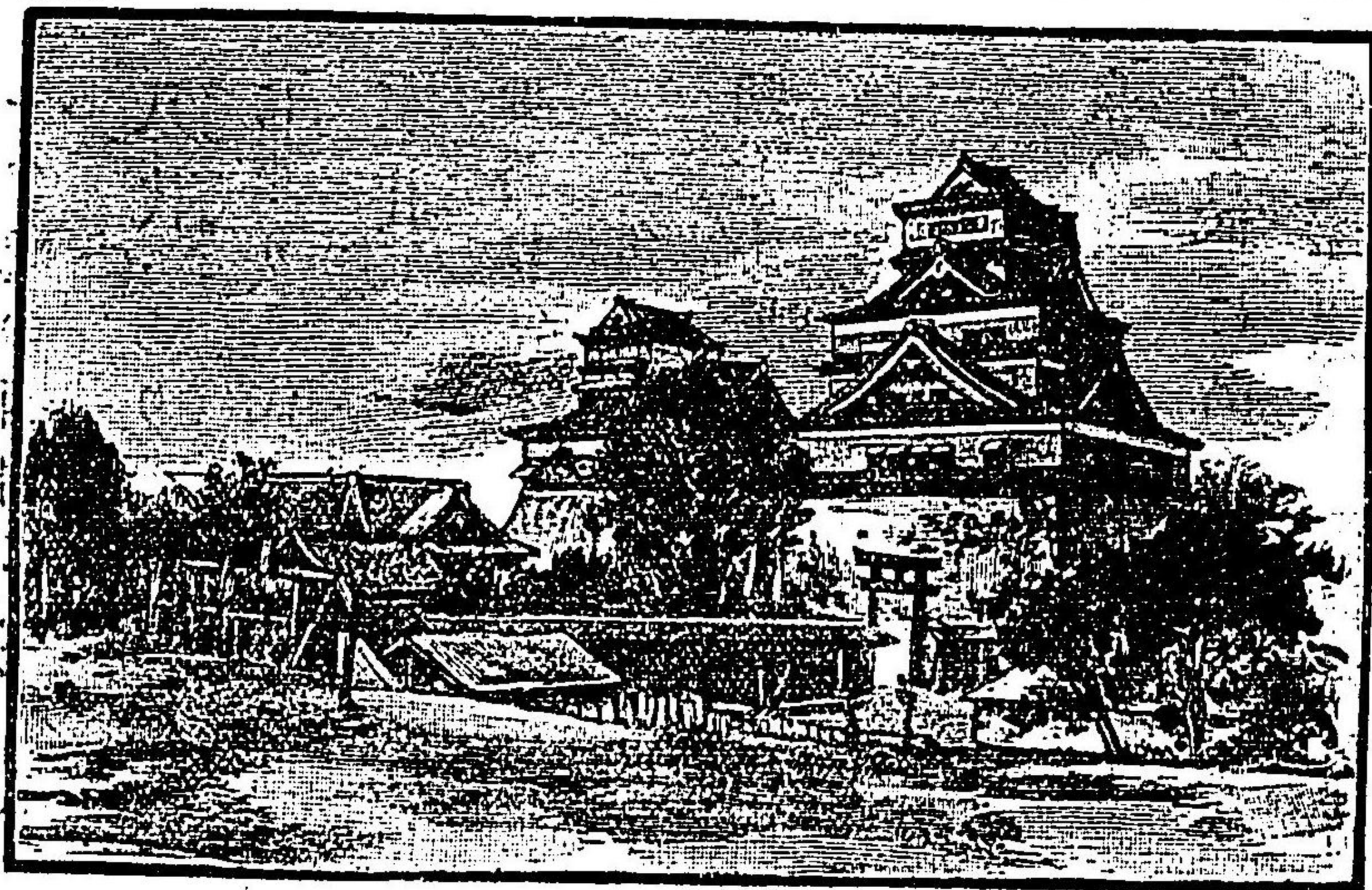
熊本縣

縣廳は、熊本市にあり。肥後全國を管轄す。

熊本市は、細川氏の舊城地にして、白川に沿ふ。熊本城は、市の中央に位し、今第六師團司令部を置く。市内に第五高等學校あり、商業盛んにして、綿織、草帽子の産出頗る多し。熊本

熊本城は加藤清正の築きしものにして、明治十年の役、明少將固守したる

菊池神社は、菊池武時を祀れる別格官幣社なり



熊 本 城

より、北方に進み、明治十年の役、官軍の苦戦したる。植木及ひ田原阪の近傍を過ぎ、菊池川に達す。隈府は、此河の上流にあり、菊池氏の古蹟にして、菊池神社あり。阿蘇山は、これより東南に聳ゆ、淺間山に亞げる著名の活火山にして、其麓には、温泉多し。これより、白川に沿ひ、熊本を過ぎ、河口に至れば、百貫石あり、肥前に渡る要津なり。南方、宇

球摩川は日本
三急流の一

八代海は有名
なる不知火の
現はるゝ所に
して往古肥後
を火の國とい
ひしはこれに
由る

土半嶋の西端に三角港あり、新開港場の一なり。その南に八代あり。菊池氏の古城地にして、球摩川の急流、町の南方に來り、八代海に注ぐ。此地「セメント」を製す。東方の山中に、五家莊あり。人吉は、球摩川の上流にあり、日向、大隅に通ずる要路に當る。

三角港の南西海中に羅列するは、天草列島にして、下島周圍七十里最も大に、上島周圍三十七里これに次ぐ。海岸は、魚鹽の利あり。

本縣は、九州の中央に位し、阿蘇火山脈の起る所にして、温泉の多きこと、比類少し、又諸川の灌域は、農産に富み、肥後米の名世に高し。國人の氣風質朴にして、頗る教育を重んず。

長崎縣

縣廳は、長崎市にあり。肥前の内一市、六郡及壹

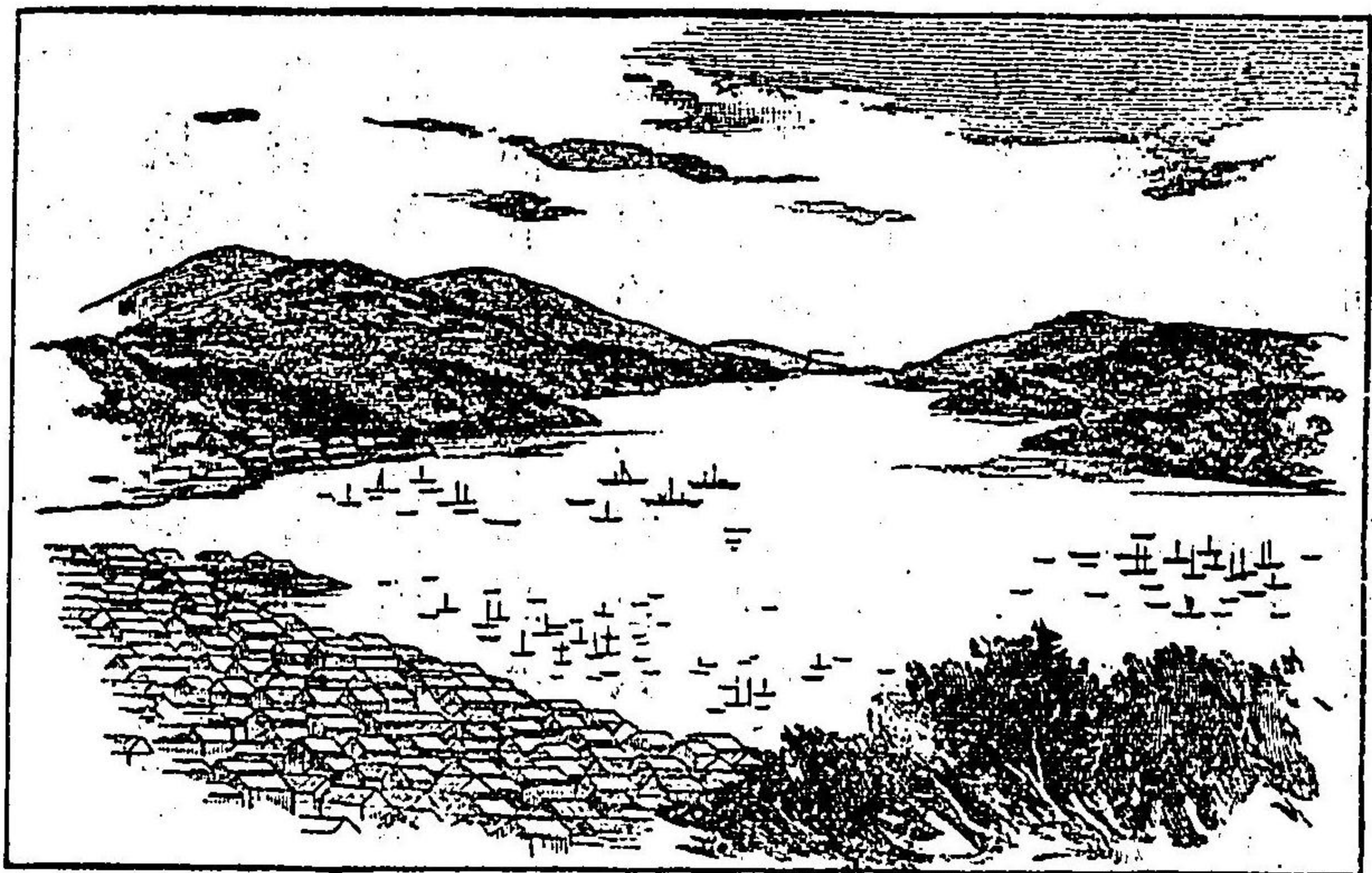
岐對馬二國を管轄す。

長崎市

は、舊稱五港の一にして、控訴院及び第五高等學

校醫學部あり、土地狹隘、且つ高低あり、雖も、港内水深く、自

然の良港なり。輸出物品は、石炭、錫、米、樟腦、椎茸等にして、總價額約五百五十萬圓、輸入物品は、石油、砂糖、牛皮、線綿等にして、總價額約一千四百六十萬圓(明治三十一年末調査)。長崎の西に五島列島あり。警備隊の衛戍地として、指定せられたる所なり。長崎の東北に大村あり、歩兵第二十三旅團司令部の所在地なり。これより、佐世保に至る。此地は、第三海軍鎮守府の所在地なり。又要塞砲兵ここに衛戍す。長崎の東方、島原半島には、有名なる活火山温泉、岳、嶺、ゆ、東海岸に島原あり、商況繁盛なり。此半島沿岸各地は、牧場に適し、盛んに牛馬を蓄ふ。島原の西



南に、口津港あり、新開港場の一にして、石炭を輸出す。

壹岐、對馬は、日本海より、黃海よ通ずる咽喉に位す、兩國共に、海岸の出入多く、良港に乏しからず。沿海は、鯨、鯨、鯨、及び藻類の漁獲多く、古より屢外寇の侵せし所なるを以て、遺蹟少からず。

壹岐の勝本は、良港にして、對馬の嚴原と相對す。對馬は上下二島に分る。上島の

平戸港は昔和蘭と始めて貿易を開きし處なり

佐賀縣

佐賀は鍋嶋氏三十五萬石の城地

北部に、竹敷の要港ありて、堅固の砲臺を設く。嚴原は、對馬島廳の所在地にして、警備隊の設あり。鹿見、佐須奈と共に、新開港場となれり。

肥前に屬する島嶼の中、平戸島及び五島列島の沿海は、捕鯨の盛んなること、紀伊、土佐も遠く及ばずといふ。

佐賀縣 縣廳は、佐賀市にあり。肥前の内一市、八郡を管轄す。

佐賀市 は、富商多く、市街端正にして、商況盛んなり。九州鐵道は、福岡より、鳥栖を過ぎて、此地に來り、西方武雄に向ふ。武雄には、有名の温泉あり、有田は、其西にありて、精巧なる陶磁器を産し、北の伊万里港より輸送す、よりて伊万里焼の名あり。唐津は、伊万里の東北にあり、唐津灣に臨む、

潮の昇降差十八尺に及ぶことあり

福岡縣



陶製

新開港場の一にして、附近盛んに石炭を産す。唐津焼亦名あり。領巾振山は其東に峙つ、名古屋は、東松浦半島の北端にあり、征韓の役、豊臣氏の本營を設けし處なり。

本縣の北西は、山脈あれども、筑後川の灌域は、平坦にして、盛んに米、麥を産す。南、筑紫洋は、潮汐干満の大なること、本邦第一と稱せらる。

福岡縣

は、筑前、筑後及

福岡は黒田氏の城五十二萬石の地

久留米は有馬氏の城二十一萬石の地

柳河は立花氏の城十一萬石の地

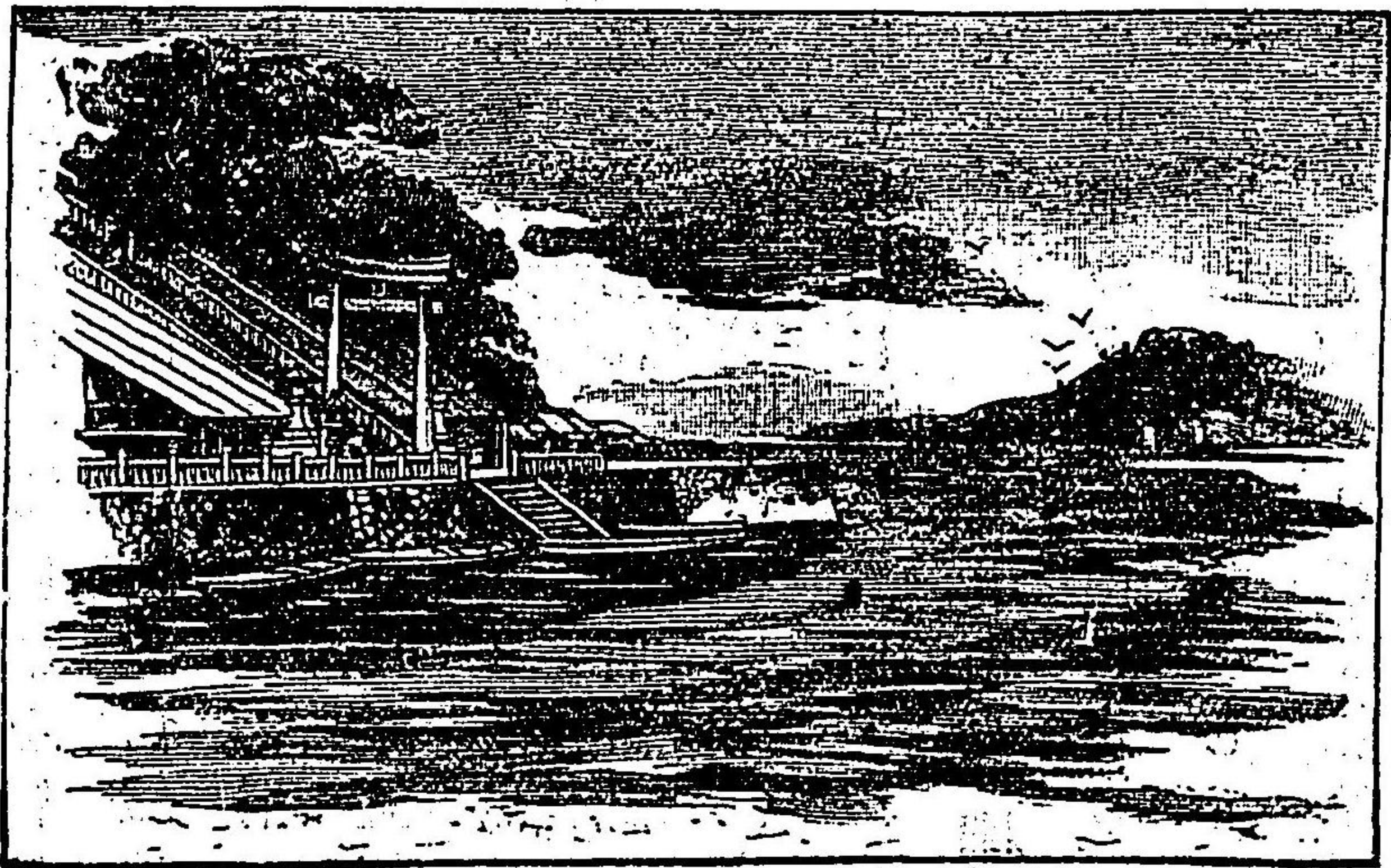
び豊前の内一市、四郡を管轄す。縣廳は、福岡市にあり。

福岡市は、黒田氏の舊城地にして、歩兵第二十四聯隊の衛戍地なり。其港を博多と稱し、博多織を産す。新開港場の一にして、商況盛大なり。貝原益軒は此に出づ。其東南に太宰府あり、古、太宰府を置き、全島の政務を司りし地にして、菅原道真公を祀れる太宰府神社あり。途に水城の古趾を見る。

久留米市は、歩兵第二十四旅團司令部の所在地なり、市街筑後川に臨み、飛白を以て名高く、商業頗る盛んなり。河口に若津あり、其南に柳河あり、商況久留米に次ぐ。鐵路は、此地の東部を南に走り、三池を経て、熊本に通ず。三池は、本邦屈指の産炭地にして、其西の大牟田は、石炭輸送の要津なり。博多より東北、箱崎、香椎を経て、遠賀川を渡り、折尾に

香椎は仲哀天皇の行在所ありしところ

蘆屋港は神武天皇東征の時過ぎ給ひしところにして豊臣秀吉朝鮮征伐の際こゝに艦装せり



至る。箱崎は、應神天皇を祀れる官幣中社箱崎宮箱崎八幡を以て名高く、香椎は、神功皇后を祀れる官幣大社香椎宮を以て著はる。遠賀河口に、蘆屋港（古の岡港）あり。此邊は、米、麥、煙草、甘蔗及び藍を産し、又生蠟を製す。鐵道は、折尾より、三派に分る。北に向ふものは、洞海に瀕せる若松港に至り、南に向ふものは、遠賀川に沿ひ、分れ

て飯塚及び豊前の金田に至る。

小倉は、豊前の北部にあり、第十二師團司令部の所在地にして、小倉織の特産あり。東北に門司市あり、馬關海峽を隔て、赤間關に對す、新開港場の一にして、市街漸く繁盛を加ふ。

本縣は、東南に山脈あれども、北方の沿岸は、低平にして、農産物多く、九州中人口最も稠密なり。

（産業）本區の（東海道、東山道及び北陸道に屬する部分）は、米に富み、尾張、美濃、近江、加賀、越中等を主なる産地とす。麥は、東海道及び東山道に多く、茶は、近江、駿河、遠江、伊勢を主とし、綿及藍は、獨り東海道諸川の灌域に多し。紙は、靜岡、岐阜、福井の諸縣に産し、駿河半紙、美濃紙、越前奉書の名夙

産業

小倉は小笠原氏十五萬石の城地

産

に著はる。

木材は、静岡縣に多く、礦産は、伊豆の石材、遠江の石油、美濃の大理石、加賀の銅、稍名あり。

漁業は、東海、北陸の沿岸共に盛にして、産額夥し。

養蠶機織は各地盛んに行はれ、就中三河木綿、鳴海絞、長濱縮緬、奉書紬、加賀絹等、産額多し。陶磁器も亦名あるもの多く、瀬戸焼、万古焼、九谷焼等を最とす。其他静岡の漆器、竹細工、尾張の七寶焼、伊勢の菜種、近江の蚊帳、岐阜提灯、飛騨の一位細工、若狹の鯛、若狹塗、加賀の象眼細工、能登の輪島塗等皆著名なり。

(畿内、中國及び紀伊、淡路) には、大阪府及び兵庫縣に、米、麥の産多く。茶は、山城を主とし、煙草は、備中、美作、丹波を

推す。綿は、河内に多く、麻は、廣島、鳥取諸縣に産し。醸酒は、攝津に最も盛んなり。牧畜、製紙は、中國に盛んにして、但馬牛、石見半紙等名あり。機織は、京都府、大阪府、和歌山縣、兵庫縣等に盛んにして、京都の西陣織、河内木綿、堺の緞通、和歌山の綿、フラスル、丹後の縮緬、播磨の明石縮、周防の岩國縮等、其名高く、疊表は、廣島、岡山二縣に多く、就中備後の産を佳とす。製鹽は、瀬戸内海沿岸に多く、播磨の赤穂、周防の三田尻等、最も著名なり。礦産は、中國に多く、兵庫、岡山、廣島、鳥取、島根の諸縣は、銀、銅、砂鐵を産し、山口縣は、石炭、攝津は、御影石、和泉は、和泉石を産す。其他京都の加茂川染、清水焼、大和の奈良晒、吉野紙、木材、紀伊の蜜柑、木材、淡路の伊賀野焼、但馬の柳行李、白珊瑚、伯耆の木綿、出雲焼、出雲人參、隱岐鰯、播磨の姫路革、龍野醬油、美作津

山の雲齋織、備後鞆の保命酒、安藝の牡蠣等、皆名あり。

(四國及び九州) にては、各地米、麥の産多く、筑前、肥後、殊に著はる。藍は、阿波を主とし。櫛は、筑後、肥後に多く。煙草は、薩摩、大隅、阿波を最とす。製糖は、四國悉く盛んなれども、讃岐に如くものなく、九州にては、南部に多し。製鹽は、香川、徳島、愛媛、大分の諸縣に多く、産額全國に冠たり。牧畜は、九州に盛んにして、牛は北部に、馬は南部に多し。鑛産は、伊豫、日向の銅、薩摩、大隅の金、肥前、豊前、兩筑の石炭、薩摩の錫等、著名なり。織物は、九州にては、博多織、小倉織、久留米飛白、薩摩飛白等、産額多く、四國にては、阿波縮、保多織等、名高く。陶磁器は、伊豫の砥部焼、肥前の唐津焼、有田焼、薩摩焼等、名を得たり。其他土佐の半紙、土佐、肥前の鯨、土佐、薩摩の鯨節、日向の半切、椎茸等、著名なり。

第三章

北區

北區は、北海道本島(北州)と、千島列島との總稱にして、面積六千餘方里、其大さ九州の二倍餘なるも、近年の開拓に係るを以て、人口甚だ稀疎にして、東京市の半ばに過ぎず。今北海道廳を置きて、これを管轄す。

一、北海道本島(北州)

(區域)

渡島國、膽振國、日高國、十勝國、釧路國、根室國、北見國、天鹽國、石狩國、後志國、

(山系)

本區には、蝦夷山脈と、千島帯に屬する火山脈と、相交叉して、主脈を成し、他に一列の火山脈あり、蝦夷山脈は、北

區域
山系

蝦夷山脈は構
大山脈一部の
假稱

端、宗谷岬に起り、東北山脈となり、中央部に至りて、千島火山脈の爲に遮断せられ、再び日高山脈を起し、襟裳崎に達す。

東北山脈は、北見、天鹽の間にて、一連の山脈をなせども、山勢は急峻ならず、最高處も雖も僅に五千尺に過ぎず、宗谷岳、天鹽岳等、此中に在り。日高山脈は、頗る高峻を極め、夕張、カムイ岳等は其の高峯なり。

千島火山脈は、千島列島に起り、本島に入り、知床岬に現はれ、斜に西南に走り、蝦夷山脈を遮断し、本州の脊梁をなし、ラウシ山、雄阿寒岳、雌阿寒等あり、山勢西南に轉じて、十勝、石狩の國境をなす、此中に石狩岳、十勝岳等の高峯聳ゆ。この外二箇の火山脈あり、其の一は、室蘭岬より、西南半島の頸部を横過するものにして、樽前岳、有珠岳等あり。他の一は、噴火灣の東

他の火山脈

千島火山脈

水系

太平洋斜面區域

南、惠山岬より、西北に向ひ走る火山脈にして、惠山、駒岳等此中にあり。

北州を、石狩平野より、南方、苫小牧に至る低地を以て、東西兩部に分つ。東部は、概ね山岳の傾斜緩にして、低き山地多く、西部は、山勢急にして、地勢本州の北部に似たり。

(水系) 北州の山岳は、西南半島部を除き、多くは、急峻ならざるを以て、河流も亦緩にして、長く、河口には、往々土砂堆積し、所々に湖沼を成せる者多し。

太平洋斜面區域は、千島火山脈及び半島部脊梁によりて限られ、太平洋に向ひ、傾斜する部分にして、十勝、釧路の二川を大なりとし、總へて南流す。釧路川は、源を釧路湖に發す、近傍阿寒、摩周の兩湖あり、阿寒湖の水は、阿寒川となり、釧路川

の口に近き所に於て相會す。根室の南方に、風蓮沼(周圍十五里あり)。

オコツク海斜面區域は、東北山脈及び千島火山脈の一部によりて限られ、オコツク海に向ひ、傾斜する部分にして、地勢大河を成すに足らず、湧別、常呂、網走の三川、稍大にして、皆北流す。常呂川口の西に、猿澗湖(周圍十八里、網走川口に網走湖あり)。

日本海斜面區域は、惠山岬より半島部の脊梁及び千嶋火山脈の一部、並に東北山脈によりて限られ、日本海に向ひ、傾斜する部分にして、本邦第一の大河石狩川(長さ百六十七里)及び天鹽川、後志川あり、皆西流す。

(沿岸) 北州の海岸は、西南半島部を除き、概ね平直にして、

オコツク海斜面區域

日本海斜面區域

石狩川下流の沿岸は石狩の原野なり

沿岸

て、彎曲に乏し。本州と津輕海峽を隔て、函館灣あり、惠山岬其東にありて、陸奥の尻屋崎に對す、其西北に噴火灣(一名内浦灣)あり、數多の火山、沿岸に聳け、繪鞆岬東に突出す。繪鞆岬より襟裳岬に至る間は、弓形に彎曲し、峭壁多く、良港なし、これより、海岸、東北に延び、根室半島の納沙布崎に至る間は、概ね砂濱にして、唯厚岸、花咲の二港あるのみ、納沙布岬の北に根室灣あり、根室海峽を隔て、千島列島の國後島に對す、知床岬より宗谷岬までは、屈曲極めて乏しく、良港なし、海濱は、砂丘及び潟に富む。宗谷岬の西に禮文島、利尻島を望み、小樽灣に達す、これより積丹半島を過ぐれば、壽都灣あり、進んで陸奥の龍飛岬に對する白神崎を経て、南端に達す。

(交通) 北州は、未開地多く、一般に道路乏しく、唯東部、太

交通

平洋沿岸の南岸と西部、日本海沿岸の北岸とは、新設の道路ありて、交通に便なり。鐵道は、手宮より、小樽、札幌、岩見澤を経て、幌内炭山に至るあり。岩見澤より更に支線を出して、歌志内の炭山に達するあり。近時官設の鐵道は上川まで延長せられぬ。又南方室蘭より、苫小牧を経て、岩見澤に連絡する一線あり。此他釧路に、標茶よりアトツノボリ等の硫黃山に通ずるものあり。

イ、太平洋斜面區域。

函館區は、舊稱五港の一なる函館港に臨み、青森を距ること二十餘里、要塞砲兵こゝに衛戍す。又控訴院の設あり。水陸の衝に當り、商況頗る盛んたり。輸出物品は、水産物、硫黃、石炭等にして、總價額約百二十萬圓。輸入物品は、米、茶、石油及び

文政年間河野加賀守館を近傍の海濱より望むに箱の如し故に函館といふ

五稜廓は安政年間函館奉行の築きしところ外廓五稜をなす

室蘭港は麥、石炭、硫黃、麥粉、木炭、セメント、硫酸、滿庵礫、晒粉、木材及び板、竹材の輸出を爲すを得

製造品にして、總價額約四拾萬圓(明治三十一年末調査)なり。五稜廓は、其東北、一里半にあり。維新の歴史に、其名を知られ、今は製氷盛んなり。函館より噴火灣に入り、室蘭に達す。室蘭港は、第五海軍鎮守府の指定地にして、新開港場の一なり。岩見澤に達する鐵道は、此地に發し、水陸交通の便あれども、港内稍狹きを覺ゆ。有珠火山其西北に峙ち、洞爺湖其北にあり。室蘭より海岸に沿ひ、東北に進み、苫小牧に至る。樽前山其西に聳え、支笏湖其麓にあり。其水出でて千歳川となり、北流して石狩に入る。これより以東は、地勢緩にして、火山少く、農作に適す。日高に入れば、漸く東方に高く、氣候溫和にして、牧草に富む。新冠は、有名なる牧場なり。南端襟裳岬は、往時口蝦夷と、奥蝦夷との境をなせり。こゝより海岸、北に折れ、東北に向ひ、十勝

アイヌ人の部落の中に源義経の祠があると云ふは未だ詳ならず

アツシは樺皮を織りて製す



北海道のアイヌ人の事。十勝の平原は十勝川の灌域にして北州大原野の一に數へらる。沙流、染退、并に十勝川の沿岸にはアイヌ人多く住す。アイヌは本島先住の一種にして、跣足のもの多く、社を左にし、熊鹿の毛皮或はアツシを着す。男子は鬚髯に富み、弓箭鐵砲を携へ、漁獵に従事す。

硫黄は鐵道に依りて樺茶に致し、次に舟運に依りて釧路に送る

十勝より海岸に沿ひ、釧路に至る。釧路は釧路川の河口にあり、新開港場の一にして、硫黄を輸出す。こゝより河岸に沿ひ、標茶を経、跡左登に至るべし。此邊多く硫黄を産す。釧路の東、厚岸灣に同名の港あり、厚岸湖は、此灣内にありて、牡蠣を産するを以て名あり。これより東北部は、根室國にして、納沙布岬長く突出し、西北に根室灣を擁す。根室港は、千島列島の咽喉に當り、船舶の出入多く、海産物の取引盛んなり。花咲港は、其背後にあり、根室灣結氷の際、船舶の碇泊するところなり。

口、オコツク海斜面區域。

根室より、知床半島の頸部を経て、北見に入り、網走に出づ。これより常呂川を渡り、牡蠣を産する猿澗湖の沿岸を過

網走には先史人類の遺跡なる際穴あり

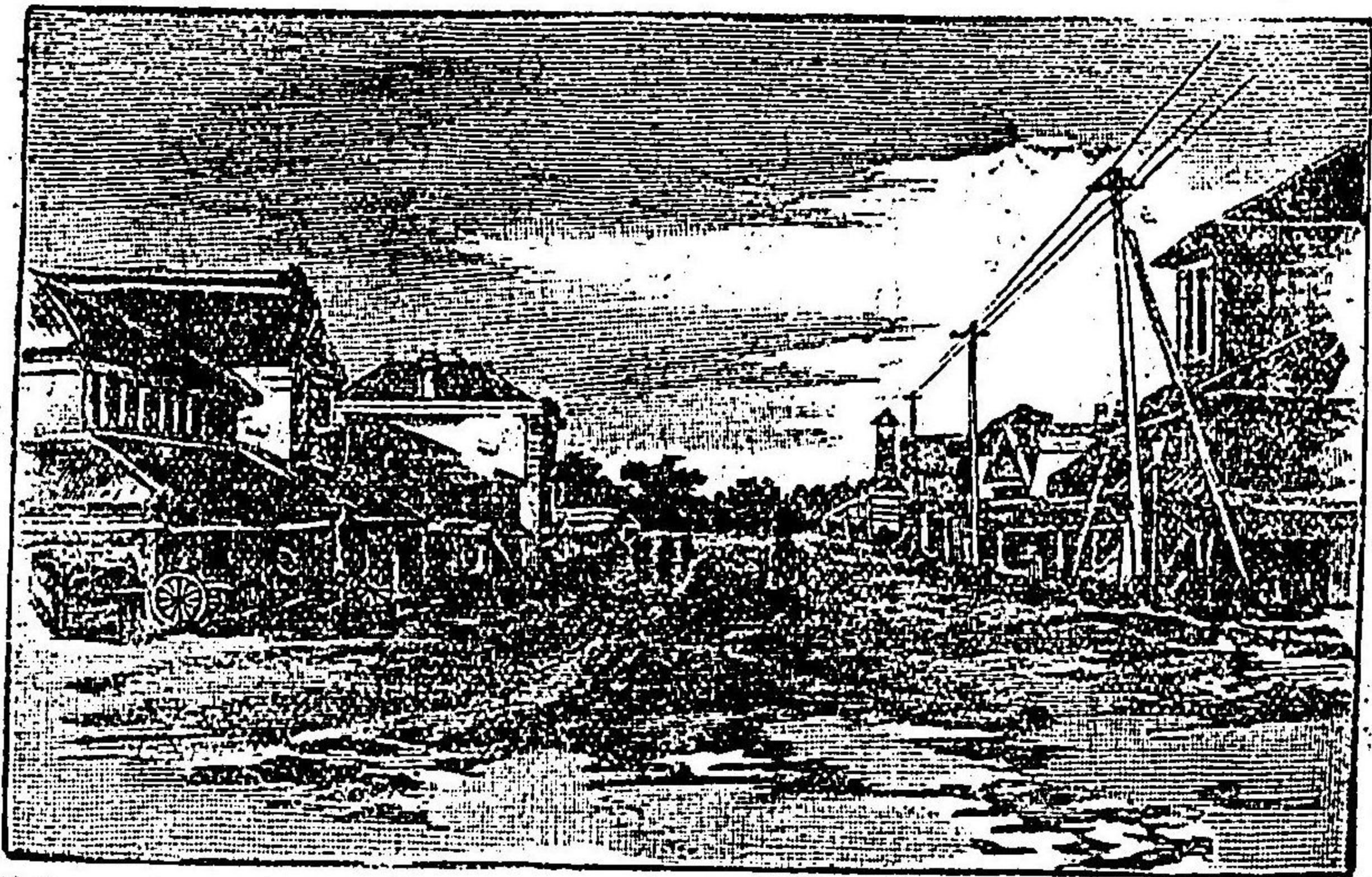
き、湧別川を渡り、紋別を経て、宗谷に達し、これより天鹽國に入る。

海岸は、一般に平夷にして、砂丘多く、住民極めて少し、宗谷は、氣候比較的寒からず、近海は鯨の漁獲多し。

八、日本海斜面區域。

天鹽 は、天鹽川に臨む、鯨の漁場にして、其南の留萌及び増毛と共に漁獲甚だ多く、昆布の産出亦饒なり。利尻、禮文の二島は、漁場あるを以て知らる。増毛より、東方の山脈を越ゆれば、石狩國の雨龍川谷に至るべく、海岸に沿ひて進まば、石狩川口の石狩に達すべし。

石狩川は、源を石狩岳に發し、上川の原野を流れ、カムイユタンの急流をなし、雨龍川と會して、稍緩徐となり、空知、江別



札

幌

豊平等の諸川を合せて、海に入る、鮭を産すること夥しく、灌域に、北州第一の大廣原あり。

札幌區 は、石狩川の一支流、豊平川に跨り、北海道廳及び第七師團司令部、農學校等あり、製糖、製麻の業盛んなり、これより、炭鑛鐵道により、後志國小樽に至るべし。石狩國の中央は、炭鑛に富み、空知、郁春別、幌内、夕張等の炭山あり、

共に有名にして、皆炭鑛鐵道によりて、連絡せらる。

小樽區は、良好の位置を占め、新開港場の一にして、其繁榮北州中、函館と並び稱せらる。これより、積丹半島の頸部を越り、岩内に至る。積丹半島は銀銅及び砂鐵を産す。岩内より、後志川を渡り、尻別を過ぎ、壽都に至る。これより海に航して、海岸に沿ひ、南下すれば、右に奥尻島を望み、渡嶋の江差に至る。江差は、渡嶋西海岸の都會にして、函館と汽船の往復あり、これより福山の寄港し、白神岬の端を廻りて、函館に入る。

ニ、千島列島。(千島國)

根室國の東北なる國後島より、最北端、占守島の間にならる。三十餘島を總稱して、千島國といふ。總面積は、略四國に

福山は昔松前氏の居城ありしを以て松前と稱し、もと蝦夷の首都にして、當時の諺に「松前千軒と稱せり」と稱せり。

八道

水産

漁業

等も、オックスル海峽によりて、二部に分つを得べし。國後、色丹、擇捉、得撫の諸島は、南部に、新知、捨子、古丹、溫禰、古丹、親籠、占守、阿瀬度等は、北部に屬す。

南部諸島は、概して樹木に富み、又船を泊すべき港あり、北部諸島は、これに反す。沿海は、寒流に洗はれ、波浪荒く、氣候寒冽なれども、海獸、魚、藻類の産、實に夥し。

國後島の西南端に泊灣あり、船を泊するに足る。ナヤナヤ、ヌナ山は、北端に聳ゆ。色丹島は、其東南にあり、良港多く、地味も豊饒なり。

擇捉島は、列島中の最大なるものにして、紗那は、西海岸にあり、碇泊に便なり。得撫島は、其東北にありて、地味肥沃なり、其間の海峽を、擇捉海峽とす。新知島は、千島列島の中央に

擇捉島は幕末近藤守重の渡航せしところ

位し、捨子古丹島及び温禰古丹島は其東北にあり、經筵島は、温禰古丹島の東北にある大島なり。

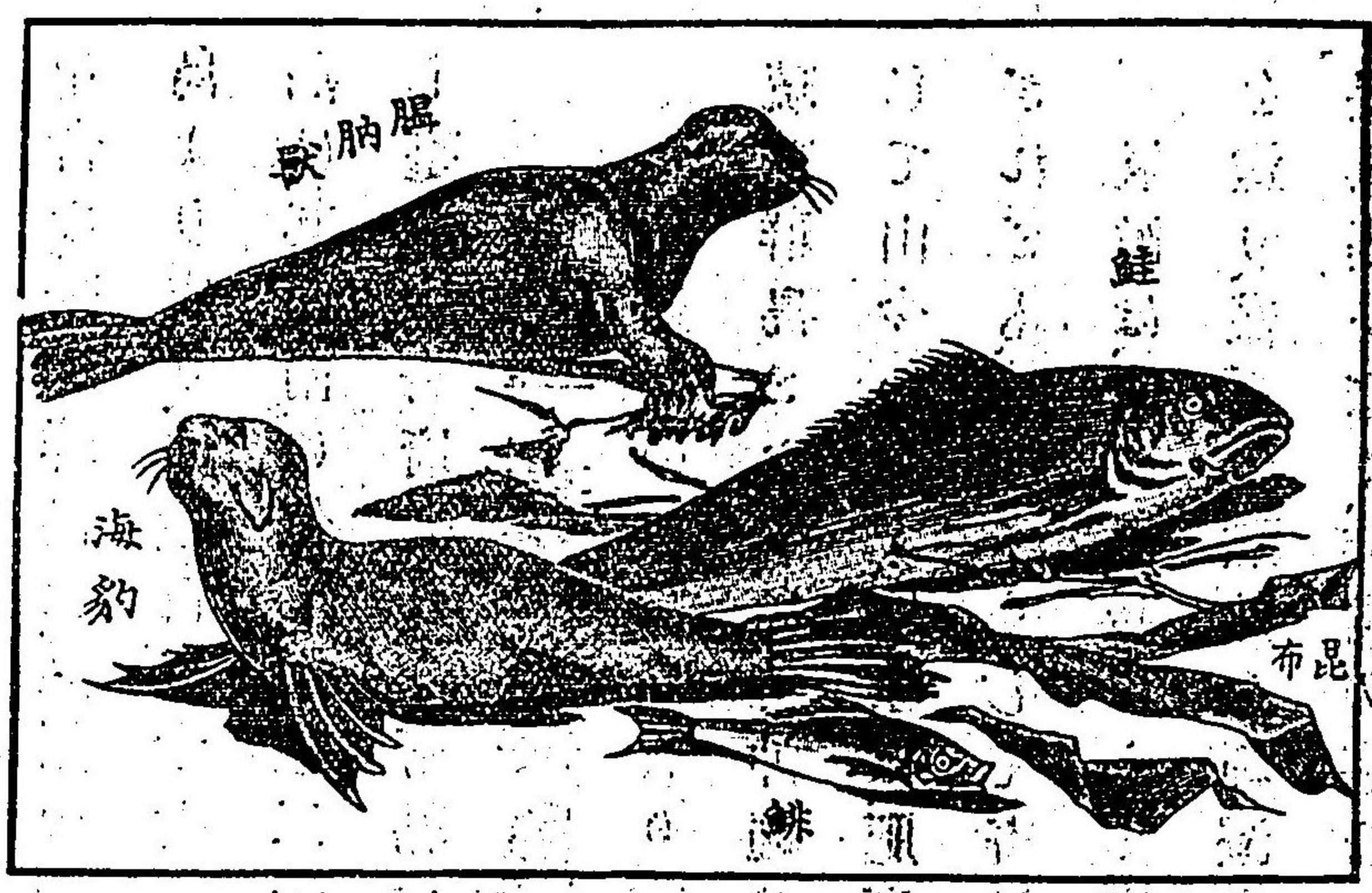
占守島は千島海峡によりて、カキヤツカ半島のノボトキ岬に對し、其東端は、我國の最東點東經百五十六度三十二分に位す、其間僅に三里、本島には、報效義會員郡司成忠氏等移住して、開拓に従事す、阿賴度島は、其西北にありて、其北端は、本邦の極北點北緯五十度五十六分なり。

(産業) 本區は、開拓日尙ほ淺く、産物未だ多からざれども、天然の富源は、水陸共に甚だ豊饒なり、殊に水産は、世界に比類少く、鯨、鱈、鮭、昆布、鱈等を主とし、獵虎、熊、鹿等も亦多し。

北州は、林産に富み、落葉松等の森林多く、建築工業に適す。農産は、大豆、小豆、麥、馬鈴薯、甜菜、蕎麥、藍、大麻等にして、林、蠶、梨

産業
水産
林産

農産牧畜
鑛
製造品



北海道の稱せらる、これに次ぐを硫黄のこす、製造品には、製麻、砂糖、麥酒、罐詰等あり。

第四章
南區

南區は、琉球群島と臺灣と

を含む。琉球群島は、九州の西南海上に並列せる、大小五十餘島より成り、面積百五十七方里、沖繩縣廳これを管轄す。臺灣島は、其西南に位し、面積二千二百七十方里、峇九州本島と等し、臺灣總督府これを管轄す。

一 琉球群島。(沖繩縣)

大島列島の輿論島より、南西に至る大小五十餘の諸島を琉球群島とす。島勢沖繩及び先島の二島彙に分る。諸島通じて山少からず、地味は肥瘠相半し、海岸は海灣に乏しからざれども、暗礁多くして、寄泊すべき良港少し。

氣候は、常に溫暖にして、寒さを感じず、且つ海風常に涼氣を送り、盛夏の酷熱を輕減す。唯恐るべきは、毎年八九月の候颶風襲ひ來り、非常の害をなすにあり。



琉球の住民及植物

沖繩島は、琉球群島中最大のものにして、長さ凡四百里、幅廣きところは凡九里に及ぶ。全島を國頭、中頭、島尻の三部に分つ。沿岸は岬灣多く、北方に運天港あり、頗る良港なり、西南に那覇港あり。

那覇區は、沖繩縣廳の所在地にして、新開港場の一なり、市場は、常に雜沓し、商業甚だ繁盛なり。砂糖、泡盛酒、飛白を輸出し、米、石油、茶等を輸入

す。これより東一里、首里區は、舊藩主尙氏の居城地なり、警備隊の衛戍地として指定せられ、現今第六師團の分遣隊駐屯す。

本島の四周には、許多の小島散點し、久米島、伊平屋島等稍著はる。

先島諸島は西部標準時を用
宮古島

先島島彙は、又宮古及び八重山の二群島に分る。

宮古群島。宮古島は、沖繩島の西南、凡六十六里にあり、宮古群島中最大のものにして、近海に暗礁多し、其西岸なる漲氷港は、漁船を寄すべし、永良部島は、この屬島なり。

石垣島

八重山群島。石垣島は、宮古島の西、凡二十六里にあり、良港に乏し、西表島は、其西、凡六里にあり、沿岸峭立して、舟を入るゝに便ならず、その西に與那國島あり、南に波照間島あり。



首里中山門

琉球群島の産物は、甘藷を最とす、島民の常食なり、甘蔗の栽培夥しく、砂糖の製造盛んなり、藍も亦多く、琉球飛白の名高し、其他泡盛酒、上布、芭蕉布、漆器、疊表等を名産とす、沿海は、水産の利少からず。

一、臺灣。

臺灣は、臺灣本島及び屬島より成る、我國の版圖に入りてより、日尙ほ淺く、殊に東部一帯は、殆んど生蕃

地に屬するを以て、調査未だ十分ならず、今全島を分ちて、三縣、三廳となす。

區域

(區域)

臺北縣。臺中縣。臺南縣。宜蘭廳。澎湖廳。

山系

(山系)

本島は、南北に長くして、東西に狭く、中央より稍東に偏して、大山脈、南北に連なる。これを臺灣山系と稱す。此山系は、數多の並行山脈より成る。シルヴァニア山脈最も著しく、其盟主シルヴァニア山(雪山)は、高さ一萬三千尺餘あり。此西に新高山脈あり、稍低し、然れども南部に於ては、非常に高く、一萬四千尺を超ゆるの高峯ありと云ふ。新高山の稱あるものこれなり。新高山脈の西に尙ほ低き蕃界山脈あり。これより西方は、次第に海岸に向て傾斜し、沿海地方は廣大なる平野となる。又シルヴァニア山脈以東にも、平行せる山脈あり。西側に於ける如く著しからず、而して東海岸は峭壁懸崖に終るところ多し。

臺灣の山の高さは未だ詳かならず

新高山に至尊の御命名にかゝる

水系

(水系)

シルヴァニア山脈は、主なる分水界をなし、以西のものは、西流して臺灣海峽に入り、以東のものは、東流して太平洋に入る。島中大河なく、唯北部の淡水溪は、稍大なれども、河口に砂洲ありて、大船を通すべからず。南部には、下淡水溪ありて、灌漑に便なり。其他大甲溪、濁水溪等、稍名を知らる。湖沼は、各地に散在すれども、大なるものなし。

淡水溪は、源をシルヴァニア山に發し、新店、基隆二流を合

臺灣の河に沿
いて山道を開
くことの困難
なる所以

臺灣の河に架
橋の困難なる
所以

沿岸

せて海に入る、上流は即大姑陷溪にして、急湍多し。
臺灣の川は、皆峽流にして、谷は、皆峽谷なり、河底深く岩を
刻み、山上の人は、水底を見る能はず、河中の人は、山上を見る
能はず。其水流一たび山脈の區域外に出るや、濁水横流し、平
野變じて、荒蕪なる河積となる。臺灣の南部は、熱帶圈内に入
るを以て、降雨熱帶的にして、恰も盆を覆すが如く、且つ河床
の勾配頗る急なるを以て、出水の急激なるは、内地人の想像
の及ばざる所なり。

(沿岸)

沿岸は、屈折甚だ少く、東岸は、斷崖をなし、蘇澳灣
のみ、稍、船を泊するに足る、三貂角東北に突出し、富貴角は、最
北端にあり。西岸は、砂濱にして、海底深からず、沙洲遠く連な
りて、大船を泊すべき港に乏し。南端には、南西岬及び南岬あ

氣候

臺北基隆共に
氣候不良なり
特に基隆と甚
しとす

りて、南灣を擁す、南岬の東方に、紅頭嶼あり。
西海岸と支那との間は、即臺灣海峽にして、澎湖群島あり。
本島の海岸線は、凡二百八十里に過ぎず、これを九州の
海岸線に比するに、其三分の一に及ばず、其出入稍多きは、
東北の小部分のみ。東岸は、斷崖にして、長さ九十餘里、沿海
諸山は、水際より屹立す、西岸は、平地相連なり、砂丘大に發
達す。

(氣候)

本島は、北緯二十二度と、全二十八度半との間に
位し、且つ温暖なる日本海流、東方を流れ、其支流は、西方を洗
ふを以て、氣溫高く、雨量亦尠からず、北部は、氣候屢變じ、健康
を害することあるも、南部は、衛生に適せりといふ、風向は、夏
季西南風多く、冬季、東北風多し。而して夏秋の交には、颶風本

人種



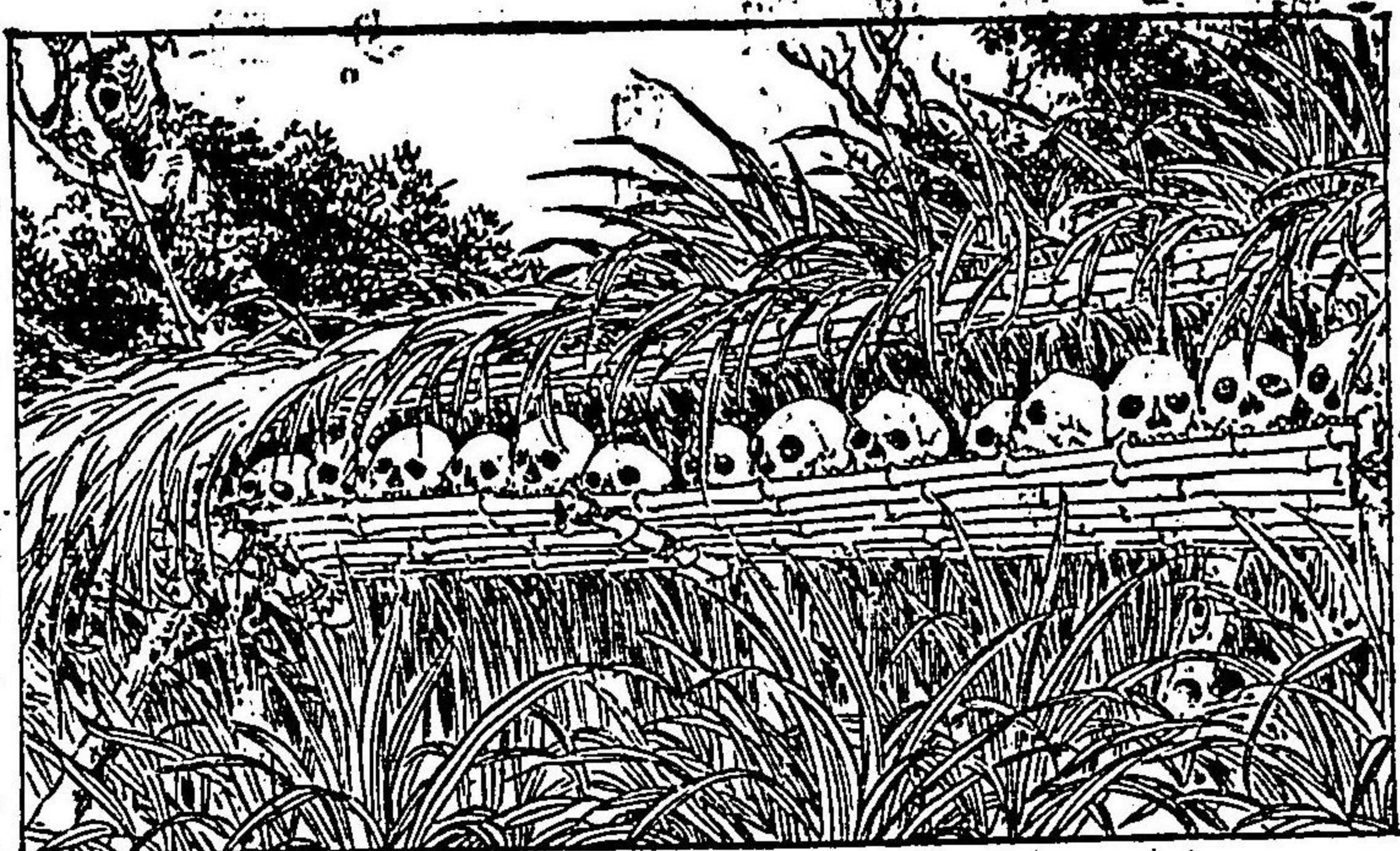
南洋

一五二

島の近海に起り、全島を經過して内地に入る。
(人種) 住民は支那人と蕃人とに別ち得べし、支那人は多く福建、廣東地方より移住し、風俗支那本部のものに異ならず。蕃人は舊時、生熟二蕃に分ち、熟蕃は支那人と雜居し、御も易く、生蕃は山中に住み、制も難かりしものを云ひしかども、現今は此區別の必用なし、蕃社は凡一百四

交通

南洋



南洋

ありて、人口大約三十萬あり
(交通) 本島は交通甚だ不便にして、道路と稱すべしもの稀なり、今其重要なるものを擧げんに、臺北より彰化嘉義を経て、臺南及び鳳山に至るもの、臺北より基隆を経て蘇澳に至るもの、鳳山より東港を過ぎ、卑南に至り水尾に達するもの等に過ぎず。
鐵道は、臺北より東方基隆に至るもの、西南新竹に至

一五三

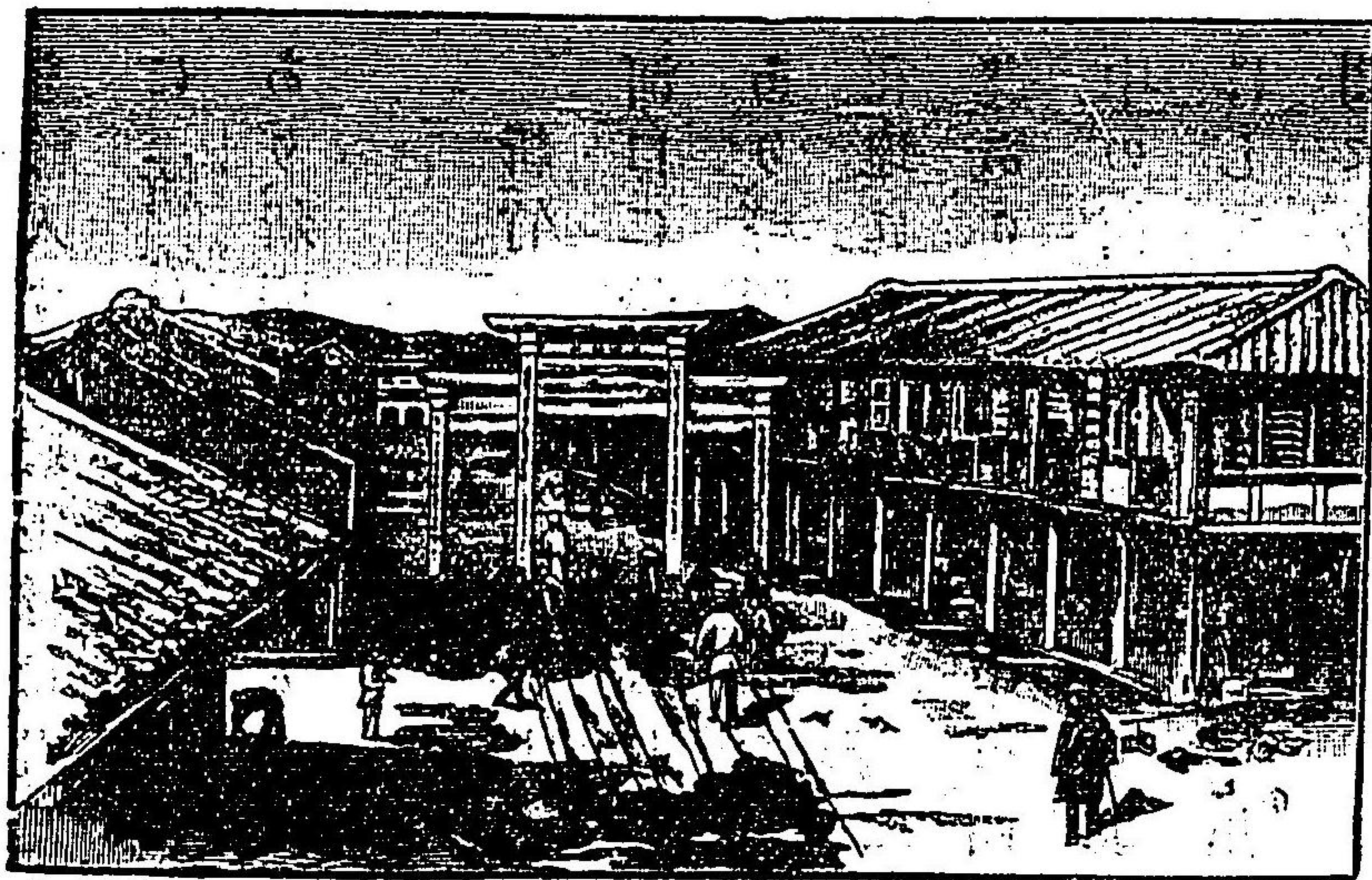
北部

るものごあり、延長僅に六十哩、構造甚だ不完全なり。沿海の航行は、風波荒く、港灣不良にして、危険尠からずと雖も、西岸は、支那の海岸を距ること遠からずして、稍、便利なり。

イ、北部 (臺北縣、宜蘭廳)

内地より臺灣に航すれば、先づ基隆港に達すべし、港内水深く、大艦を泊するに足るも、東北風を凌ぎ難し、本港は、開港場の一にして、石炭を輸出す、此地より臺北に通ずるには、鐵道の便あり、基隆より、宜蘭平原を経て、宜蘭に至る、宜蘭廳此にあり、其南なる蘇澳は、港内廣からざれども、水深く、碇泊に便なり。

臺北は、臺灣總督府及び臺北縣廳の所在地にして、府城



臺北

は、近年の築造に係り、城内清潔にして、家屋は、概ね二層なり、北方大稻埕は、烏龍茶の産地にして、大嵗炭は、淡水溪の上流にあり、又茶の産出多し。臺北の西北に、淡水港(滬尾)あり、淡水河口に臨み、其廣さ半里許、港口に沙洲ありて、大艦を入る、ここ能はず、本港は、開港場の一にして、主として茶、石炭、樟腦、砂金等を輸出し、綿布類、鴉片、毛布、金屬器等

を輸入す、海底電線は、此地より、支那福州に通ず、これより南に新竹あり、鐵道は、基隆より此地に達す、新竹の地に舊港あり、新開港場の一なり。

西部

口、西部。(臺中縣、臺南縣)

新竹より南方の海岸は、屈曲乏しく、良港を見ず、唯後壠溪河口に後壠港あり、新開港場の一なり、後壠溪の中流に苗栗あり、樟腦の製造盛んなり、其南に臺中あり、臺中縣廳の所在地にして、もと臺灣府と稱し、支那領の時、首府を置くの經畫ありし所なり、臺中の西に梧棲あり、新開港場の一なり、臺中の西南に彰化あり、其海岸なる鹿港は、新開港場の一にして、樟腦を輸出す、埔里社は彰化の東に方れる山巾の溪間にあり。

彰化より南に嘉義あり、西方の海岸に東石港あり、新開港場の一なり、更に南に臺南あり、支那領の時、久しく首府を置きし所にして、臺南縣廳あり、市街清潔ならず、其西北一里餘に安平の開港場あり、砂糖、樟腦、米等を輸出し、阿片、棉布、毛布類を輸入す、海底電線は、本港より澎湖島に通ず。

臺南の南に打狗の開港場あり、港口狭く、水深からず、雖も、古來貿易盛んにして、砂糖を輸出す、其南方、下淡水溪の吐口に東港あり、又新開港場の一なり、恒春は、本島の南端に近き小都會なり。

東部。(臺東廳)

東部は、一般に山岳縦横に亘り、海岸は、良港に乏しく、殊に北方の險崖は、水面より直立七千尺に至るものあり、要する

に、本部は、所謂生蕃地にして、専ら蕃族住居し、未だ詳細の事實を知ることも能はず。

主要なる都邑を、水尾及び新街となす。新街は、臺東廳の所在地にして、卑南大溪の平野に位す、此平野四近に四十六蕃社あり、有名なる壯丹社は其一なり。

二、澎湖群島。(澎湖廳)

澎湖群島は、臺灣海峽の中央に位し、東海の門戸を扼し、大小五十餘の島嶼より成る、澎湖島(大山嶼)、北海島(白沙島)、漁翁島(西嶼)最も大なり。

澎湖島は、漁翁島と相對して、大灣を擁す、澎湖港これなり、港内水深く、無比の良港なり、澎湖島の西南部に馬公港(媽宮港)あり、新開港場の一にして、船舶の碇泊に便なり、其北岸

壯丹社は我琉球人の漂着したるものなり、明治七年西郷従道の出征はこれに關する師な

澎湖群島

澎湖島は火山岩一面之を掩ふ但し噴火口なし

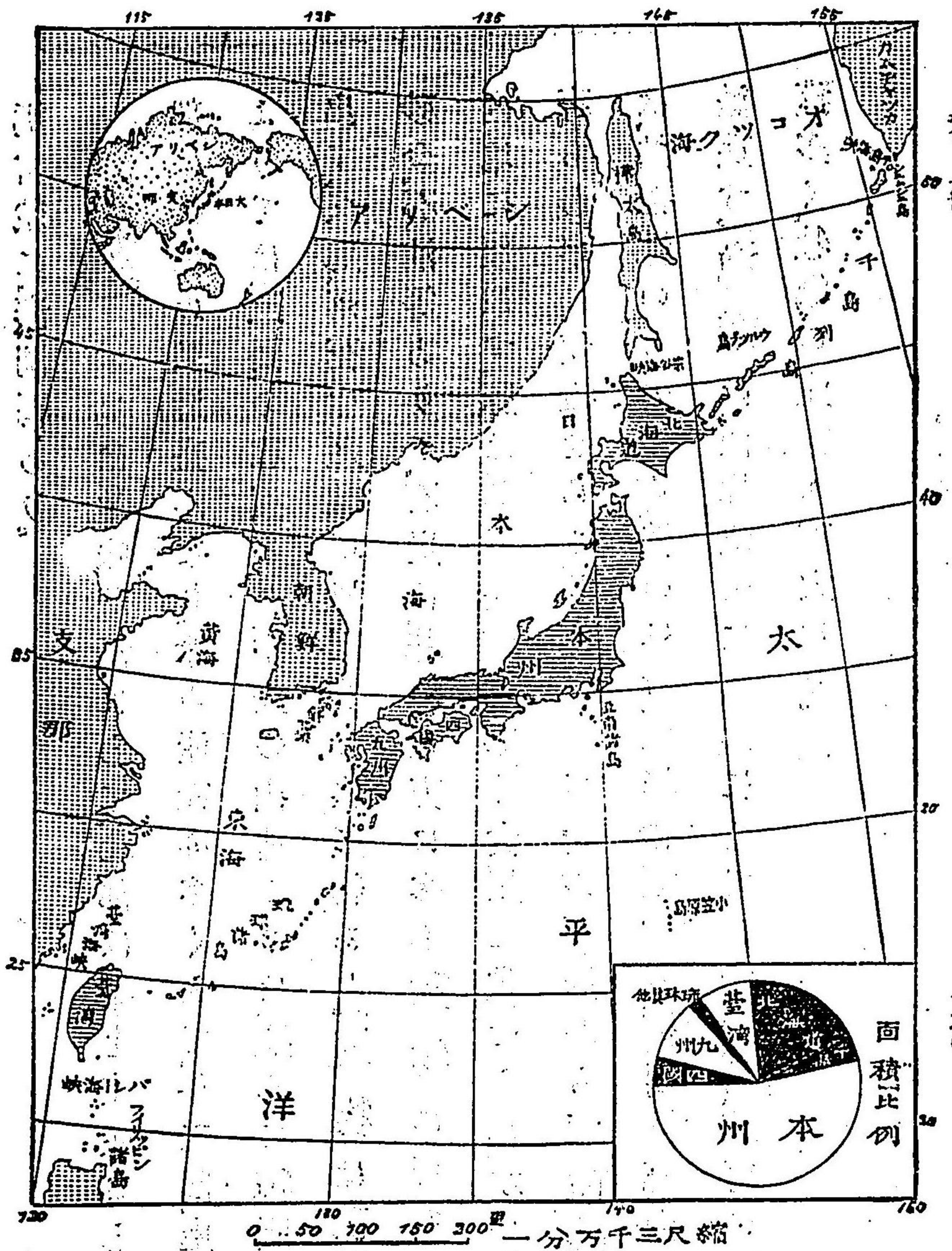
産業

媽宮城に、澎湖廳あり。

(産業)

本島は、地味肥沃にして、北部は、茶を主産とし、南部は、砂糖の製造盛んなり、米の産額亦多くして、年二回、處によりては、三回の收穫あり、中央の山地よりは、盛んに樟腦を出す、又麻、落花生、藍、烟草、鳳梨等の農産物あり。礦物は、硫黃、砂金、石油等ありて、石炭は、基隆地方に多し。動物の種類は、内地に類似す。豚は、其數甚だ夥しく、食用に供せられ、水牛は、専ら農事に使役せらる、其他鹿及び豹の類尠からず。植物は、熱帶性のもの多く、樟の外、竹、松、杉、杪、椴、榕、樹、椰、樹、檳榔、樹等繁茂す。漁業は、西岸沿海に盛んにして、鯉、鯧、鯖、鰆、鰻等の漁獲多く、牡蠣の産額も亦大なり。

日本帝國全國圖



補
極

一
六
〇

後 篇 總 論

第 一 章 天 然 地 理

(位置)

我大日本帝國は、アジア大陸の東部、太平洋中にありて、東北より斜に西南に亘れる列島より成る。本州其中央に位し、北に北州、西南に四國、九州及び臺灣あり。

極西は、澎湖島、花嶼の西端、東經百十九度二十分より起り、極東は、千島シムムシユ島の東端、東經百五十六度三十二分に至り、極南は、臺灣ペーレルレート列岩の南端、北緯二十一度四十五分に起り、極北は、千島アライト島の北端、北緯五十度五十六分に終り、大率北温帯内にあり。樺太島(サガレン島)は、もと我國の領地なりしが、明治八年、千島列島中ウラルツプ以北の諸島と交換して、ロシアに與へたり。

(廣表)

我國は、大小二千有餘の島嶼より成り、周回凡七

廣表

位置

天然地理

千三百餘里面積凡二萬七千六十二方里長さ凡一千三百里にして幅最も廣き所は百里に垂んとす。

本州は帝國全面積の十分の六を占め、北海道は本州の三分の一に當り、九州は本州の六分の一、北海道の二分の一に當り、四國は九州の二分の一に相當し、臺灣は約ね九州に等し。

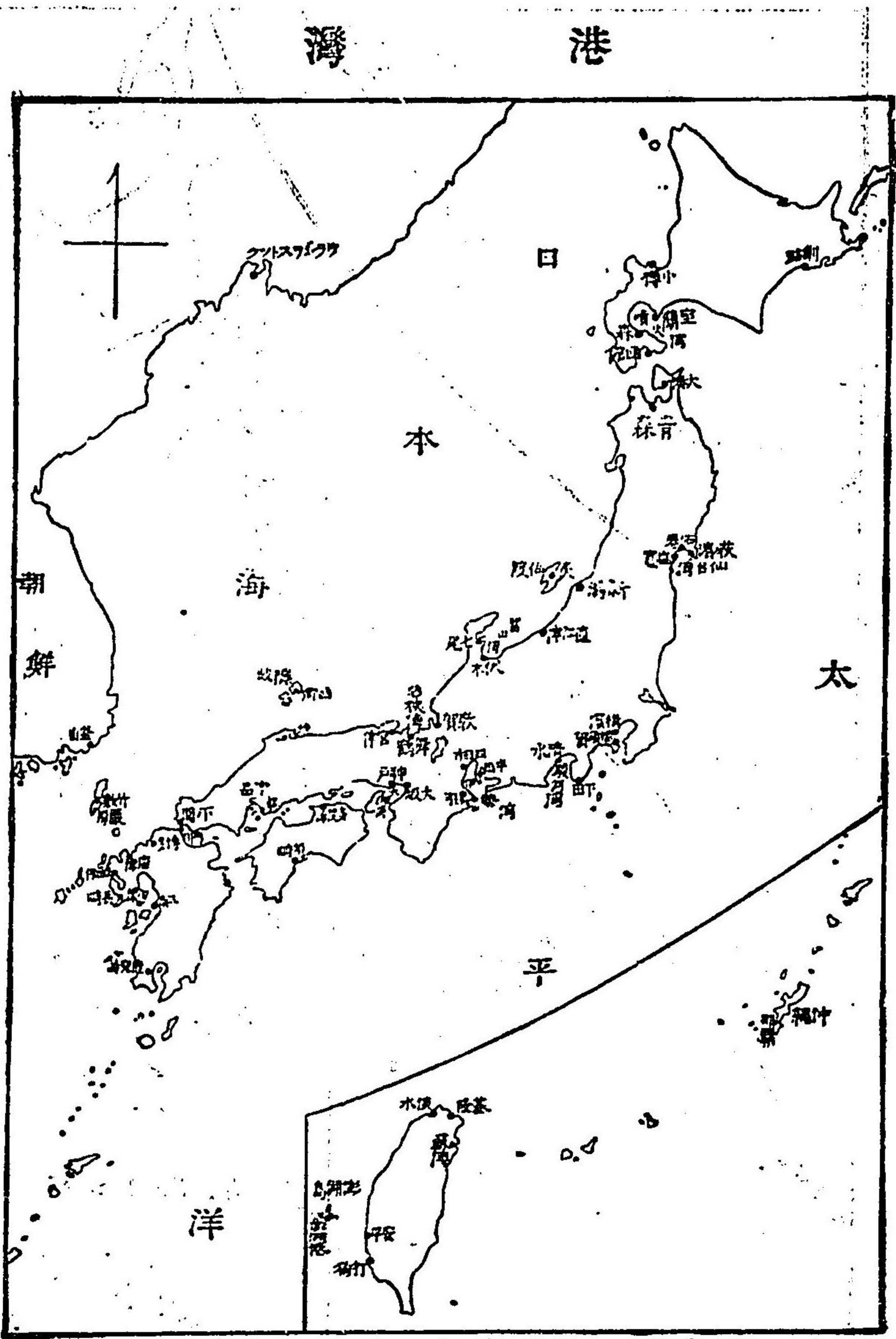
海岸線

我國は海岸線の關係に於て文明國たるべき資格を有す

(海岸線) 凡て土地の面積に對する海岸線の長短は、其國の隆否に關すること大なり。我國は海岸の屈曲頗る甚しきを以て、海岸線甚だ長く、其延長七千三百餘里に及ぶ。而して北海道、四國、臺灣は、比較上、海岸の屈曲なれども、本州の西南岸と九州の西岸とは、出入極めて多し。

太平洋沿岸の海岸線は、日本海沿岸のもの、二倍の長さを有す。

四國は臺灣に比し、面積凡二分の一なれども、海岸線は却て二倍以上なり、九州は北海道に比し、面積小なれども、海岸線は却て長し。



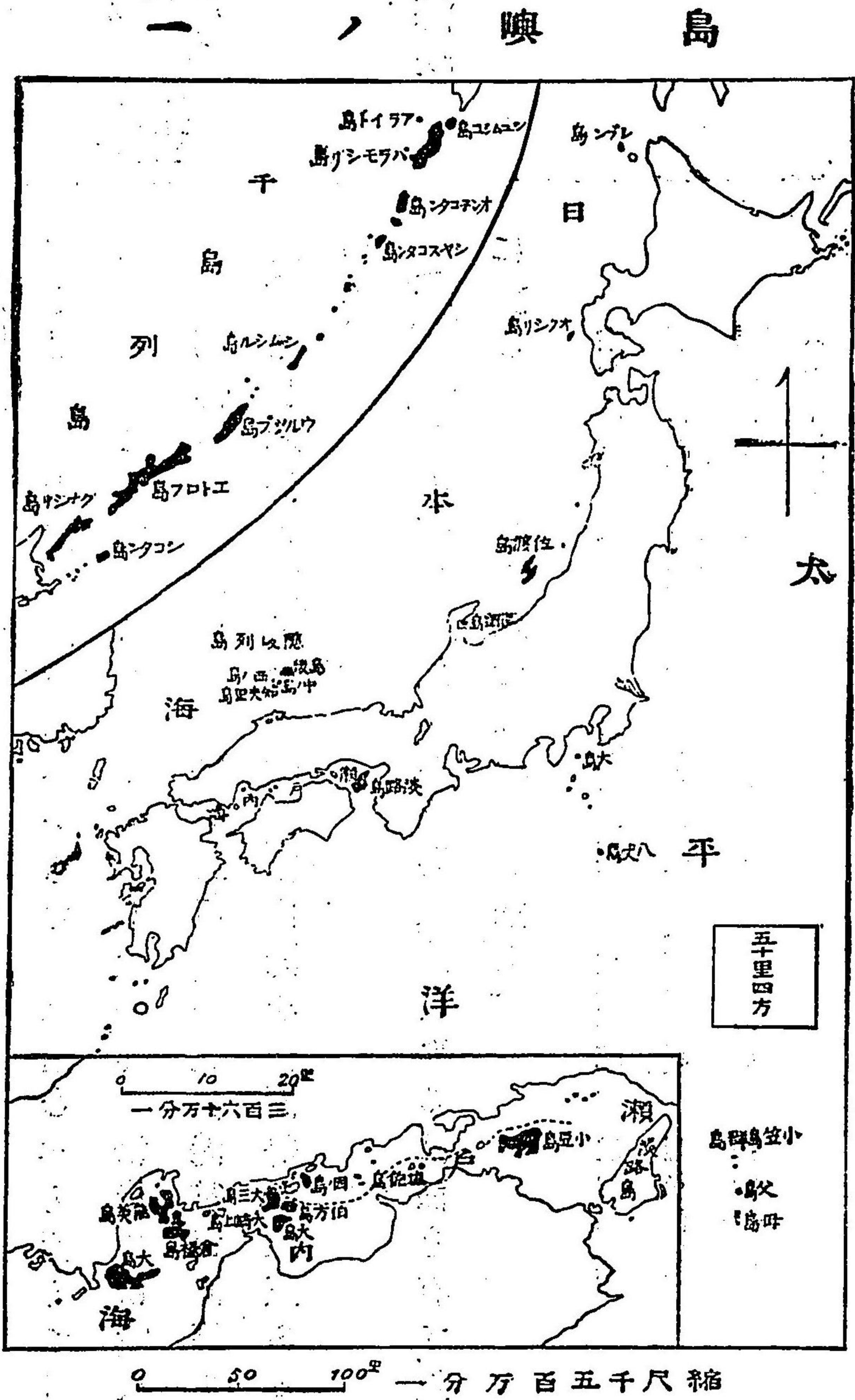
縮尺五千五百分一

島嶼

(島嶼) 我國は島嶼頗る多し左に列擧するは其著しきもののみなり。

- 千島列島 — アライト島 シユムシユ島 パラモシリ島
- オクシリ島 シヤスコタン島 シムシル島
- ウルツブ島 エトロフ島 シコタン島
- クナシリ島
- 北海道 — オクシリ島 レブン島
- 本州 — 豆南諸島 八丈島 淡路島 因ノ島 大崎島
- 小笠原群島 母島 倉橋島 能美島 大島
- 瀬戸内海諸島 中ノ島 西ノ島
- 隠岐諸島 能登島
- 佐渡島

天然地理



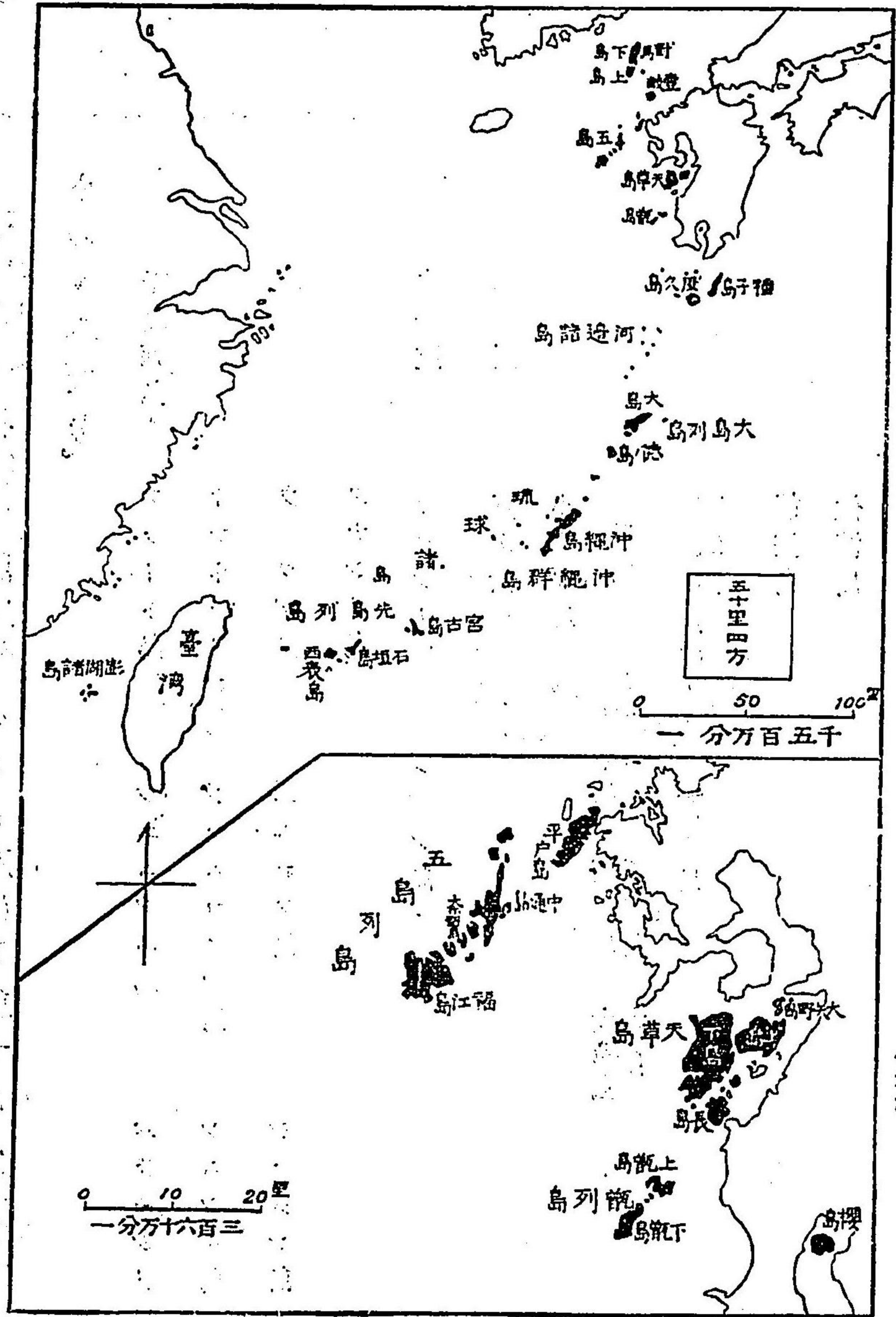
天然地理

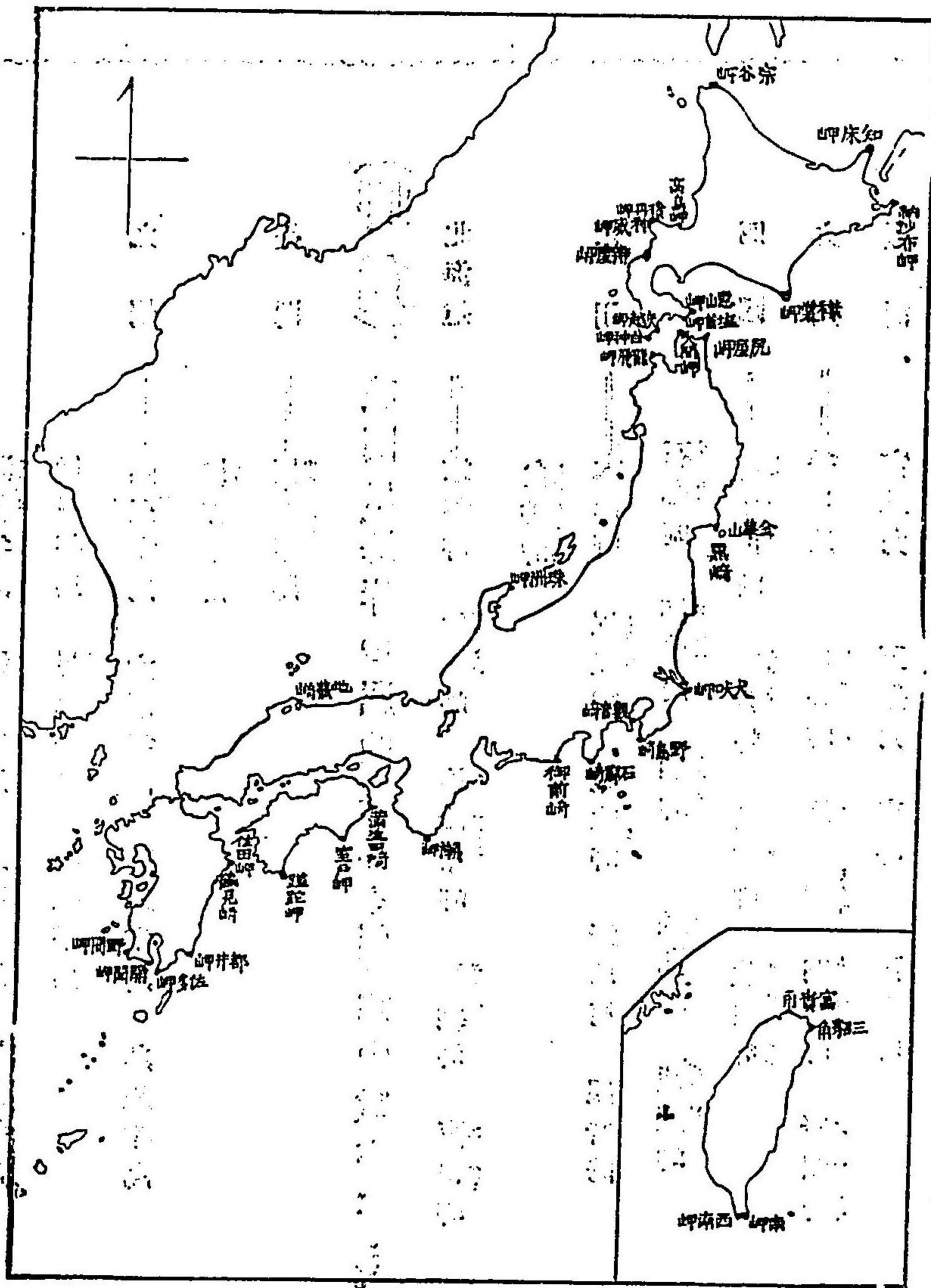
半島

天然地理

- (半島) 半島の主なるもの左の如し。
- 四國 小豆島 鹽飽諸島 大島 伯方島
 - 九州 櫻島 種子島 屋久島 長島
 - 五島列島 上飯島 下飯島 天草諸島 大矢野島
 - 平戸島 中通島 奈留島
 - 大島列島 大島 徳ノ島
 - 對馬島 下上島
 - 琉球諸島 沖繩群島 沖繩島 宮古島 石垣島 西表島
 - 臺灣 澎湖諸島
 - 北海道 知床半島 花咲半島 渡島半島
 - 本州 斗南半島 牡鹿半島 房總半島 三浦半島 伊豆半島

二、島嶼





一分万五千尺縮 100里

地勢

二大山脈

三大火山脈

我國は太平洋沿岸火山脈に屬し、夥多なる布實に夥多なる

(地勢) 我邦は、斜に彎曲して、恰も弓形をなし、其凸面は、太平洋に向ひ、凹面は、日本海を擁してアジア大陸に對す。これ即ち我地體を構成する所の崑崙樺太二大山系の方向に依るものにして、其相會するところは、本州中、幅員最も廣く地勢極めて高峻なり。

此二大山系の外に、富士、霧島、千島の三大火山脈あり、富士火山脈は、中部を横ぎり、霧島火山脈は、西南に、千島火山脈は、東北に現はる。本邦の地勢は、専ら此二大山系と、三大火山脈との支配する所なり。

二大山系の、日本海に面する山脈と、太平洋に面する山脈とを、比較するに、甲は、火山に富み、地層混雜すれども、乙は、火山極めて少く、地層稍整然たり、而して日本海に面する方を内帯と名づけ、太平洋に面する方を、外帯と名づく。